

マンガ大賞

Cartoon grand prize

2013 マンガ読みが選ぶ2012年の一推!



ありがとうございました。
みんなでいただきます。

吉田 秘生

マンガ大賞 2013 決定！ 選考員コメント掲載！

マンガ大賞
2013 マンガ大賞決定！
選考員コメント掲載！

マンガ大賞2013 大賞受賞作品

月刊フラワーズ / 小学館

「海街 diary」 吉田秋生

選考員コメント・1次選考

- 読み終わっても近くに海があるような錯覚が続いている。実際にいそうな人達、ありそうな店、そんな街の描写も魅力。

声優 / 後藤 邑子

- 中学生を主人公にした物語だが、普通の学園ものとはまったく違い、話の奥行きが非常に深い。登場人物それぞれの人生が、それぞれひとつの物語になっており、それがまた複雑に絡み合っ、大きな物語を作っている。特に5巻は人の生死がテーマになっていて、心に響いた。

主婦 / 安田 奈緒美

- 4姉妹それぞれの葛藤や成長が奇をてらわず描かれている。

会社経営者 / 小野 ゆうこ

- どんな人にも勧められるマンガ。そんなマンガあんまりないと思うんですよね。毎年投票してて、もうみんな知ってるんで、どうしようか悩んだんですけど、やっぱり入れました。

オフィスオーガスタ マネージャー / 樋口 健

- 恋愛や家族や友人など、他者と自己とのつながりを真摯に描いたまんが。どんな読み手にも必ずどこかに心に響くシーンや言葉があるはず。響きすぎることも多々あるので、外で読むのは注意が必要。

シンガーソングライターの妻 / 谷澤由香里

- 年に一冊ペースで刊行されているので、ずいぶん前からの作品のような気もしますが、やっぱりすきなものはすきなもので。「家族のつながり」というのはもちろん作品の根底に流れる大きなテーマではあります。ただ、個々に思いをはせることも様々で、実際のところ、思っている以上に「生活」していくってことは平坦ではないのですけれども、それを拒絶するのではなく、受け入れた上でどう向き合うか。この作品は、決して荒ぶることなく、「ちゃんと」生きることに向き合っている真摯な人々の生活の一片をみせてくれる。ひとりじゃどうすることもできないとき、家族がいる。仲間がいる。それがどれほどかけがえのないものかということ、常に頭の片隅にとどめさせておいてくれる、私にとって大切な作品です。もっともっともっと評価されていいはず！

オリオン書房ノルテ店 / 池本 美和

- 圧倒的完成度。素晴らしいマンガ、というよりも、文学・映画といったジャンルすべてを合わせた中でも抜きん出た作品だと思う。隙もなく、無駄もなく、複雑なのに分かりやすいストーリー構成。文学的だったり、映画的だったり、漫画チックだったり場面ごとに効果的な作画演出。読後は、続きを読みたいという欲求よりも、もう一度読み返したいという気持ちのほうが上回る。すべてが極上の短編で成り立っている連作形式だからか。引越しばかりで幼少から同じ場所に長年住んだことのない私の個人的な意見としては、知り合いの知り合いが知り合いだったという展開が多いので、湘南ってそんな小さな村レベルのコミュニティーなの？というのが唯一の疑問としてはありますが。

丸善・ジュンク堂書店営業本部 コミック総括担当 / 小磯 洋

- 5巻まで読み終わったとき、少ししてから、泣いてしまった。読みながら泣くことはあっても、読み終わって、しみじみと泣いてくるマンガは私の中ではめずらしい。登場人物たちの誠実さと狡さと思慮深さ。どうにもならないけど、受け入れて生きて行くこと。目を背けられない悔しさ。それらを優しく擁立する世界が、なんとも言えない嬉しさと悲しさを遅れて連れてきた。1巻のころから5巻のころまでで、主人公の住む舞台はだんだん狭くなっていく。1年住む間に、いろいろな人間関係が知らないところでつながっていき、傷つけたくない人が増え、「モヤモヤ」が出来ていく。スズが新天地で暮らして行く1年は、多くの人が抱えるリアルじゃないかと思う。その中で誠実に向き合ってもがける主人公を、羨ましいと思いつつ共感し、そのことで癒されたと感じた。真面目に話してしまいましたが、そのくらいこのマンガを多くの人に勧めたい。

フリー WEB デザイナー / 河本 智芳

選考員コメント・2次選考

- 『人とのつながり』から生まれる様々な縁や想いがひとつひとつ心に染み入る作品です。重いテーマながら温かく描かれていて鎌倉の町並みや空気感が伝わってくる何度も読み返したい名作です

有隣堂書店販売事業部 仕入販促グループ 書籍担当 係長 / 徳永 あけみ

- 4巻で「ヒマラヤの鶴」を読んだとき、ここがこの物語のピークかと思っていたのですが、そんな浅薄な予想なぞ軽く蹴散らしてくれました。四姉妹だけでなく全ての登場人物が主役にもなり、脇役にもなる、そんな厚みのある物語です。高校生のときに「BANANA FISH」に出会ってから20年以上続く吉田秋生祭りは今も続行中です。

米子東高校 司書 / 野間 勤

- 「生きる」ということに寄り添ってくれている。ページをめくるたびに、いつもそう思う。ものすごく前向きなわけでも、驚くほど悲劇的なわけでもない。ただ、たぶん「起こってもおかしくない」くらいの出来事が、よいことも、わるいことも、描かれていく。私は好きです。大きい物語ではないけれど、世界を変えるような激しさもなければ怒涛さも驚きもないけれど。毎日を、周囲を、そして自分を。いとおしく思いながら生きていかせてくれる物語。そんなものに出会えることが、幸運じゃなかったら何だと言うの？この作品と共に、年を重ねられるのが嬉しくてなりません。あなたにも、そう思って頂けたら何よりです。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中 香織

- マンガ大賞でしょ？まずこれを大賞にせずはどうするんですか。

オフィスオーガスタ マネージャー / 樋口 健

- 派手さはないが静かに深く暖かく丁寧に物語が進行していきます。登場人物の息遣いが伝わるような、リアリティのある作品だと感じました。どっぷり感情移入させられます。よくできた小説を読んでいるような気持ちです。

株式会社アルナシステム代表取締役 / 平田 淳

- みんなに色んなことがおこるのだけど、巻がふえるごとに絆が深まっていくところが好き。つつい近所のおばちゃん的気分で自分も関わってるかのような錯覚におちるマンガです

カメラマン / 平沼 久奈

- 人は生きてると表からは分からないけど思うよりも大きな悩みや傷を抱えていることが多い。だけれども時間は勝手に進むし、へこたれてばかりいられない！そう思わせてくれるさ作品です。派手さはありませんが、リアルで等身大なストーリーがとても身に染み入ります。

バイイングマネージャー / 日吉 雄

- …とても良いマンガです!!! 家族。とは。友情とは。夢とは。恋とは。心が温くなる。苦しくもなるけれど、たぶん読んでいる時に流れているこの涙はいい涙だと思う。全員生きているなあ読んでいると同じ時を鎌倉で生活している感覚になります。余談ですがしらすトーストとアジフライが食べたくて仕方ないです。

ヴァイオリニスト / 佐藤 帆乃佳

- 鎌倉で過ごす姉妹の物語で、家族のつながり、地域のつながりを軸に物語が展開してゆきます。ほのぼのした情景を思い浮かべがちですが、悲しいこと、つらいこともちゃんと起こります。その中でも主人公は日々の生活を維持し、姉妹で協力してたくましく生きていきます。このマンガですごいなと思うところはすべてが実際に起こり得そうなぐらいのレベルの出来事で構成されていること。そのバランスがよすぎる気がします。そのため、すごく身近に感じられて、内容がずっと心にはいつてきます。浮いたり沈んだりするけど、淡々と進む日常。いろんなことを考えながら乗り越えていかないといけない。なんとなく生きてゆくってことはこういくことなのかなってごく自然に思えました。こうなんだよ！って主張を突きつけられるのではなく、じんわりと自然に心に入って来る感じで。優しい気分になりたいときはぜひ読んでほしい一冊です。ちなみに、このマンガは一卷ごとに副題が違うのですが、一卷でその副題に収束するように物語が進むのもとても美しいです。特に最新刊の群青は見事につながります。読み終わった時にお見事！って感じで心がすっとして、とてもいい気分になれました。

Sler 主任 / 廣瀬 公将

- 今まで未読だったので今回ようやく手に取ってみたのですが、なぜ私、今まで読もうとしなかった！と過去の自分を責めたい。四姉妹をとりまく環境は意外とヘビーですが、それでもほのぼのと読めてしまうのは作者の力量でしょうか。安心して人に薦められる作品だと思えます。

リプロ池袋本店 コミック係 / 小池 由記

- 今年の作品か？っていう話になると、まあ違うんだろうなあとも思いますが、やっぱりいい作品はいい作品なので。日々のいいことも悪いことも、困ったことも嬉しかったことも、常に平等に扱っているエピソードの数々。それは本当に私たちがリアルタイムで過ごしていることであって。そういったことに必要以上に動揺せず、ひたすら真摯に向き合う姉妹の姿勢がすてきなあと。こうありたいなあ。いつも思っているのですが。まあ、むずかしいですね。たはは。読むたびに背筋がしゃんとする、大好きな作品です。

オリオン書房ノルテ店 / 池本 美和

- 哀しくて切なくて涙がこぼれそうになる時も楽しくて可笑しくて笑顔になる時も家族や友達と一緒に感じる事が出来るそんな幸せと恥ずかしもなく言っちゃいたくなる『海街 diary』が本当に好きなんです

コロムビア・マーケティング株式会社 福岡営業所 / 阿部 大介

- 鎌倉にいけば、主人公たちがあの細い道をワイワイ言いながら歩いていそう。。。そんな漫画です。複雑な家庭環境・人間模様から静かに、強く生きる人たち。シリアスな中にもユーモアもあり、堅苦しくありません。次の巻まで、一体どのくらい待てばいいのだろうー（涙）！

リアライズ・モバイル・コミュニケーションズ / 金子 幸恵

- 1話1話がぎゅっとして読んでいて、とてもいとおしくなる作品。鎌倉の四姉妹、それを囲むまわりのひとたち。胸がほんわかしたり、ぎゅっとなったり。いろんな気持ちがわきあがります。大事に大事にしていきたい漫画です。もっとたくさんの人に知ってもらいたいです。

ブックエース上荒川店 / 倉本 かおり

- 吉田先生とこの作品がある種のマンガ表現の最高峰なのはいまさら言うまでもないのですが、まさか絶品のグルメマンガになるとは思ってませんでした。

コミックナタリー編集長 / 唐木 元

- すぼっとハマりました。物語が進むにつれて、繋がりが重なっていくことに一喜一憂できるのは、読んだ者だけが味わえる幸福。

株式会社ネビュラプロジェクト / 小森 和博

- 実話の迫力や実体験の説得力で読ませるマンガが最近多いかなと思う。今回の候補作にもいくつかありました。もちろんそれはそれで大いに「アリ」なのですが、丁寧に作り込まれたフィクションが、高度な技量をもってビジュアルに展開されるマンガを読む時の味わいは、やはり何ものにも代え難いマンガならではの醍醐味だと感じられてなりません。フィクションなのに、絵なのに、物語なのに、ものすごくリアル。「海街D i a r y」はそんなマンガならではの面白さを一貫して追い求めてきた（に違いない）吉田秋生ワールドの集大成というか、洗練の極みという印象があります。鎌倉を舞台に、静謐だけどなんと「染みる」エピソードを積み重ね、ひとの気持ちという不可思議でいとおしいものを丁寧に丁寧に映し出していく。日本映画の名作を観るような、というよりもそれらにある意味で超えた、と言いたい。5巻で展開されるひとの生き死ににまつわるストーリーを読んで、何も感じない大人の読者はいないと思いたい。お勧めという点で今回イチ押し。続巻を静かな気持ちで待ちたい。

日本経済新聞記者 / 天野 賢一

- 「文学的な」「映画のよう」といった、他の表現手段を引用する評価はあまり好きでないのだが、マンガとして読んでいてこれほど「映像が目につかぶ」作品は他に思いつかない。ほとんどがキャラクター達の会話で進行するにも関わらず、彼らの言葉を発した時の内なる感情が、ストレートに読み手の心に響いてくるからだろう。これもまたマンガという表現の至高のレベルだと思う。もう一つ、舞台となる「鎌倉」という土地への愛情も深く伝わってきて、じんわり嬉しい。

コミティア実行委員会代表 / 中村 公彦

- 改めて全巻読み返してみたらこれだけトラウマや難病や死を描いておきながらここまで読後感が爽やかな話、ってないな、と。1年1冊。これからものんびりと書き続けて欲しい1作です。

ヴィレッジヴァンガード沖縄エリア エリアマネージャー / 大山 敏樹

- 登場人物がかみあっているなあ、と思います。それぞれのいいところも、成長していくところも、全て有機的に絡み合っていて、それが物語に深みを与えていると思います。無駄なキャラ付けがないから、みんなが生きるんだらうなあと感じます。

会社員 / 林

- 女四人姉妹それぞれにスポットライトを当てつつ、ゆるやかな時間の流れと、成長を丁寧に描く。非常に上質な作品。鎌倉に行きたくなります。

ブロガー / サイトウ マサトク

- 淡々と紡がれる物語は、読む時期、読む人の立場によって受け止め方が随分変わってくるのだらうと思う。避けて通れない事柄や、悲しい事があっても人は想いを寄せ合い生きていくのだらうといういろいろ考えさせてくれる。さざなみのようにうちでは返し、何かを心に残していく物語の行く末を見守りたい。

主婦 / 戸田 仁美

- ずっと大好きな作品。こころの触れ合い、あたたかさ、しあわせのみつけ方。傷つくことも傷つけてしまうこともあるけれど、ゆるやかに、柔らかに…生きるヒントがいっぱいです。鎌倉にすんでみたいなあ～

フジテレビアナウンサー / 松尾 翠

- 第1次投票の時にコメントを書きなぐったので、そのあたりは割愛しますが、今このタイミングで一番自分に響いたマンガです。みんなに勧めたい。読むときは、ぜひ5巻までまとめて読んでほしいです。

フリー WEB デザイナー / 河本 智芳

- ときめき、矜持、迷い、悔恨、わだかまり…繊細な心の動きを巧みに紡ぎ出し、小さな街の人模様を織りあげる名人芸。これ見よがしな技巧もひねった構成もあざとい展開もなく、作品の中を確かに生きている人々の自然な営みが、落ち着いた味わいの綾織りとなっていく。恋するすずの顔がほんのちょっとずつ大人びていくのも、お見事！

朝日新聞記者 / 小原 篤

- 奇をてらわない、人を丁寧に扱う視点に共感できる。4姉妹や周辺の人たちの強さや弱さが自分と重なり作品の世界に静かに引き込まれていく。

会社経営者 / 小野 ゆうこ

- ただでさえ構成・演出のうまい作家が円熟味を増した、1編1編がすべて傑作の連作短編集。何度読んでも飽きない。文学的・映画的でありながら、漫画ならではの表現で描かれていて、漫画でしか成り立たない作品でもある。

丸善・ジュンク堂書店営業本部 コミック総括担当 / 小磯 洋

- 不倫した父親が飛び出した家に残して来た、母親の違う姉たちのもとに引き取られる少女が主人公で、その姉たちも、勤め先の男性と不倫をしたり、ダメな男に引っかかったりと奔放な生き様。一方で、少女の同級生は病気で脚を切断して得意のサッカーを諦めざるを得なくなり、少女の知り合いの女性は遺産の相続争いに悩みつつ、自身は病気で余命いくばくもないという、そんなドロドロにグチャグチャな人間模様が描かれているにも関わらず、静かで明るくて、優しく前向きな雰囲気に溢れているのは、時にコミカルで全体として丁寧な筆致の成せる技。ジーンワリとにじんてくる人の心の機微を感じ、喧噪にあたふたしてばかりのわが身を省みて静かに、確かに生きる大切さをつかみとろう。

書評家 / タニグチリウイチ

- 初期の軽妙なノリも楽しかったが、近刊での個々の登場人物の掘り下げの巧みさはさすが。ゆるやかに進む日常の中での喜怒哀楽がバランス良く描かれていくのはいかにも吉田秋生流。第1回のマンガ大賞 2008 に続いてこの作品を推せる幸せを噛みしめたい。

同人誌研究家 まんが評論家 / 三崎 尚人

- 大人は大人であり、子どもは子どもである、ということをはっきり告げるマンガだと思う。どれだけ子どもがしっかりしていようと、どれだけ大人と仲良しだろうと、それぞれの場所にまず、立つことから始めないといけないのだなあ、と。私も成熟した大人でありたいという気持ちを強くした。

マンガライター / 門倉 紫麻

- 古都・鎌倉に暮らす四姉妹の物語。3人の姉にとっては、異母妹にあたる「すず」を軸に、家族の情景を描く。姉たちが直面する切ない恋物語あり、ほろ苦い初恋話あり、さらにはバカでお調子ものの男子が、あるとき、“いい男”に脱皮していく様子も鮮やかに切り取る。人物描写がじんわり心にしみ込み、何度も読み返したくなる。

ライター・編集 / 鳥影 真奈美

- 人間ドラマって感じがする。ほんわかしているが、内容がしっかりしている。魅せられる。読まされる。すごい。※僅差で ぼくらのファンカ祭 がつめてました。

金沢ビーンズ 明文堂書店 / 木村 俊介

- 家族愛。姉妹愛。人と人の繋がりがどんどん疎くなってゆく社会の中で、しっかりと人間関係を築き育てている登場人物たち。どこかホッとさせられる半面、今の自分に足りない部分を提示されているような気持ちにもなる。まさに秀作!!!

本と文具ツモリ / 津守 晋祐

- じんわりくる。私はこの漫画の影響で鎌倉が大好きになった。

シンガー / 山野井 千佳

- もう、ひれ伏すしかありません。すべての登場人物が、頭と心をどこまでも丁寧に使って生きています。中学生も、お医者さんも、死期を悟った女性も、未亡人も、その家族も。起きる事件は必ずしもイージーなものではないのに、そこで、誰かのせいにするどころか、逃げたり、任せたりすらない。それを、鎌倉という舞台が、静かにまるごと受け止めている、オトナの超良品マンガです。

ニッポン放送アナウンサー / 吉田 尚記

- ぜひ多くの方に読んでいただきたい傑作。ちょっと複雑な事情のある四姉妹の日常、というところから感じるが、この物語の奥深さは言葉では言い尽くせない。姉妹だけでなく、登場人物ひとりひとりの物語、どれをとってもずしんと心に響く。でもそれは重いというより、じんわりと温かく、少し切ない。人間の長所も短所もひっくり返して愛するかなのような、作者の懐の大きさを感じる。

主婦 / 安田 奈緒美

- 現代の「若草物語」。4姉妹物の新しい傑作。

お菓子研究家 / 福田 里香

マンガ大賞2013 ノミネート作品

Fellows! / エンターブレイン

「乙嫁語り」 森薫

選考員コメント・1次選考

■ しきたりとか、習慣とか、いろんな枠組みが強くはたっていた時代にあっても、やっぱり結婚するとなればいろんなことを考えたのだらうと思います。今のように「自分」「自己」にこだわるということではないですが、これから生きていくことや家のことなどは現代以上に考えたことだと思います。そういったことを明るく可愛らしく描けるところがすごい。

会社員 / 林

■ 女性の魅力が半端ない。私は女だけどもいつも誰かに惚れる。可能ならめとりたい。

声優 / 後藤 邑子

■ 絵の描き込みがハンパない。芸術的な美しさ、丁寧さ。手触りや土ぼこり、匂いまでもしそうな画面に、すっぴりはまりこんでしまう。異民族の世界を、実に丹念に描写しており、読み応えがある。

主婦 / 安田 奈緒美

■ 19世紀中央アジアを舞台に、12歳の夫より8歳上の天真爛漫なアミル、次々に夫を亡くし義母と二人暮らしのタラス、そして双子のいたずらっこライラとレイリ。魅力的なキャラクターをアーティストックなまでのタッチで描く森薫ワールド全開な作品です。頑強なまでの男社会の中、どのように女性たちが生きていたのか、生活の中の文化、自然との共生といった様子を丁寧に描いています。旅のイギリス人であるスミスが主人公、と4巻の帯に書いてありましたが（それまで知りませんでした（汗）…）、視点はもっとそれぞれのお嫁さん寄りです。

国分寺市議会議員 / 三葛 敦志

■ マンガで伝えられるものの可能性の素晴らしさを感じました。他では表現できないものじゃないでしょうか。

オフィスオーガスタ マネージャー / 樋口 健

■ 中央アジアに行ってたんですか！？と思うぐらい精密な描写と、躍動感あふれる人物が魅力的。作品を読むと、自由な遊牧民が暮らす中央アジアの世界に一気にタイムスリップしてしまいます。

リアライズ・モバイル・コミュニケーションズ / 金子 幸恵

■ 機は熟した！森ワールドを読感するべし！

株式会社ネビュラプロジェクト / 小森 和博

■ きっとセリフ全部外しても、話通じてしまうだろう凄いマンガ。ほら、このマンガ凄いだらうって言いたいし、人に見せたいし、読ませたいし。

クリエイティブディレクター / モリサワ タケシ

選考員コメント・2次選考

- 19世紀中央アジア。それぞれの乙嫁が織りなす、結婚を巡るいくつかのお話です。精一杯に時代を生きる人々の日常が繊細な筆致で語られていて、まるで絵巻物のよう。彫刻や刺繍にまで着目し、その美しさに引き込んでいく森薫先生の描写力には脱帽です。後の歴史を知っている我々からすると、少しずつ近づいてくるロシアの脅威を前にしての危うさが通奏低音のようにも感じられますが。なお、一次審査の際にも書きましたが、主人公は旅のイギリス人であるスミス、だそうです。アミルじゃなかったんだ…。

国分寺市議会議員 / 国分寺市議会議員

- 雰囲気が好きです。時間をかけて味わいたい名作。

漫画全巻ドットコム 代表 / 安藤 拓郎

- 次々登場して来る乙嫁たちがキラキラ輝いていて遠い異国の文化や風習に興味深く引き込まれる。繊細に描き込まれた絵柄と独特の世界観はさすがの読み応えです

有隣堂書店販売事業部 仕入販促グループ 書籍担当 係長 / 徳永 あけみ

- 細やかな描写やアミルさんの表情ひとつとっても、他の漫画には中々出すことのできないものがあると思います。何より森薫先生が楽しんでこの漫画を描いていらしているんだらうなあと思うし、言葉が多いように感じないのに、描写でそれ以上のことが伝わってくる素晴らしい作品です！

オタクタレント / 喜屋武 ちあき

- このマンガ、西域好きにはたまらんです。先日、本棚を整理したら井上靖『楼蘭』が3冊も出てきました。敦煌とか、楼蘭とか、本屋で見つけるとついフラフラと買っちゃうんでしょうね。もう性分なんだと思います。周りの人たちによると、祖父がしてくれた戦中の西域の話は何度も飽きずに聴いていたようです。登場人物たちが織りなす物語が面白いのは勿論なのですが、彼ら、彼女らが着ている衣装の模様や、装飾品などの形なども目を楽しませてくれます。2, 3度くらいじゃ楽しみ尽くせないので、枕元に置いて気になるといついつ読み返してしまいます。

米子東高校 司書 / 野間 勤

- 様々な地域の風習や生活がかいまみえる新しいタイプのマンガ。次はどんな人たちと出会えるんだろ〜と自分が旅をしている感覚にさせてくれるマンガ。

ネクスト KG マネージャー / 藤井 紀公

- 昨年、一昨年も候補に挙げさせて頂きましたが、今でも何度も繰り返し読んでしまう、そういう引力を持った漫画。この作品を読むと、本当に全登場人物がいきいきとしていて、作者の深い愛情がこもった作品なんだなあと感じます。19世紀の中央アジア、日本と遠くなかなか知り得ない文化と、時間と場所が違って変わらない夫婦や親子の愛情の物語。美しい絵でしっかり読ませてくれる、いつまでも手元に残しておきたい漫画です。

フルハウス八戸ノ里店 店長 / 佐藤 誠

- 現代人が忘れてしまった大事なことが沢山描かれています。僕も現代人ですが。

オフィスオーガスタ マネージャー / 樋口 健

- とにかく絵の描き込みが凄い。よくもまあ、ストーリーものでここまでのエネルギーを注げるものだと感銘。そして肝心のストーリーがまたいい。作者自身が大事に思っていること、伝えたいことが自然に伝わってくる良作だと思います。

株式会社アルナシステム代表取締役 / 平田 淳

- 壮大なストーリーは特にはないのですが、作者の『この世界観が好き』という情熱に溢れている。一緒に『あーいいよねー』と思えばお気に入りの一作となり得るのですが、評価はわかるかも。私は好きです。アリです。鷹 L O V E です。

リプロ池袋本店 コミック係 / 小池 由記

- この作品を読んでいると、まさに作品の時代、描かれている中央ユーラシアにタイムスリップしたような気分になります。華やかな披露宴、隣同士のご近所さんとの交流、特徴的な衣装。その裏で鹿や鳥を狩り、生きた羊を捌くといった生々しいまでの生きるための生殺与奪の行使。表も裏も、隅々まで「生活」と「文化」を味わえると思いました。

リアライズ・モバイル・コミュニケーションズ / 金子 幸恵

- 異国の文化を丁寧に描いている世界にいつも引き込まれます。絵に引けをとらないストーリーにも引き込まれます。生まれながらに決まっているような結婚もそれを自然に受けとめていくたくましくてしなやかな主人公たちに魅了されます。

ブックエース上荒川店 / 倉本 かおり

- 森さんはそりゃ絵も仕事への姿勢もすごいんですが、常に最新刊が彼女のキャリアで最高に面白い、という、陳腐ですらある褒め言葉をほんとうに達成しているところがすごいです。森さんのことをただの「描き込みの凄まじい絵の上手い星人」だと思ってる人は、乙嫁5巻の痛快無比っぷりを読んでみてください。

コミックナタリー編集長 / 唐木 元

- これも唯一無二と思わせる作品。主人公を複数出すことで、話の流れを面白いものになっている。途中から入った読者についていけないのが難点かもしれないが、そのマイナスを差し引いても読む価値がある。また、日本になじみのない中央アジアの風土は、「日本と違う世界にも生活の営みがある」と改めて感じさせてくれる。この視点を認識するためだけでも読む価値はあるのでは。

毎日新聞デジタル「まんたんウェブ編集部」副編集長 / 河村 成浩

- タラスの長い髪があらわになるシーンが好きです。女性が美しく、男性が凛々しい。絵に見入ってしまいます。私の一位はこの作品でした。今回のノミネート作品は、生きるということを問われているような、突きつけられているようなものが多かったように思います。楽になること、自由になることを求めて進化し続けてきた世界で、のんびり息をして、SNSの海に頭から突っ込んでいる私のような臍抜けには、羊もさばけないうさぎの頭も撃てない。ゴキブリには勝てないし触手の先生もころせない…！そしてしきたりの所為で好きな人と結婚できないなんて意味わからない…！と頭を抱えます。しかし、がんじがらめとも思える文化や風習、不便な事ばかりに見える暮らしの中に、美しく深い豊かさ、絶対的にそれに従い生きている人々の中に、ゆるぎない強さとあふれる愛や慈しみが見てとれて、ああこれは今ここにはない、と羨ましくもなるのです。かといって到底彼らのような生き方はできないし生きることを問われたって正しく変わることはできないと確信しているあたり私はやはり全力で臍抜けなのですが、私たちの世界には私たちの世界にしかない、この世界だからこそ生まれるものがあるといいなと、ありますようにと、ただ小さく願ってみるのみです。そしてもう一つ願い事。スミスとタラスが幸せになりますように！

金海堂イオン隼人国分店 コミック担当 / 園田 美智子

- 前は始まったばかりということもあり推し切れなかったが、今回は何のためらいもなし。熱く血の通ったキャラクター、フェティッシュで変態的な描き込み、日々の暮らしをいとおしく輝かせる語り口、いずれもハイレベルの一品。あの傑作『エマ』に立ち止まらない精進には頭が下がる。森薫先生はマンガ界の宝です。

中央公論新社 文芸局次長 / 石田 汗太

- 2次投票の候補作の中で、一番続きを早く読みたい作品です。「嫁ぐこと」の意味が今よりずっと家族全体にとって大きな意味を持った時代と地域で、でもその中の各キャラクターのここの気持ちが、かわいらしさが伝わってきます。「乙嫁」の名にふさわしい、かわいいお嫁さんばかりです。

会社員 / 林

- 双子が可愛いです！食べ物美味しそうです。

ジャック鷺津駅前ブック館 コミック担当 / 内藤沙織

■ ふしぎ！別の世界につれていかれる！

文筆業 / 海猫沢 めろん

- 19世紀の中央アジア、12歳のカルルクの元に20歳のアミルが嫁ぐ話から始まる物語は、英国人スミスの目を通して「家」や家族、そこに生きる人々の結び付き、継承されていくもの、そして文化の違いを克明に表していきます。毅然とした佇まいや、壮大な自然、人の営みを愛情深く、丁寧に描かれる背景や装飾品も含め見応えたっぷりです。

主婦 / 戸田 仁美

- 微にいり細にいり描き込まれた遊牧民の価値観や生活。この世界に住む人々が織りなす物語を、当然のように存在している素敵な世界のように、受け止めてしまいます。

教師 / 持丸 宏司

- 丁寧な生活描写と、日々の営みの中に事件があると教えてくれる力強さ。

往来堂書店コミック担当 / 三木 雄太

- Fellows！の雄。テーマが中央アジアというのがこういった絵柄の作家さんにして素敵で、丁寧な絵とあいまって楽しく読めます。

メガマソ / 涼平

- 19世紀後半の中央アジアを舞台に、乙嫁たちの生活を生き活きと描いた秀作である。物語の舞台となる風景・建物の様子や衣服・装飾品の細部まで細密に描き込まれたコマから、作者が作品に費やした膨大なエネルギーが熱く伝わってくる。乙嫁たちのキャラクターも魅力的で多彩。中央アジアで「乙嫁探し」をしたくなる。

弁護士 長島・大野・常松法律事務所 / 三村 量一

- 丹念な上にも丹念な描写を積み重ねていくことで生み出されるリアルと、時に余りにもマンガ的なテイストの融合がいつもながらに絶妙。細かい日常描写が作品の持ち味であるがゆえ、物語の進行がいささかゆっくりなのが気に入らないと言えは嘘にはなるが、タイトルを思えば、またそれも味わいと思うべきか。

同人誌研究家 まんが評論家 / 三崎 尚人

- 圧倒的な広がりや緻密さの同居する作画と、1900年台初頭の中央アジアに暮らす人々の生活・習慣・文化を軸にして展開される「日常」モノの究極系。神は細部に宿るという言葉が体現する作品

住職 / 蟬丸 P

- 実際に行った事も無く見た事もない時代・地域の話の筈なのに、そこに住む人々の息遣いを確かに感じられるのが凄い。ストーリーもシリアスとちょっとしたギャグのバランスが心地よく、緻密に書き込まれた画も圧巻。男性は力強く、女性は柔らかく描かれている点も素晴らしい。全ての年代の人に「読んでみて！」とおススメできます。

ホビー系企業勤務 / 畑中 瀬路奈

- 何回もノミネートされるのは、さすがだと思う。台詞がないところでも読ませる森ワールドがいい♪

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松 由夏

- 大好きなもの、描きたいものを、情熱を持って、しつこく、ただ丁寧に書き続ける才能。そして、イメージ通りに表現できる才能。それらすべてを備えた、稀有な作家であり、それにぴったりの作品（を見つけられるのもまた才能！）。

マンガライター / 門倉 紫麻

- 衣装・紋様の美しさもさることながら、登場する食べ物の美味しそうなこと！ ニンジンの焼きメシ（ポロ）に五目肉うどん（ラグマン）、羊とキジの串焼き（ズィフ・カワブ）、全部食べたい。5巻に出てくる祝宴料理も、もう、もう、もう！ 読むとおなかグーグー鳴り出す作品です

ライター・編集 / 島影 真奈美

- 変質的なまでの衣装の描き込みに宿るフェティシズム。19世紀後半の中央アジアの衣食住や文化・風俗が克明に描かれているが、読後に強く感じたのは「この作品を一番楽しんでいるのは著者自身ではないか？」ということであり、それがまた羨ましくもある。

Web サイト「最後通牒」管理人 / 高嶺 おろし

- 画力に賞賛 !!!

Hair Make Lounge tetote 代表 / 力丸 真

- すでにマンガ好きにはよく知られた作品なので、「あえて今投票することもないか」という気持ちはありますが、ここらで大きな賞を1個獲ってマンガ好き以外にも知られるようになるといいな～ということで1票。前回のノミネートのときは「まだ巻数が少ない」と思ったのですが、5巻まで巻数を重ね、作品としても十分「熟した」ように思っています。

ライター / 芝田 隆広

- 人生の一番の転機であろう結婚を、時代の転機と結びつけつつ離しつつ、ゆっくりとていねいな文脈で綴られて行くようなマンガです。あせる必要も無く落ち着けるわけでもない空気感が今まで感じたことの無い感覚を味わさせてくれるマンガです。

デザイナー / 佐藤ユウ

- 細部には2種類ある。神の宿る細部と神の宿らない細部。このマンガで描かれているのは神の宿る細部。職人の手仕事の確かさとか、想いと願いと歴史が織り入りこまれた刺繍のひとひらとか、生きる糧としての料理の湯気とか、愛した女の笑みとか、ただただそのまんますぎる自然の茫漠さとか。そういう、人々の営みのひとつひとつに宿っている小さくて大事ななにかを、このマンガはとらえているんじゃないかと思う。視界が、急に、輝きと精度を増す感じ。美しい。

ソフトウェアエンジニア / 第貳齋藤

- 出てくる食べ物、さらに絢爛な衣類、建物、道具、その他もろもろ。全て、「手作り」です。そして、その刺繍などがペンで、つまりは手作業で絵に描かれると、なんとも言えない「手間」が作り出す激しいオーラが立ち上ります。その手作りのものに囲まれているこの作品中に出てくる人物たちも、膨大な手間を加えられて生きてきた、周囲の人間たちの手間の賜物であることが、強烈に感じられるんですね。じつに、「身が詰まった」マンガです。あと、専門家の方によると、時代考証がどんどん正しくなっている、進化するマンガ、でもあるそうですよ！

ニッポン放送アナウンサー / 吉田 尚記

- 19世紀中央アジアの、大陸に住む民族の暮らしを描いた力作。ものすごく丁寧で緻密な描きっぷりに、作者のあふれる愛を感じてしまう。この世界観が大好きなんだろうなあ、と（笑）。読んでみると、すっばりとその世界に入り込んでしまって、いつか現実を忘れてしまうほど。読み応えがあります。

主婦 / 安田 奈緒美

- 描き込みが非常に緻密で、最初は目にうるさいんじゃないか？ と思ったけれど、繊細で丁寧な描き込みなので見ていて綺麗だし楽しい。

音楽・ゲームクリエイター / 杉本 善徳

- お嫁さんたちがかわいすぎる。人物、風物、食べ物、着物、描く「物」すべてが美しい。

お菓子研究家 / 福田 里香

マンガ大賞2013 ノミネート作品

月刊少年マガジン / 講談社

「ボールルームへようこそ」竹内友

選考員コメント・1次選考

- 読後なんだか松岡修造なみに熱くなり、スポーツをやろう！！と燃え上がるが、やっぱり何もしたくない・・・だから読む。

株成田本店 とわだ店 / 安田 幸

- ボールルームというタイトル通り競技ダンスの物語。ダンスをやったこともない素人主人公が、ダンスの魅力にはまり、成長していく、王道の展開。しかし画力と躍動感と目力と熱は読むものを虜にする、力のある物語です。続きが気になってしょうがない。熱いコミックです。

三省堂書店海老名店 / 近西 良昌

- ダンスが好きな人間にとって、これだけ熱く、臨場感たっぷり社交ダンスが描かれる作品というのはたまりません！ダンス漫画だけど、少年漫画としてのセオリーはしっかり抑えていて読みやすいです。

オタクタレント / 喜屋武 ちあき

- 基本スポーツ漫画なんですが、ものがソシアルダンスだけに、男女のパートナー関係が中学生と思えぬ色っぽさでドキドキ。いろんな意味でアツい注目作

中央公論新社 文芸局次長 / 石田 汗太

- 久しぶりにハマった漫画。面白くて一気に読んじゃいました。主人公はダンス初心者で、主人公の成長を描く点ではスポーツ漫画などにありがちなんだけど、題材が社交ダンスなのでなかなか新鮮。ダンスシーンには圧倒されました！ダンサーから見える世界ってきっとこんな感じなのかなあ。キャラクターも魅力的。とにかく熱い！おすすめ！

シンガー / 山野井 千佳

- 一話目から面白いマンガに久々にであった。社交ダンスを扱った作品の中でも「スポ根」度数が高い作品。まったくやったことないスポーツを始めてみたら実は天才的にうまかった…みたいな話ではなく、弱い自分を払拭するため無心で練習してちょっとずつ成長していくまさに王道の少年漫画。(だと思う)先が気になる。女の子がかわいいのも癒し。

主婦 (元書店員) / 赤坂 真実

- 楽しそうに踊る躍動感と熱量に。

教師 / 持丸 宏司

- ダンス漫画です。とにかくダンスの描写が凄いです。登場人物の汗が飛び散って来そうな気迫があります。汗びっしょりで鍛え上げられ磨きあげられた肉体の描写がとても美しく凄いかっこいいんです。子供の頃からダンスをしている登場人物たちとの戦いのなか、主人公はどうして自分もっとはやくダンスに出会わなかったのかと泣いてしまうシーンがありますがそれでも今の自分で勝負する姿は the スポ根です。

バンドマン / TA-SHI

- 社交ダンスと言えば、かの「Shall we ダンス？」しか知らない私でも、ダンスの奥深さと情熱がびんびんと伝わってくる作品です。何の取り柄もない主人公・富士田多々良が出会った社交ダンスは、彼の深い才能を開花させていきます。普段おどおどして気が弱いのに、「ここぞという大一番で とんでもなく太え野郎だったんだ」なんて、言われてみたいものですね。スピード感のある絵・構図にもしびれます。

国分寺市議会議員 / 国分寺市議会議員

- ダンスに対するひたむきな姿勢と展開に見事に引き込まれて一気に読んでしまいました今後の展開がとても楽しみです！

有隣堂書店販売事業部 仕入販促グループ 書籍担当 係長 / 徳永 あけみ

選考員コメント・2次選考

- 一言で表すと『熱』、これに尽きる。ダンスに関わる人間達の熱、ダンスをしている時の熱、とにかく熱量がすごい！社交ダンスは少し手の届かない世界という勝手なイメージを、熱さと泥臭さにかぶっ飛ばしてくれた。もう少し自分の手足が長ければ・・・悔やまれます。

アーティスト / KG

- 社交ダンスのスポ根ものというイメージ。主人公のキャラクターや特技、ヒロインなど、ありきたり……？いや、これは黄金律！！と納得する。タッチが少し荒くて、お綺麗なままに固まっていないのも好きなおところ。

オタクタレント / 喜屋武 ちあき

- 画力、表現力、躍動感、熱量。どれを取っても新人とは思えない素晴らしさ。読み出すと引き込まれること間違いなし。主人公の表情を見るだけで、何だかダンスが踊りたくなる。魅入られるとはこのこと。おすすめしたい、読んで欲しい漫画1番です！

三省堂書店海老名店 / 近西 良昌

- これは、大変な、収穫ですよ、奥さん！←間違いかつて、『ちはやふる』をマンガ大賞に推したこの身が、再度、同じ興奮に打ち震えた物語がこの、『ボールルームへようこそ』。優雅に見えるダンス競技は、格闘技なのだ。あらためて目の前に押し出してくれた、素晴らしい作品です。とにかく、表紙が良い。ダンスだといえは、普通は優雅な場面を持って来るだろうに、2巻の表紙の多々良（主人公）は、これから戦いに行く人の目をしている。そういう物語だと、表紙が語っている。やることが見出せず、ただ日々を送っていた多々良が、ふとしたことで踏み込んだ、ダンスの世界。思っていたのとは全然違っていただろうに、しだいにのめりこんで行く……。そして、そんな多々良に導かれるように、読者もこのマンガの世界に引き込まれてゆくのだ。このマンガは、あらずじを紹介してもつまらないし、感想を書いても、ある一定量しか伝わらないと思う。とにかく、試しに読んでみて欲しい。そして、このマンガの内包する、その熱量に触れて欲しい。ボールルームって、何？という、皆さん。それは社交ダンス場のことです。そこは、優雅な社交場であり、真剣勝負の、決勝の場です。このマンガが、その場所のことを、きっとこの先も熱く、美しく私たちにを見せてくれるはずですよ。とても、楽しみです。

京王書籍販売 本社営業担当（コミック） / 山川 美香

- 最近定番かされてきた感のある弱虫がスポーツに打ち込んで成功するサクセスストーリーですが、それを補ってあまり有る人間描写と展開にワクワクするマンガ。男性マンガですが、女性が読んで楽しく読める一作品です。

ネクスト KG マネージャー / 藤井 紀公

- 社交ダンスの世界は、「特殊」で自分と関わり合いの無い遠い世界の事だと思っていました。読んだ瞬間から一気にその世界を近く感じさせてくれたのが、この「ボールルームへようこそ」。ダンスに興味が無い人、今アツい漫画を探している人、この本を手にとって頂きたい！読んだその日から、主人公・多々良とともに新しい人生が開けそうな、そんなエネルギーを持った作品です。今後もっとダンスの世界の奥深さを味あわせてほしい！はやく続きを読みたい漫画です。

フルハウス八戸ノ里店 店長 / 佐藤 誠

- 社交ダンス。全く自分の中に知識の無い世界のマンガでした。内容としては、いじめられていた少年が、社交ダンスの世界に唐突に踏み出すこととなって、友人やライバルたちと競っていくという流れなのですが、この社交ダンスという自分のよくわからない世界を、すごく興味をもたせてくれるマンガです。とにかく読んでみると胸が高鳴ります。マンガを読んでいて、社交ダンスを始めてみようなんて思いを人によってはあったりするかもしれません。読み手を突き動かす位熱さのあるマンガです！

デザイナー / 平沼 寛史

- よみながら凄い勢いでダンスの世界にひきこまれていきました。マンガの早さも心地よくてあっという間によんでしまった。

カメラマン / 平沼 久奈

- 久々にマンガを読んで鳥肌がたちました。内容は社交ダンスを始めた男子高校生の成長物語で、努力で強くなってゆく成長の痛快さ、ヒロインとの恋愛、ライバルとの切磋琢磨と、誰もが一度は胸熱くした経験があると思われる王道の少年マンガです。大人のみなさんはそんな王道マンガはもう卒業したよと思われるかもしれませんが、このマンガは大人になっても十分熱くなれるのです。その最たるものがダンスシーンの描写。主人公がダンスを好きで、踊っているのが楽しくて仕方がないという楽しさがものすごい迫力を伴って伝わってくるのです。踊るところまでの想いや出来事が踊るシーンにすべて集約されて昇華されるような感じで本物のダンスを見ているときの感動とも違った感動というか、解放感というか、爽快感を味わえます。たぶんこういう感動ってマンガならではのかなーとおもったりもします。マンガを好きな人すべてに読んでもらいたいマンガです。

Sler 主任 / 廣瀬 公将

- 普通の少年の才能が開く瞬間を目の当たりにさせられながら、思わず3巻まで一気に読み。画面に迫力があり、多々良と一緒にダンスの魅力にぐいぐい取り憑かれていきました。真剣なダンスシーンと、ちょっと笑わせるシーンの配分も絶妙。『今一番続きが気になる漫画』とはまさにこの作品のことでしょう。

伊吉書院 類家店 / 中村 深雪

- 正統派なダンス、カッコいいです。

主婦 / 紺野 泉

- 社交ダンスがこんなに激しい物だったとは！少しご都合主義の所もありますが；今はあまり見られない、男女でペアで踊ることの難しさや楽しさも描かれていて、新しい発見があります。主人公達がこれからどんなペアを作っていくのか、気になります。

リアライズ・モバイル・コミュニケーションズ / 金子 幸恵

- この中ではこれかな、と。どうしても『昴』のイメージとかぶるのが気になりますが、面白いのには間違いなかな。

芳進堂ラムラ店・コミック担当 / 川崎 一利

- 気づいたら一気に読み。いや〜、熱い熱い。面白い面白い！

株式会社ネビュラプロジェクト / 小森 和博

- 何も無い、と思いつけていた主人公が見つけた没頭できること。そこから動き出す彼の世界。少年マンガの王道！はじめの一步を思い出しながら、こういうのスキ！と思いつきながらモリモリと読みました！女の子はかわいいし踊る男子もカッコいい！読後、さっそく影響を受けて台所でターンしたら机に足をぶつけて悶絶しました。それぐらいおもしろいってことです！

通販部 部長兼コミック総括 / 宮川 元良

- 数あるダンス漫画の中でもトップクラスの面白さ！主人公はもとよりそれを取り巻く人達の熱さに読んでる自分も熱くなる！！

INSIDE ME / コジマリョウスケ

- 熱い展開がイチオシです。マンガ好きの方に薦めてます。

ジャック 鷺津駅前ブック館 コミック担当 / 内藤 沙織

- 圧倒的な熱量。「社交ダンス」というものに対するそれが、ものすごく高い緊張感で伝わってくる。初心者の主人公が、パートナーとともに、持てる武器を駆使して戦っていく、というバトルマンガ的な構造を盛り込んであるのも見事。

ブロガー / サイトウ マサトク

- 内気なイジメられっ子の少年が、打ち込む対象を見つけ、自分を変えていく成長譚。同じ講談社の「少年マガジン」系で言うと『特攻の拓』や『はじめの一步』にも通じる、王道とも言える作品です。主人公はじめ周囲のキャラクターや、交わされるやりとりが、社交ダンスというモチーフに見事に落とし込まれていて、「少年誌の王道」を飛び越えたスケールを感じさせてくれます。2巻の「僕なんかにかまってくれるんだ」にはグッと来ました。

よろず編集者 / 松浦 達也

- 趣味でやってる社交ダンス歴 30 年くらいの両親に読ませたら「ダンスのことよく描かれてる、この通りだ」「姿勢もしっかり描かれてる」と褒めていた。

書楽阿佐ヶ谷店 / 石田 充

- 理屈を抜きに夢中になることを思い出させる。社交ダンスの世界を知り、そこに自分の居場所をつくる主人公のこれからがもっと読みたくなる。

会社経営者 / 小野 ゆうこ

- 周防正行の『Shall we ダンス?』によって、どこか時代から取り残されていたダンスの世界にスポットがあたり、テレビ番組の社交ダンス部で芸能人が挑んだことで、見た目のゴージャスさの裏にとてつもない厳しさがあるんだと、ダンスの世界への理解もぐっと進んだ。とはいえ、さえない中年が、お笑いのタレントが、これはあり得ないと思われながらも挑み突破していく過程を見せ過ぎてしまって、取り組もうとする身にネガティブからの脱却という、下げて上げてのステップを踏ませなければ進めない世界になってしまっていたのも実際。そんなダンスの世界を、真正面から描いてこれは楽しい、これは凄い、これは挑みたいと純粹に思わせてくれるものとして引き戻し、持ち上げ広げた漫画として時代に名を刻まれることになるだろう。動かない絵でありながら、激しく動き歩みのけぞり回る映像を見せてくれる描写も凄い。遙か高みにあるだろう到達点へと向かい乗り越えていくドラマへの期待もたっぷり。今から入れればその成長に併走できる。共に踏もう、ステップを。

書評家 / タニグチリウイチ

- 社交ダンス版「はじめの一步」。巻数を追うごとに、ぐんぐん面白くなっていく。先が楽しみ。読むならば、とにかく3巻まで一気に読んでほしい。まだまだ熱くなる熱量を秘めた作品。

丸善・ジュンク堂書店営業本部 コミック総括担当 / 小磯 洋

- “社交ダンスマンガ”と言うだけで敬遠してしまいそうですが、読んでみたらその想像をかるーく越えた「すごい」マンガでした。繊細で美しい絵柄、ぶぶっと笑わせるギャグ、そして画面から伝わるキャラクターとその場の熱に圧倒。先が気になって仕方ありません！

ホビー系企業勤務 / 畑中 瀬路奈

- 冴えない男子がひょんなことをきっかけに変わっていくというモチーフは王道中の王道。でも、既視感を感じさせない圧倒的な熱量と躍動感に惹きつけられる。作者自身も競技ダンス経験があると知り、なるほど納得。この熱をぜひとも味わってもらいたいという思いがスパークする一冊。

ライター・編集 / 島影 真奈美

- 社交ダンスというこれまでになかったテーマがとにかく新鮮。何とも言えない独特の読後感も病みつき！ 軽くもなく重くもない、絶妙なストーリーバランスが心地好く読み疲れしない。これからも楽しみ！！

凸版印刷株式会社 / 紺野 慎一

- 競技ダンスで、男性主人公の作品が新鮮でした！競技ダンスマンガというと、佐々木潤子の「ダンシング！」とか好きだったんですが、女の子目線の熱い感じで。この作品の今後の展開が楽しみ！

フリーランス / 大倉 壽子

- 世界観が好きです。

フリーランス / 大倉 壽子

- 社交ダンスをやってみたいかも・・・とってしまう程、社交ダンスの楽しさみたいなものを1ページ1ページ熱く感じることができる。

株式会社本店とわだ店 / 安田 幸

- ※今年も明文堂書店金沢野々市店では、有志が候補作を全て読み、得点制によって、1位～3位までを決定いたしました。以下、コメントです。熱く華麗な舞台で少年が燃える！ぱっとしない少年に秘めた才能が！どんどん成長していく少年の姿が面白い。

金沢ビーンズ 明文堂書店 / 木村 俊介

- 最初から頭抜けたデッサン力を備えている作者ではあったけれど、話数を重ねるごとにしなやかに、色っぽくなっていくキャラクターたち全員にいつしか夢中になってしまう。そしてここで見たい！という願望に完璧に応えてくれる決めゴマ！これぞ漫画を読むことの快感！今一番、作者の情熱が伝わってくる作品。ああ！真子ちゃんぺろぺろしたいよおおお（迫真）！

ヴィレッジヴァンガード ファボーレ店 店長 / 西尾 雄太

- 読んだ後に登場キャラクター達の熱にあてられて身体がブルブルしました。読む人達に熱や汗や感情を体感させるような凄みがあると思います。

バンドマン / TA-SHI

- 勢いのある絵に圧倒される。ぜひこの熱量のまま書き続けてほしい。

会社員 / 齋藤 隼

- イキのいい作品なので、旬のうちに推します。細かいことをいうならば、「そんな短時間で上達しちゃっていいのかいな？」と思わないではないし、「技術的にどこがすごいのか」といった説明部分ももう少し欲しいとは思いますが、それらの不足部分を吹っ飛ばす勢いと熱量がある作品だと思いました。

ライター / 芝田 隆広

- 最高ダンス漫画！読む度に熱くなる。

シンガー / 山野井 千佳

- 巧い。

映像系ライター / 縣 丈弘

- すがすがしいくらい王道。燃えざるをえない。

ダ・ヴィンチ編集長 / 関口 靖彦

- 天賦の才を持ちつつも努力するという、今風でありつつ古くからの王道でもある感じが老若男女読める印象。躍動感があり興奮する。

音楽・ゲームクリエイター / 杉本 善徳

マンガ大賞2013 ノミネート作品

月刊ビッグガンガン / スクウェア・エニックス

「ハイスコアガール」押切蓮介

選考員コメント・1次選考

- テレビゲーム世代には、とにかく読んで欲しい作品。ハマる人は偏るかもしれないけど、それでも推薦したくなる鋭いパワーがあります。

毎日新聞デジタル「まんたんウェブ編集部」副編集長 / 河村 成浩

- 30代男性、悶絶必至の思春期&90年代ゲームコミック。懐かしの格ゲーあるあるネタがふんだんに盛り込まれ、スト2にハマりまくった世代なら思わずにやけてしまいます。しかし、この作品の魅力はそこだけにあらず。ゲームをやった事がない読者向けにも、きちんとラブコメとして読ませられるだけのエネルギーも持っています。

フルハウス八戸ノ里店 店長 / 佐藤 誠

- 主人公が末期ゲーム脳で面白すぎる！ ガイルが話しかけてくる部分にもう爆笑。大野とハルオの友情を越えた関係が熱いです。

ジャック鷺津駅前ブック館 コミック担当 / 内藤 沙織

- ファミコン世代にはたまらないマンガじゃないでしょうか。当時の家柄の良い家庭で育った子供はゲームのハードを持ってないという所（バカになるから親が怒る）や等、当時のあるある話を背景にアナログ感満載のところ、この漫画にやられたところ。しかも、まさかのラブコメ。奥深い感情表現はさすが押切蓮介。胸の奥の深い所からグッと掴まれました。

DJ / DJ RANUMA

- 登場人物の微妙で強烈な関係に引き込まれ。

株式会社アルナシステム代表取締役 / 平田 淳

- なんだか知らないけど、心地よく心が抉られる作品。

医師 / 岸本 倫太郎

- おっさんホイホイ。それはそうと、作者の表情描写がたまらない。

金沢ビーンズ 明文堂書店 / 木村 俊介

- ゲームセンターで小銭を筐体に積んでいた思い出のある方には是非読んでいただきたい作品。恋愛よりもゲームのことしか頭にない男子が、いつしか恋に気付いていく過程の描き方は秀逸。恋を後押しするゲーム上のキャラクター達の台詞回しが、とにかく懐かしい。90年代のゲームセンターにタイムスリップした感覚を得られる、かつてのゲーマーにとっては興奮の一作である。

弁護士 長島・大野・常松法律事務所 / 三村 量一

- サエない男子がカワイイ子にモテちゃうというおきまりの骨格ながら、1990年代のゲーム発展史を絡めて読者を惹き付け、一切無言の暴力お嬢さまという個性的なヒロインのジワジワした変化で楽しませる。さらに3巻では主人公がめざめ成長し、そして挫折…？ なんと、ビルドゥングスロマンだったのか？！

朝日新聞記者 / 小原 篤

- 掘り下げるポイントがかなりマニアックなのに、甘酸っぱい気持ちになる不思議なバランス。

PENICILLIN vocal / HAKUEI

- マンガは時代をうつす鏡、と誰かが言ったような気がしますが、僕らが目をキラキラさせてゲームを追っていた時代のドキドキが、このマンガにそのまま詰まっています。それなのにしっかりラブコメしてるのもまたすごい。

クリエイティブディレクター / モリサワ タケシ

- あのオドロドロギャグでおなじみの押切先生が満を持して世に放ったアーケードゲームラブコメ青春マンガ。これ、正直って歴史に残るくらいの超名作の予感しかしないんですけど。古きよきアーケード筐体の懐かしさに悶絶し、ゲームを介してのみ交流する男子と女子にやきもきし。とにかくにもラブコメパートが秀逸すぎ。なんなのさこの不器用な青少年たち。コマンド入力に長けていくたびに大人の階段をのぼっていく彼らの成長もこの作品の必見ポイント。とにかく2012年は押切先生にしてやられた感満載の年です。とても個人的に。

オリオン書房ノルテ店 / 池本 美和

- どんぴしゃな世代は、共感が持てる！

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松 由夏

- 僕らの少年の頃は、まさにこの世界だった。ストリートファイターIIが出て、順番待ち。50円で2ゲーム出来るゲームセンターに自転車で遠征していくその姿はあの頃の自分を思い出させてくれる。アーケードでしか出来なかったあのゲームが、家庭でできた時の喜びやゲーム大会に胸を踊らせる姿。ライバルである大野さんのゲームの強さと恵まれた環境である子供なのに寂しさを感じさせる。また、この大野さんがどんな声をしているのかが非常に気になります！頭突きの愛情表現は素晴らしいです。そして、主人公ハルオのお母さんは忍者なのか、妖怪なのか。

デザイナー / 平沼 寛史

- とにかくまず1巻を！！まず1巻を読んでください！！

バンドマン / TA-SHI

選考員コメント・2次選考

- 世代がドンピシャということもあるけれど、古き良き格ゲー時代の見事な描写。懐かしさがこみ上げてくる。そして、その格ゲーにちょっとした恋愛も加えてあるので面白さ倍増！格ゲーというと男子イメージがあるかもだけど、恋愛もあるから女子も読めるよ！そして読めば読むほど可愛く思えてきてしまうこの不思議。是非試して欲しい。

三省堂書店海老名店 / 近西 良昌

- 濫作ゆえに当たり外れの激しい漫画家が、複数の持ち味を止揚することに（ついに）成功した傑作。

書評家 / 福井 健太

- 自分的上位 6 作品の中で、『かつての少年少女たちに』お勧めする作品としてえらんだのがこちら。『ハイスコアガール』。私の家には、ゲームはありません。ファミコンもスーパーファミも、セガサターンもプレステも。唯一、ビンゴで当てた携帯ゲーム機が一つあるだけです。買ったが最後、首までどっぷり浸かってしまう、重度のゲーム中毒者になってしまうのが目に見えていたからです。このハイスコアガールの舞台は、1991 年。とあるゲームセンターから始まります。そう、ハイスコアガールとは、文字通り、ゲームでハイスコアをたたき出す少女のこと。ゲーセンで、少年と少女は出会います。ほとんどゲームのことは知らない私が、このマンガを選んだ理由。それは、純粹に、面白かったから。ゲームセンターで出会った、少年と少女。ボーイミーツガール。どきどきする思いと、お互いに気づかない淡い感情。中学生になって、ゆっくり動きだしたお互いの距離。せつなく、優しく、時に残酷に、物語は進んでいきます。まさか、こんな物語だとは思わなかった、というのが正直な感想です。かつて、同じ時間軸に住んでいた人たちには限りなく懐かしく。現代の少年少女にも、たぶんこれは受け入れられるんじゃないかな。…ああ、当時ダルシムくらいしか使ったことなかったけど（我慢できずに数回ゲーセンで遊んだ）。もう少しゲームに詳しくたら、このマンガのもう一つの面白さがもっとダイレクトに分かるのに！と。ゲーム事情に疎いこの身を始めて嘆いたことでした。

京王書籍販売 本社営業担当（コミック） / 山川 美香

- 世代なので。共感性が凄いです。

オフィスオーガスタ マネージャー / 樋口 健

- 当時、自分たちの年代であれば大抵、このマンガのような生活をしてきた記憶がある者が多いのではないと思う。小学生だった自分たちにとって、ゲームセンターでの 100 円数枚を握りしめ遊んでいた小学生から中学生の時の話。そんな少年時代に一人の猛烈にゲームの強い女の子が登場してくれます。僕らにはこんな可愛い女の子はなかった。懐かしくもあり、当時の郷愁を思い出させてくれるこのマンガ面白いです。

デザイナー / 平沼 寛史

- 毎年いろいろ悩むんですが、今回はハイスコアガール一択ですよ！！こんなにも新刊が出たあとに何回も何回も狂ったように読みなおすことになってしまう作品があろうとは…の心境。正統派ラブコメ漫画の王道ストーリー展開にも関わらず、そう見えないのはやはりゲーム（しかも主にアーケード）という、ある種マニア向けのマニアな素材をこれでもかと仕込んだ上に成立しているラブコメ要素だからってことなんだろうなーと。そこがまたたまらなくにくい。押切先生の手のひらの上で完全に転がされている私（や、もしかしたら他の読者さんも）。「どうせこういうの好きなんだろう～」みたいな。大好きですよ！！どうせ！！もっともっと転がされることを心の底からたのしみにしております。あと、この作品から押切読者になった方々が、他の著作を読んでひっくりかえることもたのしみにしております。

オリオン書房ノルテ店 / 池本 美和

- 細かいネタが 80 年代のゲーム事情に詳しくればさらに面白いのですが、そうでない方が読んだときにどう感じるのかが気になってしまいました。

芳進堂ラムラ店・コミック担当 / 川崎 一利

- なつかしい！思い出はすばらしい！

文筆業 / 海猫沢 めろん

- ヤングマガジンに連載していた頃から、個人的にちょっと苦手な絵だから…という一点でこの作者の方を遠ざけていた自分はおろかものでした。今回きちんと腰を据えて読んでみて、はまりました。90年代のアーケードゲームという、全盛期でもディープな世界を舞台に、こんなにせつないストーリーを展開できるとは。記憶の深いところにある夕焼け空のようにせつない。少年マンガのカテゴリーに入る作品だと思いますが、心理描写がものすごく丁寧でリアル。キャラクターの絵姿もとても表情ゆたかで、1コマ1コマをいつくしんで読みたくなります。マニアックなギャグもくすりと笑える。クスッと笑わせておいて、読み手の気持ちの弱いところをグッとわしづかみにする。1巻の小学生編もかわいいけれど（ラストは号泣）、登場人物が中学生になった2巻以降のラブコメ的展開でいちだんと読者の間口を広げたのでは。主人公のゲーマー男子の設定が良い。世間的にはダメダメだけど、こんなじゆうな10代を送りたかった、こんなやつになりたかった、とつくづく思うおっさん読者はたくさんいるに違いない。もちろんわたしのことです。

日本経済新聞記者 / 天野 賢一

- 90年代アーケードゲームにまったく思い入れがないので、この機会がなければまず読まなかったと思う。ありがとうマンガ大賞。決してうまい絵ではないのに、「この絵でなければ」と思えてくるのは、作者に「愛」があるからでしょう。第1巻のラストは何度読んでも泣ける。ヒロインが一言もしゃべらず、表情だけで「語る」表現は、まさにマンガの力。

中央公論新社 文芸局次長 / 石田 汗太

- いよいよ90年代が回顧される時代になったのだなあ、と感慨深くなると同時に、この時代はゲームがカルチャーの主演だったのかも…と思わせてくれる作品でした。大野さんの転校を知って、ゲームキャラたちに背中を押され、ハルオが駆け出すシーンに涙。今回一番キュンキュンした一作でした。

ブログ「漫画食堂」管理人 / 梅本 ゆうこ

- 自分の中のラブコメ枠として俺物語とものすごく迷ったのですが、不思議な魅力のあるこの作品のほうにしました。もともと同作者の「ピコピコ少年」が好きだけど、レトロゲーム好きな人にしかおすすめでできないかんじでした。この作品はラブコメとしてキュンキュンします。私の周りのアマノジャクな友人に勧めて反応を楽しみたい。独特な絵柄がじわじわきます。

フリーWEBデザイナー / 河本 智芳

- 「昔こんなゲーム全盛期があったなー。」と懐かしみながら、一気に読んでしまいました。ストIIで兄と100戦し100敗。怒りと共にリアルファイトを挑み101敗目。読みながらも懐かしい記憶がよみがえってきました。

教師 / 持丸 宏司

- 3位以降が混戦しており、なかなか決められませんでした。なので1、2位以外で、続きが最も読みたいものを考えて3位はハイスコアガールになりました。早く4巻がよみたーい！！

bar 図書室の店主 / 岡部愛 (のん)

- サエない男子がカワイイ子にモテちゃうというおきまりの骨格ながら、1990年代のゲーム発展史を絡めて読者を惹き付け、一切無言の暴力お嬢さまという個性的なヒロインのジワジワした変化で楽しませる。さらに3巻では主人公がめざめ成長し、そして挫折…？ なんと、ビルドゥングスロマンだったのか？！

朝日新聞記者 / 小原 篤

- 年代のせいかな？ゲーセンでゲームにはまってた子供の頃をすごく簡単に思い出せた。逆に最近のゲームの話の時は入ってけないということもなく。題材ではなくマンガとしてのおもしろさも充分ということだと思う。

スタジオフーズ / 小林 智之

- 2012年で断トツの1位。一般市民のハルオとお嬢様の大野の微妙な距離感で繰り広げられる恋愛劇に、徐々に徐々にハマってってしまいました。現在もそうかもしれないが、特に1990年代は「ゲーム＝馬鹿のもと」の様々な等式が大人の中で成り立っていて、現実にあった時代背景ともリンクし、懐かしさも感じながら読んでしまった。所々に出てくるガイルもツボです。

DJ / DJ RANUMA

- 懐かしいゲームマンガかと思って読んだので、思い切り脳天から貫かれたような衝撃だった。なんとも切なくて、こう、く〜！となります。ライバル心とか恋心とか超越した相手への想い。小中時代にこんな経験はなかったけれども！

医師 / 岸本 倫太郎

- ゲームセンターで小銭を筐体に積んでいた思い出のある方、恋愛に無頓着な学生時代を過ごしていた方には是非読んでいただきたい作品。恋愛よりもゲームのことしか頭にない男子が、いつしか恋に気付いていく過程の描き出し方は秀逸。恋を後押しするゲーム上のキャラクター達が、とにかく懐かしい。90年代にタイムスリップした感覚を得られる、ゲーマーにとってはノスタルジー溢れる良作である。

弁護士 長島・大野・常松法律事務所 / 三村 量一

- 待ちガイルにポッコボコにされていたあの頃が蘇りました。波動拳も昇竜拳も出せなくて、百裂張り手が百裂脚ばかりだったなあ。なのでハルオはもっとボコられる。ゲーム少年の夢とロマンと妄想に溢れた作品。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店コミック担当 / 山本さとみ

- 対戦型格闘ゲーム華やか成りし頃のゲーセンが舞台というのは、もはや「おっさんホイホイ」なんだろうとこそばゆく（掲載誌も「ビッグガンガン」だし……）、「昭和も遠くなりにはけり」と感慨に耽ろうとしたら、20年前でも平成なんだよ！ と気付く平成25年の今日……（すみません、主人公達よりも一回り上の世代なもので）。そして、変化球かと思っていたら、思いの外、ド直球な上にもド直球な恋愛マンガだったので、そんなベタな恋愛をキッチリ描こうとすれば、逆にこのくらいの仕掛けがいるのかと思うと、平成25年のマンガは大変だなあとあらためて思う。

同人誌研究家 まんが評論家 / 三崎 尚人

- 30代のハートを鷲掴みにするレトロアーケードゲーム史と共に、対戦格闘と恋愛要素を合体させた組み合わせの妙が光ります。

住職 / 蟬丸 P

- 小学生の僕たちにとって子供たちだけで大きな街に遊びに行くという事はすなわち大きなゲーセンに行くということだった。そのくらいあの頃の僕らにとってゲーセンは世界の中心に近かった。ファミコンカセットいっぱい持ってるヤツはヒーローで、そいつの家はぼくらの世界の社交場だった。とにかくにもゲームこそがヒエラルキーの頂点。友情も、情熱も、全部その下にぶらさがってきた。でも、ラブはなかった。ライクはあったかもしれないけど、ラブだけはなかった。ラブに目覚めた者にはもっと開けた世界が待っている。だからラブい奴らはこの世界から自ずといなくなるのだ。普通。ハルオは俺たち全員がいつか選択を迫られた、恋かゲームかという究極の二択をねじふせ、二つを同時に叶える希望を指し示す光だ。ハルオに幸あれ！

ヴィレッジヴァンガード ファボーレ店 店長 / 西尾 雄太

- 著者と同じく1980年前後に生まれ、青春時代をビデオゲームとともに過ごしてきた者にとって、これ程刺さるマンガは無い。まさにアラサーにとっての「三丁目の夕日」。

Webサイト「最後通牒」管理人 / 高嶺 おろし

- エントリー作品すべてが素晴らしかったですが、読み終わった後の読後感でこの作品に改めて決めました。1巻読み終わった後のあの余韻は忘れません。

バンドマン / TA-SHI

- なつかしい、世代には、たまらなく、なつゲーやりたくなる

Hair Make Lounge tetote 代表 / カ丸 真

- 自分の世代よりちょっと下の話なんですよねー（私は「スト1」世代）。一緒にゲームをするこんな女子が居たら良かったのになあと思わせる作品。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

- まさに時代のマンガ。ゲームを通じて交差する思い。素敵な青春物語。「ピコピコ少年」も読もう！

COMIC ZIN コミックバイヤー / 塚本 浩司

- 大変愛らしい。

映像系ライター / 縣 丈弘

- 最初、世代を選ぶかな？ と思ったけれど、世代が違っていたりゲームを知らなくても楽しめると思われる丁寧な進行が読んでいて非常に面白い。キャラクターも、とても愛着が湧く。

音楽・ゲームクリエイター / 杉本 善徳

マンガ大賞2013 ノミネート作品

別冊マーガレット / 集英社

「俺物語!!」アルコ 河原和音

選考員コメント・1次選考

- ハマった～！なぜか知らないけど何度も読み返したくなる作品です。猛男～、お前いい男だよ～！世の中に猛男みたいな、純粹だけど男気あふれる人間が増えればいいのに。少女漫画を読まない男性や、大人になってマンガから離れてしまった女性にこそオススメしたい、傑作です。

フルハウス八戸ノ里店 店長 / 佐藤 誠

- これは号泣しました。顔だけのイケメンはもう古い。これからは、猛男です。砂も、大和も本当にいいキャラ！

ジャック鷺津駅前ブック館 コミック担当 / 内藤 沙織

- アルコさんの魅力大爆発！文句なしに面白い！大好き！！猛夫も格好良いのですが、アルコさんの描くイケメンキャラはやっぱりかっこいい！スナくん、かっこいい！！

bar 図書室の店主 / 岡部愛 (のん)

- 別冊マーガレットでこんな主人公を見る日が来ようとは。高校生の若造 (のはず) にキュンキュンさせられるのが嫌いじゃないと気づいた。

声優 / 後藤 邑子

- 少女マンガといえば、王子様のようなさわやかな男子が必ず出てくるという思い込みがありますよね。このマンガはその思い込みを見事に覆してくれました。最初表紙を見たとき、え？この人主人公？と不安になったのですが、読み進めるうちに、主人公の内面の強さ、男らしさにどんどん惹かれてゆくのです。内面が現実離れしてるレベルで男前なのです。まっすぐで、行動力があって、強い。それぐらいの内面の主人公ならほかにもいるのですが、彼は突き抜けてます。誰もまねできません。まさにニューヒーロー！かっこいいぞ猛男！

Sler 主任 / 廣瀬 公将

- 少女漫画なのにこの主人公…その手があったか！！と感動する作品。登場人物の性格が全員いいので、読んでいて気分がいいです。

オタクタレント / 喜屋武 ちあき

- 主人公が少女マンガとして新しすぎる。

公務員 / 東 くるみ

- とにかくもうっっ。ピュアで愛おしい！大好きだー！と叫びだしたくなります。好きな人がいることの幸せな気持ちでもかっていうくらい思い出させてくれます。大人になってずいぶん経ったなあというあなたに！ぜひ読んでもらいたい一冊です。

フジテレビアナウンサー / 松尾 翠

- 今までの少女漫画キャラにはない主人公が意表を疲れました。猛男くんのかっこ良さにめっちゃめっちゃ惹かれています。少女漫画の革命だと思います。

ブックエース上荒川店 / 倉本 かおり

- 猛男の男気と真っ直ぐさ、優しさ、男から憧れられる漢っぷり&大和の一途な可愛さがたまらない！砂川くんのさりげないフォローと友情に毎回いい子だなとしみじみ思うので、個人的には砂川くんにも心から幸せになってもらいたい…

主婦 / 戸田 仁美

- 猛男みたいな男に出会いたい (切実) (笑)

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松 由夏

- 男でも、主人公の猛男にほれてしまいます。こんな熱い男がいたら人生が楽しいでしょうね。老若男女問わず読んでほしい。

毎日新聞デジタル「まんたんウェブ編集部」副編集長 / 河村 成浩

- 少女マンガ界からニューヒーローが爆誕した…！たけおまじ私よりリア充ですよ？私はとりあえず筋トレから始めればいいんです？大きくなったら猛男みたいになりたいです。

金海堂イオン準人国分店 コミック担当 / 園田 美智子

- すでにあちこちで話題になっており大きな賞もとっている本作なのでもう推すまでもないかな？と迷いましたが、これだけ話題になりつつも市場では慢性的に品薄状態でしたのでまだ読めていない方もいるかもと思い、票を投じさせていただきました。2012年のマンガ界は猛男なしには語れません。原作者・河原和音先生の生み出した型破りヒーロー・猛男のありえないカッコよさを、作画担当・アルコ先生の爆発する才能がこれでもかという程に膨らませてくれています。どうかっこのいいのは、ぜひご自分の目でお確かめください。いろんな顔をする猛男の魅力に、夢中になること間違いなしです。

伊吉書院 類家店 / 中村 深雪

- このキャラを堂々主人公にして、しかも格好良く描くことに、少女漫画の成熟と進化を感じる。

中央公論新社 文芸局次長 / 石田 汗太

- 美女と野獣、とかこまかい説明は一切不要。読めば心が洗われる。現実にはあり得ないファンタジーだとしても、マンガにこそそれを提供する責任があるはず、とかゴタクを並べても仕方がないので未読の方は今すぐ書店へ！

日本経済新聞記者 / 天野 賢一

- 年末の賞を取りまくりですが、だってやっぱりおもしろい。そしてこれも言われていることですが、主人公の造詣が少女まんの的にひとつのエポックだ。少女まんの王道誌でこれをやれるってゴーを出した編集者も素晴らしい。

お菓子研究家 / 福田 里香

- 何回も何回も繰り返し読んでます。他の賞でも1位とってるし改めて押さなくてもいいかなー、なんて思ったりもしたけれど、このマンガは僕の中で2012年、1番でした。あと僕の顔が主人公の猛男に似てるそうです。(バイト:談) いい男ってのはこういうやつを言うんです！男として、人として、こうありたい。

通販部 部長兼コミック総括 / 宮川 元良

- 猛男くんが幸せ過ぎて生きるのが辛い。「…まーあれは男の目から見てもかっこのいいよね」うん確かにそうだ。基本、善人しかなくて、善人だから善意があって、でも誤解はあって、それがほぐれてつながっていく（しかもパワフルに！）というのが滑稽で微笑ましくて嬉しくて仕方がない。あーもう！

ソフトウェアエンジニア / 第弐齋藤

選考員コメント・2次選考

- 暑苦しい表紙の少女マンガ（すみません！）で以前から気になっていました。およそ少女マンガの主人公とは思えない角刈り・極太まゆ毛で2m・120kgの剛田猛男は、親友でイケメンの砂川誠といつも一緒。電車で痴漢に遭っていたところを猛男に助けられた大和凜子が猛男を強烈に好きになるのは、なかなか素敵なドラマ展開です。とても気持ちよく読み進められるマンガです。登場人物はみんないい人ばかりで、心が折れそうなときに読むのをオススメします。デート資金のためのバイト先の名前が「兄貴喫茶マッチョーズ」というのはどうにもアレですが。

国分寺市議会議員 / 国分寺市議会議員

- テンポが良く気持ちよく読めました。

漫画全巻ドットコム 代表 / 安藤 拓郎

- 『イケメン』という言葉が氾濫している昨今。本当の『イケメン』っていうのは心がステキな男なんだっていう事を、あらためて思わせてくれた。モテるために見た目を磨きだけの薄っぺらい男より、人として真っ直ぐで、優しい男の方がぶっちぎりでカッコイイ！！見た目ばかり気にしてる人達に読ませたい！！

アーティスト / KG

- この発想があったか！と思わず膝を打ちたくなる作品。登場人物が皆いい人で、読んでいて気分がいいです。有名な漫画家が手を組んで描いているのもおもしろいですね。

オタクタレント / 喜屋武 ちあき

- 今年が一番は何と言っても猛男！純で優しくて力持ち。恋愛にも友情にも一途な猛男に男でも惚れてしまいます。ヒロインの大和も親友の砂川も、みんないいやつ！読んでいて心が晴れやかになる、読み心地の良い漫画です。全日本男児が猛男を目指すべき。老若男女問わず読んでほしい漫画、それが「俺物語！！」です。

フルハウス八戸ノ里店 店長 / 佐藤 誠

- やはりキャラがいい。読後感さわやか。

公務員 / 東 くるみ

- 少女漫画コーナーに置かれているのに違和感がある表紙とは裏腹に、純情で真っ直ぐな内容に心を鷲掴みにされました。分類すると王道ラブコメなのですが、アラフォー男の自分が何度も読み返してしまう謎の魅力をこの作品から感じました。続きが早く読みたくてたまりません。

株式会社アルナシステム代表取締役 / 平田 淳

- 面白くて優しい気持ちになるので安心してよめるマンガです

カメラマン / 平沼 久奈

- 一次選考でも推しましたが、猛男の魅力をもっともっとたくさんの人に知っていただきたいです！21世紀のニューヒーロー・猛男に、女性も男性もみんな恋すること間違いなし！（笑）

伊吉書院 類家店 / 中村 深雪

- 久しぶりに少女まんがで爆笑しました。読み終わったあとも笑いがこみ上げるくらい。猛男かっこいいぞ！

主婦 / 紺野 泉

- 見くびってました・・・読むまでは男の中の男『猛男』あんた年下だけど本当に良い男だよああ～心の底から友達になりたい

コロムビア・マーケティング株式会社 福岡営業所 / 阿部 大介

- 少女漫画の革命児！！というくらいのキャラの猛男くんになりました。まわりのキャラも猛男くん負けずに魅力的！これおもしろいよってすすめまくった漫画です。

ブックエース上荒川店 / 倉本 かおり

- 少女マンガの可能性を拡張してくれた功績に。そしてマンガは荒唐無稽でいいのである。むしろ荒唐無稽がいい。それを思い出させてくれました。

コミックナタリー編集長 / 唐木 元

- イケメンとはほど遠い主人公だが、こんなやつがいてほしいと思わせる稀有な作品。流行の「俺の嫁」とは対極のキャラクターなのにどうして（笑）。このネタでどこまで続くか非常に不安だが、その展開を含めて楽しみ。恋は成っても成らなくてもいいものだと思わせてくれる。

毎日新聞デジタル「まんたんウェブ編集部」副編集長 / 河村 成浩

- 主人公が知人の役者さんに激似すぎで彼に脳内変換して読んでました。それを差し引いても面白かった！

株式会社ネビュラプロジェクト / 小森 和博

- 一次選考でこれでもかというほど推したので、さらに付け加えるなら……猛男系男子の時代、来ちゃってもいいんじゃない？いつ来るの？今でしょ？来いよ！！ありがとうございました。

金海堂イオン準人国分店 コミック担当 / 園田 美智子

- 何回読んでも笑って泣けてムネキュン。こんなに何度読んでもおもしろいってすごい…、すごいことだよ！猛男！こんな友達欲しいなっていうよりこんな男になりたい。読むたびにそう思います。漢字の漢って書いてオトコと読む、みたい。あー、また読みたくなってきた！あと、思ってることが胸の部分に表示されるTシャツ欲しすぎ。

通販部 部長兼コミック総括 / 宮川 元良

- 角刈り、ゲジ眉、タラコクチ、もみあげ。学生服と作務衣が似合う。少女マンガなのに暑苦しくゴツイ体育会系武道系男子が主人公ということで、絵柄が綺麗な少女マンガが好き自分としては「おもしろい！」という噂を聞かなければ読むことはなかっただろう。と、思うので「おもしろい！」と声を大にして書きます。おもしろい。常道をひょいと踏み外してみせる設定を設定倒れ、企画倒れのキワモノに終わらせない秘密はいったいなんなのか。ひとつはト書きとか心理描写が一貫して主人公の内なる声を描写しているので、ゴツイ正義感のつまりはヒーローでは大概はない読み手が、そのゴツイ正義感のヒーローになりかわった気分になれること（なので女性の読者がどういう部分に感情移入するのかは想像がつかいません）。あとは登場人物に悪人、というか裏表があるヒトがないという点にもその理由を求めることができそうです。主人公の剛田猛男（高1）の笑っちゃうくらいの泣けるピュアさ、イケメン親友・砂川のクールなともだち想い。主人公にベタ惚れのお菓子づくり女子・大和もそうだけど、人間のイヤな面とか裏の顔とか嫉妬ねたみそねみとか策略とか、つまりは読み手の周りにふつうにある現実を忘れさせてくれる。そんなファンタジーとしてこのマンガは自分にとっては実に貴重な。どうか巻を重ねて失速しませんように。

日本経済新聞記者 / 天野 賢一

- やはり少女マンガは読まず嫌い!?読んでビックリ!面白い!いままで手にとらなかった自分…反省。やはり男は顔じゃない!心だよ!世の男子に勇気と希望をあたえる作品だ!たぶん…

INSIDE ME / コジマリョウスケ

- 少年マンガの主な要素を「努力」「友情」「勝利」とするなら、少女マンガでは「恋愛」「葛藤」「美形」「成就」などの要素が挙げられるでしょうか。「俺物語!!」には上記4要素に加えて、「友情」という重要な第5の要素が加わっています。しかも主人公は気は優しくて力持ちを地で行く野獣系。他の主要登場人物の心やさしさと純粋さにも心打たれました。少女マンガらしいファンタジーに、少年マンガによく取り上げられる要素がスマートに掛け合わされたエポック・メイキングな作品といえるのかもしれませんが。たけおくん、いいなあ……。

よろず編集者 / 松浦 達也

- きゅんきゅんの極み!!!少女漫画の王道ではないのだけれど、今の世の中に少なくなってきた無垢で純真まっすぐな少女漫画感がたまりません。絶対元気になる作品。アナウンス室でも密かなブームに♪

フジテレビアナウンサー / 松尾 翠

- 素晴らしいコラボ作品ですね！このお二方を組み合わせた編集さんと握手したいです。漫画をアルコさんが担当しなかったらこの猛男は存在しなかったですね。細かい部分まで面白い。そして大和も可愛いだけではなくて肉食なところがあって嫌味じゃない。そして砂はかっこいい！誰にでも面白いよ！と自信をもって薦めることができる珍しい漫画。

bar 図書室の店主 / 岡部愛 (のん)

- 優しさと強さを感じる。少女マンガの恋愛ものの王道を上手く外している作品。少女マンガが苦手という人にも読んでもらえると思う。

会社経営者 / 小野 ゆうこ

- 表紙から絶対手に取らねえだろうとおもうタイトルなんだが、今回ノミネートされてはじめて手にとった。面白いね。ええ、面白い。

スタジオフーズ / 小林 智之

- 猛男ほど、いい男は最近いないと思う (笑)

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松 由夏

- 猛男の暑苦しいまでの男らしさと、友情に笑いつつホロリとする。去年から今年にかけて雑誌の連載をも見逃さずに読んでいるくらい続きを楽しみにしている。

株成田本店 とわだ店 / 安田 幸

- とっても純粋なタケが男らしくて好き。友達の砂川もすごくいいやつ。※この作品だけ、全員が1～3位のどこかに投票しました。

金沢ビーンズ 明文堂書店 / 木村 俊介

- ストーリーは王道なんだけど、通常の少女マンガのフォーマットを破った画期的な作品ですね。沢山の人に読んで貰いたい作品。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

- ひさしぶりに男女両方に薦められる少女漫画。

会社員 / 齋藤 隼

- 河原先生のキャラはまっすぐで、ピュアで素敵。こんなヤツが友達に欲しい！と思えます。この真っ直ぐ具合、河原先生自身が執筆した傑作「高校デビュー」にも通じますので、未読の方にはぜひそちらも読んでほしい。

COMIC ZIN コミックバイヤー / 塚本 浩司

- 単純明快！ストレートなマンガは呼んでいて気持ちがよいです。ストレートなマンガにありがちな陳腐感が笑いにフィクションにありがちな臭さが結構生々しく正統派マンガとして今年一番のお勧めです。

デザイナー / 佐藤ユウ

- 猛男くんが幸せ過ぎて生きるのが辛い。「…まーあれは 男の目から見てもかっこいいよね」うん確かに、俺もそう思う、誰だってそう思う。基本、善人しかなくて、善人だから善意があって、でも誤解はあって、それがほぐれてつながっていく (しかもパワフルに！) というのが滑稽で微笑ましくて嬉しくて仕方がない。あーもう！

ソフトウェアエンジニア / 第貳齋藤

- 人間の「善なる部分」がてらいもなく描かれていて、読んでると笑いながら泣けてくる。あたたかい。

ダ・ヴィンチ編集長 / 関口 靖彦

- ベタといえばものすごくベタな話なのだが、とにかく主人公のキャラがすごくいい。ゴツくて暑苦しくて不器用だが、中身はとてピュアで誠実。周りのキャラもとてもいい人ばかりで (特に親友の砂川が！)、笑えて泣けてあたたかい気持ちになれる。女子はもちろん、表紙に隠ることなくぜひ男性に手にとっていただきたいマンガ。

主婦 / 安田 奈緒美

マンガ大賞2013 ノミネート作品

週刊少年ジャンプ / 集英社

「暗殺教室」松井優征

選考員コメント・1次選考

- 刺激的なタイトル、奇想天外なキャラクター、先の読めないストーリー。とにかく楽しみ。今の教育のかかえる問題の皮肉とも取れるところも個人的にはツボ。売れるのは間違いないから外してもいいと思いつつ、でも外せない作品。

毎日新聞デジタル「まんたんウェブ編集部」副編集長 / 河村 成浩

- メインテーマが「生徒が先生を殺せないと、地球を爆破！」。そして成功報酬が百億円！ついたあだ名が「殺（ころ）せんせー」。意外と生徒思いのいい先生だったりする。コミカルなタッチの画に押し引きのストーリー展開も絶妙。少年誌として、かなり際どい表現が大人の読者にもウケてる一因に思っています。

本と文具ツモリ / 津守 晋祐

- ジャンプコミックで何年ぶりの1巻目から大ブレイクしている作品。話題沸騰中でもうすでに読んでいるかもしれないがおすすめ。タイトルに暗殺と入っているが、人が死ぬことはない。老若男女楽しめるあくまでも少年マンガです。キャラもインパクトあるので忘れられない記憶に残りそう。

三省堂書店海老名店 / 近西 良昌

- 謎です。なぜ面白いのか謎。以前の「魔人探偵脳噛ネウロ」でもそうだったが、なぜこんなメチャクチャに思える設定でストーリーが面白いのか。。殺せんせーって。。なんじゃそりゃと思いましたが、奇天烈な設定をスマートに展開する松井優征の力には舌を巻きます。

DJ / DJ RANUMA

- 今一番ホットな作品だと思います。キャッチーさと、意外だけど期待を裏切らないストーリー。殺せんせーのキャラクターの可愛さ。まだ2巻までしか出ていないとは思えません！

オタクタレント / 喜屋武 ちあき

- 異端の触手モノ。いわゆる「邪道な王道」モノ。ここまで凝った設定なのに、「殺せんせー」の造形は、ほとんどニコニコマークであり、あまりに単純すぎる。しかし、その、リアルさのかけらもない造形も、読み進むに連れてどんどんかわいらしく思えてくる。コマの端っまで、「殺せんせー」の動き・表情・セリフが見逃せない。

弁護士 長島・大野・常松法律事務所 / 三村 量一

- 「暗殺」という切り口が新しい響きですが、内容はこれぞ少年漫画の王道！という安心したストーリーでした。最終的なオチをどう持っていくのかがとても楽しみです。

株式会社 ブックスタマ / 栗田 さやか

- 暗殺と教育という相反するようなキーワードの組み合わせですが、時々見られるぐっと来るストーリーにハマって来ています！

リアライズ・モバイル・コミュニケーションズ / 金子 幸恵

- 周りが盛り上がる「殺せんせー」って何？と思いながら読んだら、確かに面白かった。失礼な言い方をすれば、ジャンプコミックスと思えぬほどの濃度に驚いた。これってコミックスで読んだからでしょうか。連載で読んだらまた違う感じ方かも。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中 香織

- 極めて王道の教育ものという素材に、「暗殺」というスパイスを入れて、「ドーピングコンソメスープ」を作ってしまう。前作「ネウロ」もそうですが、トリックスターな作家だと思う。真面目な台詞も、言う状況とタイミングをずらす事によって笑いになるというのはコントの基本ですが、ずらしたりずらさなかったりが非常にうまい。だから同じ台詞で笑ったり、感動したりする。作中時間1年間で本作は終わる、と作者が明言しており、短いと驚きましたが、2巻で1ヶ月ぐらい経っているので、そのままのペースだと12ヶ月×2=24巻ぐらい・・・って、結構な巻数になるじゃないですか。

丸善・ジュンク堂書店営業本部 コミック総括担当 / 小磯 洋

- 久しぶりに、「THE ジャンプ」な作品。コロ先生に教われれば、成績上がりそう（笑）

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松 由夏

- 詩とは仮説である、とある詩人が言っていました。どんな荒唐無稽な前提でも、美しいかどうかが問題。だとすると、マンガは思考実験の過程でしょう。触手超生物の殺し屋の先生が、落ちこぼれに教育を加えながら、命を狙われながら余裕で暗殺者教育をほどこす、と説明しても、何も説明したことになりませんが、ページをめくれば一目瞭然。この思考実験が面白い！ってことが、どこまでも証明されています。あと、マンガ好きとしてひとつ悔しいのが、情報をだれかに教えてもらうより先に、宣伝の看板を見かけてしまったこと。1巻でジャンプコミックスがこんなに宣伝するなんて、と思いつつ読んで、悔しいことにめちゃくちゃ面白かったのですが、これ、この段階でこんなに宣伝しているのは、おそらく、もうすでに最後まで作品はストーリーが完成しているんでしょう。自信を持っているストーリーがあるからこそ、遊びにも余裕があって。悔しいことに本筋だけじゃなく、小ネタも荒唐無稽なのに可愛げがあって、めちゃくちゃ、面白いんですよえ……！

ニッポン放送アナウンサー / 吉田 尚記

選考員コメント・2次選考

- 圧倒的面白さ！これぞ少年誌漫画でしょう。タイトルに暗殺とあるけれど、人殺しのような殺伐とした漫画ではないので、安心して読めます。こんな先生に授業を受けてみたいと内心思います(笑)きっと楽しいだろうな。大変だけど。

三省堂書店海老名店 / 近西 良昌

- 異様な価値観の世界を描く漫画は珍しくないが、著者の才能は群を抜いている。どうすればこんな話を思い付くのか。

書評家 / 福井 健太

- 『マンガ大賞』という賞で、何の作品をお勧めするか。一番大切なのは、『誰に』薦める作品なのか、という部分だと、私は勝手に思っている。今年のノミネート作の中で、私の上位6作品は、私の中ではほとんど同列に並んでいました。その中で、『全年齢性別不問作品』『かつての少年少女たちに』『こちらの予想を超えてくるもの』の3作品を、あえて今回は選ばせていただきました。マンガ大賞 2013、1位には、『暗殺教室』を推させていただきます。ある日、月の7割が爆発して7割方蒸発した。そして、犯人は来年には地球も同じように爆発させるという。その犯人は、何故か中学生の学校の先生になり、生徒達は先生を抹殺するために、日夜殺し屋として暗殺を繰り返す——。と、書くと。なにやら非常に物騒で陰惨な話かと想像されると思いますが、さにあらず。殺せんせー(生徒のつけたあだ名)は、時速マッハ20でうごき回れ、空を飛べる能力を、イタリアにいてジェラートを買って来るためだけに使ったり、案外おちょこちょいで、弱点も多い。そして、先生に向け暗殺を企てた生徒は、失敗すると、返す手でぴっぴかに先生に磨かれてしまうのだ(髪をつやつやにされたり、爪のお手入れなどはお手のもの)。そして、たぶん。先生は、自分達の生徒をいろいろなものから守り、育てている。本物の『先生』のように。殺せんせーの、真の目的が何なのかは、まだ本編では触れられていないが、きっとこの先、そこを軸に物語は展開されていくに違いない。一見奇をてらったように見える、王道作品。これからの展開に、期待しています。

京王書籍販売 本社営業担当 (コミック) / 山川 美香

- 熱血教師モノだけど、設定と殺せんせーのキャラのかわいさでここまで読ませるとは！

公務員 / 東くるみ

- 前作「魔人探偵脳嚙ネウロ」よりも毒気が少なく誰もが読み易く、しかも面白さはがっつりと残っている。地球を侵略しに来ている割には怒り・泣き・笑い、好きな趣味もこなし自分が受け持った落ちこぼれクラスの面倒もしっかり以上にみてまわる。なんとも憎めない侵略者の真の意図どこにあるのか？まだまだ謎も多くこれから楽しみな作品です！

バイイングマネージャー / 日吉 雄

- 暗殺教室。気になってはいたのですが、どうせ、教室の中で生徒が殺し合ったりしてグロくて、怖くて。。を想像して、読まず嫌いしてました。反省！今じゃすっかり殺せんせーが大好きです。チャーミング。。

ヴァイオリニスト / 佐藤 帆乃佳

- こわいけど、殺先生が担任だったら学校が楽しそうです。

主婦 / 紺野 泉

- 斬新なテーマとタイトルにインパクト抜群の主人公。奇抜であるようにみえて、王道の少年マンガは、作者が考えに考え抜いたことをうかがわせる。それでいて勉強の価値、教育の重要性を再認識させてくれる。1年の展開制限が惜しい……と思わせるマンガはそうそうない。また誰が読んでも不快にならないもの推したい理由の一つ。改めてネタこそがマンガの命だと思う。とりあえず、学校の推薦図書にしておくべき。先生も生徒も読めと(笑)。

毎日新聞デジタル「まんたんウェブ編集部」副編集長 / 河村 成浩

- この作品が作品上の1年で終われば傑作になるとは思いますが…

芳進堂ラムラ店・コミック担当 / 川崎 一利

- 先生と生徒の殺し合いなんて、もう珍しくないんじゃないのと、ややハズに構えて読み始めたら、意外や意外、「まっとうな先生マンガ」であることに驚愕。一方、理想の教師が「人類の敵」というあたりでしっかり毒も効いている。これは現代版『二十四の瞳』ではないですか？ 蛇足ながら、この異常な設定をわずか8ページで説明しきったことにも感心しました。

中央公論新社 文芸局次長 / 石田 汗太

- 殺すという言葉が別の響きに聞こえます。なんだかよくわからないのですが、スゴイ漫画だと思いました。殺センサーが可愛いすぎです。

ジャック鷺津駅前ブック館 コミック担当 / 内藤沙織

- 考え尽くされた絶対的バランス感覚に面白いロジックを全部入れた作られた面白いマンガ。でも。面白いものは面白い。

スタジオフーズ / 小林 智之

- この作者が創り出す、変な空気感は何なんのだろうか。キャラクターの設定やストーリーも、一見「ポーボボボ」の様な奇天烈ギャグ漫画なのかな、と思いきや何故かスッキリしている。殺センサーと生徒、そして暗殺者との絡みも何故かバランスがとれていてわかりやすい。結局、殺センサーって何なんだ？ と、いつも思っていますが、ストーリーが無駄に殺伐とせず、喜怒哀楽に満ちているのは、この作者のすごいところです。

DJ / DJ RANUMA

- 人間味あふれる謎の生物「殺せんせー」を置くことで、不謹慎になってしまいがちな「暗殺」というモチーフを、明るく描く作者のセンスには脱帽です。

丸善・ジュンク堂書店営業本部 コミック総括担当 / 小磯 洋

- ネウロの作者がもうすこし王道な少年漫画を描いたら…という作品。ただし、話の細かい癖が王道でない感覚がとても新鮮です。読みながら、続きとなにより終え方が気になる作品。

メガマソ / 涼平

- タイトルを見て眉をひそめる人も多いでしょうが、中身はごく普通の「型破り教師と落ちこぼれ生徒の交流を描いた学園ドラマ」ですよ。先生の型破り部分が、元ヤンキーか、ヤクザの組長の孫娘か、触手かという違いだけです。ヌルフフフ。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店コミック担当 / 山本さとみ

- どう考えてもあり得ない設定なのに、すんなりと受け入れられてしまうのが不思議。面白さだけでいったらノミネート作品中で1番!!

凸版印刷株式会社 / 紺野 慎一

- 「金八先生」や「GTO」など、定型化していた学園青春ドラマに新風を吹き込んだかの問題作「女王の教室」がごとく、マンガにしか成し得ないアイデアと表現で新たな教師像を創りだした。ともすれば設定倒れになりかねない奇抜なキャラクターを中心に据え、一見異色作に見えながらも本筋は王道的であり、著者の力量を感じる。

Web サイト「最後通牒」管理人 / 高嶺 おろし

- 殺せんせーが魅力的すぎです。今後どうなるのか気になりまくりな作品です。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

マンガ大賞2013 ノミネート作品

ビームコミックス / エンターブレイン

「九井諒子作品集 竜のかわいい七つの子」九井諒子

選考員コメント・1次選考

- 今一番楽しみにしている作家さんです。新しい漫画がここにあると思います。いつもハッとさせられますし、グッと掴まれます。

bar 図書室の店主 / 岡部愛 (のん)

- 前作に引き続き、日常にほんの少しのSF成分とコミカルさを絶妙に混ぜ込んだ作風は流石の一言。更にバラティに富んだ作品内容は読み手に全く飽きを感じさせず、短編作品集としてこれ以上無い出来なのでは？マイナス要素が特に見当たらず、どんな人にもオススメできる作品だと思いました。

醤油製造業 / 小野塚 博之

- 同人誌時代から注目していましたが、商業デビューしてからも作風が変わらない所が◎。シュールでシニカルな視線から描かれた、「ありそうでありえない」世界が面白い。ショートショートなのも短編好きとしてはかなり嬉しい。

ホビー系企業勤務 / 畑中 瀬路奈

- 収録されているのはそれぞれ短篇なんだけど、えっ、その着想を短篇で終わらせてしまっているの？ってくらい濃密な物語を味あわせてくれる。ほんとに贅沢な1冊です。

米子東高校 司書 / 野間 勤

- 今年の短編ベストは、この中に収録されている『金なし百禄』です。くすくす笑いながら、気がづいたら泣かされていた。ほろり。あっという間に読み終えるページ数、でも、ずっしりと心に残る。大好きでした。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中 香織

- 前作「竜の学校は山の上」に引き続き、相変わらず設定からひねりの効いたおはなしも、そのおはなしによって描き分けられるタッチも、九井諒子さんファン (僕) を裏切らないおもしろさでした。

クリエイティブディレクター / モリサワ タケシ

- 日常系ファンタジーの極み！

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松 由夏

- 「才気」というのはこういうものだと思う。私はこの湧き上がるような才能の迸りに触れるだけで、マンガはまだまだ素敵だと安心する。

コミティア実行委員会代表 / 中村 公彦

- 人魚、狼男、紙人間。少し不思議な物語でも、話にぐいぐいと引き込まれてしまう。ファンタジー、現代、西洋、日本昔話風と舞台や絵柄が違ってても、奥底に流れるそこはかとない哀しみ、優しさ、愛おしさは変わらない。

主婦 / 戸田 仁美

選考員コメント・2次選考

- 前作に引き続き、日常にほんの少しのSF成分とコミカルさを絶妙に混ぜ込んだ作風は流石の一言。更にバラエティに富んだ作品内容は読み手に全く飽きを感じさせず、短編作品集としてこれ以上無い出来なのでは？マイナス要素が特に見当たらず、どんな人にもオススメできる作品だと思いました。

醤油製造業 / 小野塚 博之

- この作者が立ち上げる作品世界のことが私は大好きです。狼男症候群の話は連作のようになっていますが、それぞれの短編が多彩で楽しませてくれます。飽きないんです。予想がつかないんです。読み始めるときのワクワク感が半端ないです。「神のみぞ知る」という描き下ろし短編を目当てに『にゃんソロ』を買ってしまうくらい好きです。

米子東高校 司書 / 野間 勤

- センスと表現力で直球のファンタジーを紡いだ、広く読まれるべき正統派の一冊。

書評家 / 福井 健太

- もうね、解ってるんです。私が、友達や家族や、誰かの繋がりとか情に弱ってことは！でも、それでもやっぱり私は、この作品集が好きだといいたい。暑苦しいと思われても、仕方ありません。だって良いものは良いんだもの。おすすめは「金なし百碌」です。老人の涙が、脳裏に残ってなりません。ほろり。そして、へんなおかしさというか、随所に見られるユーモアもたまりません。更に加えて、切実さとかシリアスさも。でも、どれも人を追い詰めない。構えずに読める。それが一番、私には有難かった。物語に飲みこまれたいけれど襲われたくはないから。酔いたいけれど酔いつぶれたくはないから。…そんな、絶妙なバランスでできた短編集です（伝わるかなあ）。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中 香織

- しみじみと良く、読み返したくなる作品。絵柄も丁寧でかわいい。

公務員 / 東 くるみ

- 大人にお薦めしたいです。お家で、お酒など飲みながら読んでほしいです。じんわり涙の出る話、切なくなる話、ニヤリとする話。懐かしい昔話のような、じっくり楽しめる短篇集です。

金海堂イオン隼人国分店 コミック担当 / 園田 美智子

- 「きらめくような才能」とはこのことだと思う。この作家のこういう時期に出会えたことに感謝したい。

コミティア実行委員会代表 / 中村 公彦

- これだけ引き出しがあるのもすごいなあ、と思います。幻想の生き物の、新たな扱い方を見たように思います。

会社員 / 林

- 人魚、狼男、紙人間。少し不思議な物語でも、話にぐいぐいと引き込まれてしまう。ファンタジー、現代、西洋、日本昔話風と舞台や絵柄が違ってても、奥底に流れるそこはかかない哀しみ、優しさ、愛おしさは変わらない。

主婦 / 戸田 仁美

- センス・オブ・ワンダー、まさにこの言葉。この賞をきっかけにさらに広く読まれて欲しい。

往来堂書店コミック担当 / 三木 雄太

- これまでいろいろな漫画を読んできましたが、それでも漫画で新たな衝撃を与えてくれる数少ない漫画家さんだと思っています。この作品集の作品からも漫画というモノの新しい楽しみをみせてもらったように感じます。

bar 図書室の店主 / 岡部愛 (のん)

- すこし・ふしぎイズムの後継者！と、勝手に思っています。

医師 / 岸本 倫太郎

- この人はいったいどれだけ引き出しを持っているのか。話に合わせて絵柄も変えられてしまっは、一括りのコメントがしづらだけれど、一つだけ確実に言えることは、この人の世界は優しい。元野山の神様現水槽の神様、頑張ってる。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店コミック担当 / 山本さとみ

- ひとつひとつがアイデアとドラマにあふれた短編集。海側と山側にあって仲違いして、一触即発だった国と国との間に竜が居座り、硬直した時間の中で通った心が竜とその子の巣立ちを機会に繋がり、多くを動かして平穏へと導く。美しい見目をしながらも、人として扱われることのない人魚が現れる海辺の街で、陸に倒れていた人魚を見つけた少年が人魚の願いを感じ取って、他人から奇異に見られながらも人魚に協力する。中学受験に失敗するかもと怯える少女の前に現れた魚の姿をした神様を、一生懸命に世話するうちに挫折しても失敗しても、先はまだあり続いていくんだと知る。深いテーマをどこかコミカルさを含んだ絵に描いて引きつけ読ませる作品たち。それらから浮かぶ家族や親子の関係を感じ噛みしめ味わいたい。

書評家 / タニグチリウイチ

- 斬新な発想とロマンの溢れた短編集。数々の独創的なアイディアは圧巻である。特に秀逸なのは、着衣中の服をパジャマに替える超能力をもつ女子高生を描いた「犬谷家の人々」。そんな超能力、誰も見たことない！ そのほか、狼男症候群の息子の葛藤がリアルな「狼は嘘をつかない」、都いちばんの画家が自らの作品から抜け出た人間や動物に助けられる「金なし白祿」も、心を揺さぶる。様々なタッチを使い分ける秀逸な画力も、作品に奥行きと深みを与えている。

弁護士 長島・大野・常松法律事務所 / 三村 量一

- ジャンルに分けるとするなら「ファンタジー」か「SF」なのだろうけど、その枠だけでは納まらないこの作者。ちょっと毒の効いた、でも後味はさわやかなショートストーリーがクセになります。九井さんにしか描けない九井ワールドにどっぷりです。

ホビー系企業勤務 / 畑中 瀬路奈

- 驚いた！前作からの大躍進っぷりに！前作の「うまさ」から、エモーショナルな方向に舵をきり（うまさは残しつつ）、軽やかで、自由で、でもどこか冷静さのある作品に仕上がっている。同人誌で発表したという「金なし白祿」を読み、「なるほど、こういうことがやりたい作家さんだったのか」たヒザを打った。思い出だけで、ほろり。

マンガライター / 門倉 紫麻

- 九井諒子の短編集第2弾。どの作品もイメージーションをウィットに富み、かつ起承転結がしっかりしていて読みやすいが、僕が本作のなかでどの作品をオススメするかと問われればまず「金なし白祿」、次いで「人魚禁猟区」と答える。実はどちらもコミティアで同人誌として発表されたものだ。自身の実力のみで完璧にこなしてしまう彼女には雑誌掲載、そして単行本化、という既存の枠組みは却って窮屈なだけなのではないか。そんなことすら考えてしまう。

ヴィレッジヴァンガード ファボーレ店 店長 / 西尾 雄太

- マンガの可能性が広がる短篇集です！作品の一つ一つに、新たな可能性をもって望んでいる、新しいことをやろう、という意図は、もう榎本俊二さんとか、そういう方々のレベルかと。特に狼男の一遍、育児マンガという近年のあるあるマンガをフェイク・ドキュメンタリーマンガ、「絵が飛び出す」というシンプルなアイデアを整理に整理を重ねた設定で絵も含めて読ませてくれる作品、想像を次々に越えて行ってくれて、ああ、漫画を読むってこういうことですよ、という楽しさに満ちあふれています。

ニッポン放送アナウンサー / 吉田 尚記

マンガ大賞2013 ノミネート作品

イースト・プレス

「人間仮免中」卯月妙子

選考員コメント・1次選考

- 昨今の漫画界で、こういう作品に出会えたことにありがとうございますと言いたくなりました。今の世の中の流行を真逆に行く。もうそれでいい。そういうのがいい。人間を描くマンガってそういうもんじゃないかと思います。書店員としてもマンガFANとしても、こういう漫画を大事にしていきたいです。

ジャック鷺津駅前ブック館 コミック担当 / 内藤 沙織

- とにかくすごいものを見た！という気にさせられる。「こんな生き方をしたい」とか「素晴らしい人生だ」とは、とても思えないけれども、「凄い生き様だ」と思う。何よりあんな状況にあって、それでもマンガを描くことを選んでくれた。そのことに感動する。

ライター / 芝田 隆広

- これはキツイマンガ。おすすめしたいというよりは、評価せざるを得ないという感じ。結構精神にくる。

株式会社アルナシステム代表取締役 / 平田 淳

- 何もかもが壮絶。魂そのものを紙に焼き付けたかのよう。こんな作品に出会ってしまったらもろ手を挙げて降参するのみです。

ヴィレッジヴァンガード沖縄エリア エリアマネージャー / 大山 敏樹

- さまざまな才能を持つ卯月先生が、マンガという手段を選んでこの体験を記してくれたことに感謝。マンガでなければ表現できなかった物語だと思う。

ブログ「漫画食堂」管理人 / 梅本 ゆうこ

- この1冊を読み終えたとき、物凄く体力を消耗しました。後半のページにある卯月さんの「生きてるって最高だ！」のひと言に重みがあり、そして救われました。様々な場面で、おそらくその場合は楽しむことなんて難しいだろうと思うことも、楽しんだり、喜んだりして、何てすごい人なんだ！と驚かされます。オススメしますが、覚悟をして読んでください。

有隣堂 恵比寿店 コミック担当 / 桶谷 佳代

- 脳みそをガクガク揺さぶられる衝撃！ キレて、コワれて、生き延びて、崩壊した自らの顔面を鏡で見るや創作意欲が燃えあがり、描いた絵を見て「貰ったああああ！」。なにもかも壮絶で、言葉もありません。圧倒的でした。

朝日新聞記者 / 小原 篤

- 2012年一番衝撃を受けた作品。読んでほしいけど、おすすめはできない。…けど、読んでみてほしい。わたしは1冊読むのに途中で苦しくなって何日もかかった。卯月さんの人生はあまりにぶっ飛んでいて、自分とは無縁のようだけどまったくありえない話でもない。自分がそうなったときにこんなにちゃんと付き合ってくれるパートナーがいるのか。また、パートナーがそうなった時に自分はいくらまでできるのか。色々考えてしまった。ただ今言えるのは、卯月さん生きててくれて、この作品描く気になってくれてありがとう。ってことだけ。

主婦 (元書店員) / 赤坂 真実

- おもしろい、とかおもしろくない、とかでは、はかれないマンガ。すごい、とか、すさまじい、とかどの言葉も当てはまるようで当てはまらないというか。選んでおいてなんですけど、すっごく馬力があるけど、読んで！としかいえないようなない。

通販部 部長兼コミック総括 / 宮川 元良

- こんなに身につまされる漫画は山田花子の作品以来でした。人間の尊厳について考えさせられました。

PENICILLIN vocal / HAKUEI

- 2012年ベスト。圧倒的な人間賛歌。これだけの体験をして、そこから生き延びて、さらに他人の魂の根底を震わすようなマンガを描いた、というその事自体に感謝を捧げたい。

ソフトウェアエンジニア / 第貳齋藤

- それは「生き地獄」かもしれないし、そうではないのかもしれない。多分、主人公にとってはどうでもよいことだ。ただそんな「修羅」の生をこんな風に明るく描く人は初めて見た。そして、そこが「地獄」であっても、人は死なない限り、その人なりに生きてゆく。

コミティア実行委員会代表 / 中村 公彦

選考員コメント・2次選考

- ト라우マになるぐらい痛い。

PENICILLIN vocal / HAKUEI

- 1位にするか迷った。衝撃度は圧倒的 NO.1 です。

漫画全巻ドットコム 代表 / 安藤 拓郎

- 一次審査の時、この漫画をいれようかどうか、ものすごく悩み、結果、入れませんでした。只々、衝撃で、只、泣けてきていて、ページをめくる手が震えた。死にたいくらい生きていたい気持ちです。

ミュージシャン / 後藤 まりこ

- いきなり自殺してしまう所からはじまり、その後も救われることなく淡々と現実が進んで行く様が何とも衝撃的です。読めば絶対印象にも残りますし、脳裏に焼き付くかと思いますが、故に若干読み手を選んでしまうのが悩ましい一冊です。

バイイングマネージャー / 日吉 雄

- 読むには馬力がいらいます。のほほんエッセイコミックと思って買えばあまりの重さに耐えられないかも。万人にはオススメできない。個人的にはそう思ったこのマンガ。感動した、とはいえないけど「とにかく凄い」とは言えません。何が凄いかは人それぞれ。読後に何かを感じることができるのでは、と思います。

通販部 部長兼コミック総括 / 宮川 元良

- これを読んだ衝撃は、いまの私には言葉に出来ない。失礼を承知で言うなら、「一度死んだ人の言葉」を読んでいるような気持ちだった。

コミティア実行委員会代表 / 中村 公彦

- 魂そのものを紙に焼き付けたかのよう。こんな作品に出会ってしまったらもろ手を挙げて降参するのみです。

ヴィレッジヴァンガード沖縄エリア エリアマネージャー / 大山 敏樹

- 壮絶な体験を、この絵で描かなければならなかった背景。そしてこの絵でなければここまで表現できなかっただろう必然性。絵とストーリーが、ここまで密接に絡んだマンガは読んだことがなかったかもしれない。いろいろな才能を持つ卯月先生が、マンガという手段でこの体験を表現してくれたことに感謝したいです。

ブログ「漫画食堂」管理人 / 梅本 ゆうこ

- マンガとしてのクオリティを云々するより以前に、「人間が生きる」ことが剥き出しになって描かれている。そのことがとにかく凄い。ここまで崩れても人は生きていける。それはある意味、読者に力を与えるかもしれない。

ブロガー / サイトウ マサトク

- そうぜつ！人生ってすばらしい。

文筆業 / 海猫沢 めろん

- 泣ける。ひたすら泣ける。

京都精華大学特任准教授・NORISHIROKS / ひでつう

- 脳みそをガクガク揺さぶられる衝撃！ キレて、コワれて、生き延びて、崩壊した自らの顔面を鏡で見るや創作意欲が燃えあがり、描いた絵を見て「貰ったあああああ！」。なんにもかも壮絶で、言葉もありません。圧倒的でした。

朝日新聞記者 / 小原 篤

- これは、昨年読んで衝撃的でした。大賞です！

有隣堂 恵比寿店 コミック担当 / 桶谷 佳代

- 壮絶・・・。その一言に限る。

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松 由夏

- 昨年読んだ中で、最もインパクトがあった作品の一つ。人間として尊敬できるとはいえないけれども、スゴイ人生だと思う。あれだけの体験をしたあとで、マンガを選んできた、というのもうれしかった。

ライター / 芝田 隆広

- 2012年のベスト。圧倒的な人間賛歌。このひとが、これだけの体験をして、そこから生き延びて、さらに他の人間の魂を根底から震わすようなマンガを描き切った、というその事自体に感謝を捧げたい。ありがとうございます。

ソフトウェアエンジニア / 第弐齋藤

マンガ大賞2013 ノミネート作品

週刊ヤングジャンプ / 集英社

「テラフォーマーズ」 貴家悠 橋賢一

選考員コメント・1次選考

- 「これ、最後どうなるんだろう？」3巻の時点では何とも言えない感じです。ここまでも十分面白い。でも展開次第では、「最初の設定が面白かったマンガ」という評価になると思いますし、そこを越えた名作になる可能性も感じます。

会社員 / 林

- 突拍子もないストーリー展開と有無を言わせぬ迫力、加えて妙な説得力すらある。

声優 / 後藤 邑子

- まさかの進化しすぎたゴキブリ退治。昆虫や動物の特性を人間に与え、特殊能力を持たせるという所も好き。若干、中2的な内容ですが面白いストーリーです。

DJ / DJ RANUMA

- 主人公たちに襲い掛かる反則レベルの圧倒的に強大な敵。ようやく希望の光が見えたかに思わせてそれをさらに強大な敵で容赦なく叩き潰す。こんな絶望感初めて！！もっと絶望させてくれ！！というなんかよくわからん期待が盛り上がる。

ヴィレッジヴァンガード沖縄エリア エリアマネージャー / 大山 敏樹

- 現実の世界で小さいくせに恐れられているゴキブリが人間大（人間よりもデカイ。）に進化している恐怖。身体能力と知能も凄まじく、感情の読み取れない表情にドキドキさせられる。手術によって特殊能力を身に付けている登場人物達が、感情移入した途端にあっさりとやられてしまうという潔さにも脱帽。

アーティスト / KG

- ここまでの絶望感は初期の GANTZ 以来。橘さんの絵も相変わらず綺麗。

会社員 / 齋藤 隼

- GANTZ を初めて読んだ時と同じ感覚。気持ち悪いけどめっちゃくちゃ面白い！ただ、実写化は勘弁してください。

シンガー / 山野井 千佳

- 本格派っぽいけど、実は幼稚でぶっとんだ SF エンターテインメントっぷりがたまりません。

PENICILLIN vocal / HAKUEI

- 「美味しんぼ」は、「うまいものを食べる」という感動を、初めてマンガにしたメガヒット作品。「金田一少年の事件簿」は、謎が解けた時の納得感が、初めてマンガになった作品。マンガは誰もが共感できる感情を、一点突破で大展開した時に、新しいジャンルが生まれるのだと思いますが……！この、テラフォーマーズ、人類すべてが持っているあの不思議な感情が初めてマンガになって、大展開されています。その、人類普遍の感覚とは、「ゴキブリが嫌い」！ この、ゴキブリが嫌い、という感情をエンターテインメントにするために、火星に人が移住する、テラフォーミング計画なんていう超大風呂敷まで広げて、惜しげも無く様々な設定がつぎ込まれて、ほんの数ページでその設定が無残に破壊され、読者の想像のスピードを、はるかに越えて行きます。根っこの「ゴキブリが嫌い！」という感情が強烈なだけに、強烈に、ページをめくっちゃうんですよねえ……！

ニッポン放送アナウンサー / 吉田 尚記

- 奇抜なアイデアから、今まで読者が気づかなかった「なぜと問われれば簡単なこと」をよく考えて書かれていてハッと気づかされることがある。様々な情報を与えて重要登場人物になろうとしている矢先にやられてしまうという悪く言えばキャラの無駄遣いをしている物語構成にスカッと感さを感じられる。更にはゴキブリが読者の期待を良い意味で裏切る成長を遂げて、裏で糸を引いているものの存在を感じさせる。4巻5巻と一気に読みたいと思わせる作品！！

ネクスト KG マネージャー / 藤井 紀公

選考員コメント・2次選考

- 良い意味でエンターテインメント色が強くて面白い。

PENICILLIN vocal / HAKUEI

- 一体何がどうなってゴキブリがあんな姿になるんだ！？そんな疑問も消え去るほどの圧倒的な闘いの連続。闘いの最中も無表情なゴキブリ達にドキドキしつつも、人間側のキャラクター達の能力にワクワクする。密かに実写映画になって欲しいと願ってます、はい。

アーティスト / KG

- 久しぶりのドキドキとワクワクが詰まっているマンガ！！現在まだ4巻までしか創刊していないが、20巻ぐらいまで一気に読みたいと思える展開とそこに隠された様々な謎の要素。ここ最近で最高の男性マンガ！！

ネクスト KG マネージャー / 藤井 紀公

- 進撃の巨人を読んだ時以来の、衝撃。衝撃。怖すぎる。。ゴキーーー！！発想がすごいです。また進化した姿の怖いこと気持ち悪いこと怖い、面白い、気持ち悪い、怖い、やっぱり面白いのループで、とまりません扉あけたら、アイツがいたら。。と考えたりしちゃったりしてまじで、やめて、まじでも面白い。

ヴァイオリニスト / 佐藤 帆乃佳

- 黒いアレと戦う話だと噂で聞いており、なるべく読みたくないと思っていました。正直マンガ大賞のノミネートからも外れるように祈ってました。ノミネートされてしまったので、仕方なく読みました。…悔しいけど面白かったです。1位にあげるのも悔しい！でも面白いのよ…。

リプロ池袋本店 コミック係 / 小池 由記

- 主人公たちに襲い掛かる反則レベルの圧倒的に強大な敵。ようやく希望の光が見えたかに思わせてそれをさらに強大な敵で容赦なく叩き潰す。こんな絶望感初めて！！もっと絶望させてくれ！！というなんかよくわからん期待が盛り上がります。

ヴィレッジヴァンガード沖縄エリア エリアマネージャー / 大山 敏樹

- 「GANTZ」「進撃の巨人」に続く、絶望系名作マンガになりそうな予感。ゴキブリを嫌って駆除してきた人間が、火星で間逆の立場に立たされる、という設定が面白すぎて、不謹慎だけどこのまま人類が蹂躪されるところを見続けたい…という気持ちに。

ブログ「漫画食堂」管理人 / 梅本 ゆうこ

- 嫌いなものを聞かれるとゴキブリと言ってます。だけど、この漫画は面白くてしょうがない！！いちいち衝撃！！心拍数あげたい時におすすめです。

フジテレビアナウンサー / 松尾 翠

- 予定調和を次々と壊していく展開と、キャラクターたちの行動原理が、嫌悪とか貧困とかがあってのがいい。

書楽阿佐ヶ谷店 / 石田 充

- 「人間がゴキブリを嫌いなように、ゴキブリも人間が嫌い」そういわれると、この宇宙一大がかりなゴキブリ退治もなんだか納得できる気がします。長い時間をかけて行われるこの壮絶な駆除が、今後どうなっていくのか楽しみです。

教師 / 持丸 宏司

- アクションものはやはりテラフォーマーズ。ヤンジャンらしい、ガンツの後釜になりそう。この作品だけは、実写化に期待しかない。

風男塾 / 原田 まりる

- じわじわと。ひたすらじわじわと。

京都精華大学特任准教授・NORISHIROKS / ひでつう

- マーベルヒーローズ好きの私には、たまらない作品。ゴキブリは世界で一番苦手なものですが、バグス手術を受けた人間達が繰り出す特殊能力の数々や、謎の伏線は今後も見逃せない内容になっています。それにしても、作中のゴキブリは進化しすぎじゃないだろうか。。こんなのできたら、能力以前の問題で無理。

DJ / DJ RANUMA

- 設定と雰囲気の奇抜さに対して物語が予想以上にしっかりと組み立てられている。ので、とりあえずどんどん引き込まれてしまう。この素敵さ。

メガマソ / 涼平

- 票を投じざるを得ない作品。登場人物が余りに死に過ぎるのは気になるが、今後の展開を気にせずにはいられない。それにしてもゴキブリ… ますます嫌いになった w

凸版印刷株式会社 / 紺野 慎一

- クローネンバーグの映画を見たような衝撃。初めて奴を見た時は背筋が文字通り「ブルっ」と震えました。ともかくビックリした作品。実際に想像できるところがまた怖いですね。すごすぎて人には薦められない作品です(笑)。そう言いながら薦めていました。

COMIC ZIN コミックバイヤー / 塚本 浩司

- えぐい。でも一気に読んじゃう。

シンガー / 山野井 千佳

マンガ大賞2013 ノミネート作品

イブニング / 講談社

「山賊ダイアリー」岡本健太郎

選考員コメント・1次選考

- 狩猟をマンガにしてしまう発想が斬新！アウトドア、銃、料理、いろいろな角度から楽しめる。かなり売れてはいるが、もっと脚光を浴びていい作品だと思っています。

本と文具ツモリ / 津守 晋祐

- よくよく考えると、去年大賞の「銀の匙」と同じようなテーマでありつつも、切り口の全く異なるマンガです。違うのは、「食べることに感謝する」がメインテーマではなく、「生きるための知恵≠戦い」に注力したマッチョなマンガです。分かりやすく言うと、現実版モンスターハンターです（笑）

デザイナー / 佐藤ユウ

- 「山賊＝猟師」たちが、どうやって獲物を獲っているのか、どうやって獲物を食べているのか、が読んでいてとにかく面白い。

ブロガー / サイトウ マサトク

- たぶん日本で唯一の猟師マンガ家の恐らくライフワーク作品。連載が始まった当時、「これ、どうなるんだ？」とやや訝しげに読んでいましたが、回を追うごとにその微妙な違和感に引きこまれ、いまでは淡々とした作風のなかにホンワカ、ジンワリ、クスクスなどが入り交じった絶妙のバランスが味わい深いです。『百姓貴族』と並び、「命をいただくことの意味」を問いかけてくれる、まさに友達におすすめしたい一冊です。現 2 巻続刊

よろず編集者 / 松浦 達也

- 犬好き・猫好きとは一線を画した、生き物好きにはたまらない。狩って、食らうというレベルの高い（最上級の）愛で方を日常として描く狩猟エッセイまんが。生々しいシーンも、なぜかほのぼのしてしまう。

シンガーソングライターの妻 / 谷澤由香里

- 「カラス食べたことありますか？」そんな帯に恐る恐る！？惹かれて購入したのが運の尽きか一気に虜に・・・方法は違えど僕らが生きるために命をいただいている事を改めて考えさせられました。

コロムビア・マーケティング株式会社 福岡営業所 / 阿部 大介

- 狩りしてる人たちって、今の普通の日本人が体験しないようなことを日常的に体験してる。カルチャーショック！

書楽阿佐ヶ谷店 / 石田 充

- 普通に生きてたら絶対に知ることがない方々の事情を知ることが出来るのが、エッセイ漫画の醍醐味。それが、人類最古の職業、「猟師」だったら……！普通は体験したことのない、猟師さんの現実が、淡々と描かれています。もちろん、散弾銃と空気銃の違い、採っていい鳥とダメな鳥、罾や猟犬という狩猟知識の他に、僕らと同じ時代に生きているがゆえの、あまりに意外で納得の行く事情が次々と。そりゃ、猟師さんもマンションに住むし、携帯電話も使いますよねえ……！自分で体験したことを描いたがゆえの迫力と皮膚感覚、満点！

ニッポン放送アナウンサー / 吉田 尚記

選考員コメント・2次選考

- マジで狩りをやりたくなくなりました。

PENICILLIN vocal / HAKUEI

- こんな生活している人がいるんだ！？ってまず素直に驚きます。描かれている「猟」についてのあれこれ、仕留めた獲物を使った「料理・調理」のあれこれ、どれもなかなか馴染みのないものばかり、読んでいてとても新鮮な驚きと感動を味わえました。どこか客観的で冷めている解説の感じも良い味出しています。

醤油製造業 / 小野塚 博之

- おもしろいし、リアル。絵柄のおかげで、獲物の血とかの描写が怖くないのであっさりポップに読めます。せやけど、いのちのありがたさもわかります◎

ミュージシャン / 後藤 まりこ

- 山賊と言われて、まず山賊のマンガだと思ってそんなに手を出さなかったマンガでしたが、内容は漫画家自身が狩猟をするという話です。このマンガの面白みは、マンガ自身が狩猟を体験してそれを忠実に描かれていることだと思います。狩猟というものを絵を通して説明されていますので、色んなことに「そうなんだ」「美味しそう」「そんな事もあるのか」とついつい納得させられてしまいます。一回手にとって読んでもらおうと内容の面白味は保証できます！

デザイナー / 平沼 寛史

- 猟師時々、マンガ家として生活している作者の実体験をもとにしたマンガです。猟師という世界を知れるだけでなく、鳥や、イノシシの解体とか仕留めた獲物を食べるまでの過程も詳しく書いてとても勉強になります。あ。絵柄がライトなのでグロくはないですよ。勉強といってしまうと堅苦しく感じるかもしれませんが物語の語り口が楽しいので、マンガの形を借りたなかではなく、マンガとしてとても楽しいです。今は手軽に肉が手に入るので、普段、何も疑問を感じずに肉を食べていたりするのですが、その過程に生き物の死があるということをこのマンガは思い出させてくれました。命を食べているんだなど。やっぱりものを残すのはよくないし、いただきます、ご馳走様は今まで以上に感謝を込めて言わないとなーと。食べることに對して、さらに禪を引き締めないと思えるマンガでした。

Sler 主任 / 廣瀬 公将

- 自分の知らない世界をのぞくことの出来る漫画はいつも魅力的。「カラス食べたことありますか？」という1巻の帯を見た時「そもそもカラスって食べられるのか!？」と、たいへん衝撃をうけました。そんな衝撃の体験が実に淡々とつづられていて、他の生き物の命を大切にいただくという人間の本来の姿は、彼らにとっては驚くようなことではない日常なのだなど感心させられました。

伊吉書院 類家店 / 中村 深雪

- 「カラス食べたことありますか？」そんな帯に恐る恐る! ? 惹かれて購入したのが運の尽きか読んでみると一気に虜に・・・人間の、いや動物の本能なのか! ? 方法は違えど僕らが生きるために命をいただいている事を改めて考えさせられた

コロムビア・マーケティング株式会社 福岡営業所 / 阿部 大介

- たぶん日本で唯一の猟師マンガ家の恐らくライフワーク作品。連載が始まった当時、「これ、どうなるんだ?」とやや訝しげに読んでいたものの、回を追うごとにその微妙な違和感に引きこまれ、いまでは淡々とした作風のなかにホンワカ、ジンワリ、クスクスなどが入り交じった絶妙のバランスが楽しみで仕方がありません。コミカルなタッチながら「命をいただくことの意味」を問いかける、さりげない深みも魅力的。ふだんマンガを読む人だけでなく、読まない人にも手渡したくなる作品です。

よろず編集者 / 松浦 達也

- 知識、雑学が学べるところがポイント。無縁であった猟師生活に興味しかわかない。

風男塾 / 原田 まりる

- 淡々と。ひたすら淡々。

京都精華大学特任准教授・NORISHIROKS / ひでつう

- 猟銃の扱いや銃刀法・狩猟免許・保護鳥類など、あることは知っていても詳細がどうなっているのか分からない世界を軽妙かつ丁寧に紹介し、単に専門職 TIPS に溢れた作品というだけでは括れないテーマの広さに吸い寄せられます。

住職 / 蟬丸 P

- ジビエめっちゃくちゃ食べたくなりました！

フリーランス / 大倉 壽子

- 漫画家兼猟師・・・意味がわかんない所が凄い。現代にも猟師っているんだ・・・という驚き。

株成田本店 とわだ店 / 安田 幸

- 動物としての本能を刺激される。リアルモンスターハンター。

会社員 / 齋藤 隼

- 命とか、自然と人間とか、御託を並べれば作中に深いテーマはいくらでもあるけれど、何はともあれ面白いのだ！

シンガーソングライターの妻 / 谷澤由香里

- よくよく考えると、去年大賞の「銀の匙」と同じようなテーマでありつつも、切り口の全く異なるマンガです。違うのは、「食べることに感謝する」がメインテーマではなく、「生きるための知恵≠戦い」に注力したマッチョなマンガです。分かりやすく言うと、現実版モンスターハンターです（笑）

デザイナー / 佐藤ユウ

- あこがれる。

映像系ライター / 縣 丈弘

マンガ大賞2013 ノミネート作品

ビッグコミックスピリッツ / 小学館

「ぼくらのフンカ祭」真造圭伍

選考員コメント・1次選考

- やはり真造圭伍の作品が好きだ！帯で浅野いにおが書いているがどこがどう良いか説明など要らない。とにかく読んでみてください。良いものは良いとしか言えないのだ！

あゆみ BOOKS 仙台店 副店長 / 土屋 修一

- 男子高校生はかくも愛おしいものなのか。男に生まれ変わったら、彼らのようでありたい。青臭く心地よい癖のある青春まんが。真造圭伍は今年いちおしの一人。今後の彼の作品もたのしみ。

シンガーソングライターの妻 / 谷澤由香里

- 誰にも知られない、記録にも残らない、でも本人の中だけに一等星のごとく輝き続ける思い出。誰もが大人り小なり持っている学生時代の物語。

クリエイティブディレクター / モリサワ タケシ

- 青春マンガの傑作。男子のバカさと切なさが胸を打つ。

ダ・ヴィンチ編集長 / 関口 靖彦

- 青春が、とても巧く描ける漫画家。少年たちのナイーブな気持ちをさらっと描いてる。

書楽阿佐ヶ谷店 / 石田 充

- クールでイケメンの富山と破天荒でちょっと抜けてるけど年相応な桜島の高校生青春友情マンガ。あおいはるで青春って、その通り！と、言いたくなるくらいあおい！そして、気持ちいい！高校生だからできる行動力。高校生故の悩み。高校生のあこがれ。が、ぎゅー詰まってて1巻完結なのですが、すごい読み応えがある。考えるなら、肌で感じて！と言うように本の中で、ふたりが…登場するすべてが動いている。ずっと、休むことなく。そこも、爽快ポイントなのかもしれない。兎に角、読んでて気持ちいい作品。また、春がきたら読み返したい。(この1週間で3回も読み返してますが。。)

株式会社アニメイト / 鈴木 寛子

- なんともうまく言葉にできない。空回りしながら怒(いか)って笑って、そしてしっかり傷ついている。青春ど真ん中！

醤油製造業 / 小野塚 博之

- とぼけた味わいがじんわりしみる、単巻もの。前作の『森山中教習所』もそうだったが、友情を描いたら、本当に見事だと思う。うまく言葉にならないけれど、そこそがこの作者の「味」な気もするので、そのままずっと読んで確かめてください。そしてあとがきも必読。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中 香織

- ざらっとした空気感を感じる。そのリアリティがたまりません(設定全然リアルじゃないけど)なんかくだらないことやってるなーと思いつつ、目が離せない。ちょっとBL的な目で見ている自分を否めません。すみません。オトコノコの友情っていいなあ…

フリー WEB デザイナー / 河本 智芳

選考員コメント・2次選考

- いい具合に力の抜けたセリフやキャラの表情がなんだか妙にリアルで、読み手の意識を作品の世界に引っ張る吸引力が半端ない。ちなみに僕の場合歯医者待ち時間に読み始めたんだけど「引っ張られ」すぎて何度も名前を呼ばれていることに全然気づけなかった(先生すいません)。電車とかで読み始めたら乗り過ごしちゃうかも、危険です。
醤油製造業 / 小野塚 博之
- 「青春」っていいな！その一言に尽きます。他愛ないと言えばそれまでですが、でも、バカバカしい位に理由なくちゃんと付き合えるって、すごく得難いことだと思うから。私はこの青春が好きです。青臭いって、いいな。
ジュンク堂書店池袋本店 / 田中 香織
- ちょっと雑でちょっとキュンで、おもしろい☆漫画ってゆうか、映画みたいに読みました。
ミュージシャン / 後藤 まりこ
- もう完全に好みで投票しております。「青少年の転機」漫画が大好きなもので。当時の自分は心の中のもやっとしたものをとくに吐き出すこともせず、その場をやり過ぎて今に至っているの、多分うらやましいんだとおもいます。ファッションで青春を謳歌しようとするのもせず、吐き出したほどの胸の内に秘めたる情熱というものも持ってなくても。友人である二人の男子高校生のやりとりで展開する作品なんですけど、私はどっちにもなれなかったなーと。だからこそまぶしくて、くすぐったくなる読後感。こういうのは私のような過ぎさった世代よりも、ガチで今をもてあましてる思春期の皆さんこそ読めばいいのにとおもってます。余計なお世話ですかね？
オリオン書房ノルテ店 / 池本 美和
- この人の世界観がとて好きだ。どのように面白いが説明したいがそれをうまく伝える言葉が見つからない。とにかく読んでみてほしい。そうすればきっとわかるから。
INSIDE ME / コジマリョウスケ
- 前作の「森山中教習所」のときいい作家が出てきたなと思ったけど、この「ファンカ祭」と短編集で本物のいい作家だと思った。
書楽阿佐ヶ谷店 / 石田 充
- こういうマンガが好きなんです。地味だけどいい空気感。劇的なドラマではないけど、小さな感情のわだかまりやモヤッと感をいいバランスで表現してて、マンガっていいよなあって思います。
フリー WEB デザイナー / 河本 智芳
- 斜に構えた主人公が、温泉地として賑わいをみせる故郷に歯痒くなる設定がいい。現代版方丈記のようだ。
風男塾 / 原田 まりる
- 言葉だけでは説明できない雰囲気や感情がしっかりとコマの中であって、僕たちがいつも使っている言葉の「内容」を見せてくれる。前作『森山中教習所』が初単行本ながら大きな注目を浴び、今作はそこから少し間が空いたがやはり読者の期待を大きく上回った作品だと思う。次作も楽しみです。
往来堂書店コミック担当 / 三木 雄太
- 損得抜きに付き合えるのが友なんだよなあと、幼少よりマンガが教えてきてくれたことを再確認させてくれただけでも、この作品に感謝です。
医師 / 岸本 倫太郎
- 映画を観たような気持ちになりました。最後のページは頭の中でエンディング曲が流れてくるようでした。あとがきで作者がこの漫画に込めた想いを書いていましたが、本当にその通りな作品です。
バンドマン / TA-SHI
- こんな作風の漫画は好きです
Hair Make Lounge tetote 代表 / 力丸 真

- 男子のバカさ加減が、胸をうつ作品。バカだから失敗ばかりだけど、バカだからウソをつけない。そう考えると、バカ同士の友情は不滅だ。

ダ・ヴィンチ編集長 / 関口 靖彦

- 青春バディものの最新傑作。すごく苦くて、笑って、ほろり。周囲では刮目すべき「匂い系」との評判も高い。

お菓子研究家 / 福田 里香

マンガ大賞非ノミネート作品

全作品名・選考員コメント掲載

「I」いがらしみきお

- これは 21 世紀の聖書になるのではないか。畏怖の念を覚える。

ダ・ヴィンチ編集長 / 関口 靖彦

「青空にとおく酒浸り」安永航一郎

- ネタのやばさに目がいきがちですが、SF・ギャグ・バトルがいいバランスで、楽しい。ま、確かに他の作品だと躊躇するようなネタが多いのは確かですが。

会社員 / 林

- 去年も 1 次で投票してたのでちょっと迷ったんですが、続きが読みたい一心で今年も入れます。続きが気になって、かつ、(続きの方向が) 読めないんですよこの作品。ちょっといいはなしとか、考えさせられる作品、とかでは全くなくて娯楽としてとてもいいマンガです。

眼鏡時空発生装置 / 田中 海渡

「アオハライド」咲坂伊緒

- 乙女心満載。トキメキを取り戻したい人におすすめ。キュン死に注意！

シンガー / 山野井 千佳

「秋津」室井大資

- 出てくる主要人物が愛おしくてたまらんです。親父の顔！顔！顔！…最高です。この作者の作品は全て読んでるんですが底が見えません。

バンドマン / TA-SHI

「悪の華」押見修造

- 7 巻で終わってしまううう？？と思っていたのですが、普通に続いていて嬉しいです。毎巻次で終わってしまうかも？！とドキドキワクワクさせられていて、すごい漫画だと思います。

bar 図書室の店主 / 岡部愛 (のん)

- 中学生の時分のどろどろと得体の知れない内面はあたりまえだが中学生の時分だけのもので、年齢を重ねれば多くはすわりのいい「過去のもの」になってしまうはず。なのだが、そのどろどろに突き動かされてもし「一線を越えて」しまったとしたら、その後の日々はどんなふうに通じるのか。という設定で進行するストーリーの今後に要注目。

日本経済新聞記者 / 天野 賢一

- 1 巻を読んだ時は中二病なマンガだなと思ってました。自分の中では「私がモテないのはどう考えてもお前らが悪い！」みたいな扱いだったわけです。痛いなあ、笑えるなあ、って感じで。でも、自転車で山を越えようとするあたりから前のめりになって読むようになって、そして、暴走する佐伯さんを見て、もしもマンガを別々に 5 点選ぶのではなく、5 ポイントを好き勝手に賭けていいのなら、「悪の華」に全部賭けますってくらい心を掴まれたのです。最新巻では、痛々しいまでのドラマは鳴りを潜めたけれど、このある種平凡な学園ドラマの裏には 6 巻までのドラマが流れているんだと思うとゾクゾクする。

米子東高校 司書 / 野間 勤

- アニメ化も決定！ぜひ読んでほしいです。ボードレールとは関係ないです、

メガマン / 涼平

「あさがおと加瀬さん。」高嶋ひろみ

- 高嶋ひろみ先生ならではのコロコロ変わるキャラクターの表情の豊かさはもちろん、王子キャラである加瀬さんのカッコよさと、王子だけ“盛り”が多いおムネ。Tシャツに制服スカートというラフな格好だけど、その女の子なんだか、男の子なんだかわからない中性的な、王子キャラなヒロインがとにかく魅力的です。やはりこれは天王はるかに打ちのめされた世代だからなのか、小石川先生の作品同様、陸上部王子キャラには惹かれますね。

COMIC ZIN コミックバイヤー / 塚本 浩司

「あじさいタウン」木村リノ

- 面白いとかそういうのを越えて、とにかく相性がいいというか、ずっと前から友達だったような作品。エイリアン、宇宙人のヌッさんが音楽に触れたきっかけがプリンスだったこと、バックステージの様子が映画「パープルレイン」を思い起こさせるところ、そしてあの初めてバンドとなる第3話のセッションシーン。ミミコのベースから、ガンっ！と始まるあの瞬間、ポリスのPVを思い起こさせるようなシンプルだけど、うねりが伝わるタダっさんのドラム。あーコレコレ！と、言葉が要らない友達のような感覚を与えてくれます。そしてなによりもすごいのが、彼、バンドが実際に存在していること。あじさいタウン、彼は実際に活動していて、CDも出ていて、ライブの音源もある。そこに収録されている曲の制作過程がマンガになっていて、これはどんな音なのかな？と思ったら、そこにある！イメージソングじゃなくて、彼らの、あじさいタウンのそのものの音がある！こんな作品ってありましたか？しかも制作途中のデモ版までyoutubeで聴ける。次元を越えたとよく言われるアオリですが、まさにそんな作品。そして友達になりたい！と思わせるヤツら。彼のライブがあればぜひ行ってみたい。もしインタビューするなら、普通にやらない。bounceのようにやってやる。正直、最初に彼らの音楽を聴くのが怖かった。もし聴いて変な音楽だったらどうしようとビビっていた。でも思い切ってyoutubeにアクセスした時、「ロンリーナイトフィーバー」のベース音が流れた時、「あああ！このベースだあー！」と、まさにあのセッションシーンでのミミコの迫力あるベースのイメージと同じ音が流れてきたんです。これは感動でした！リツオのけだるそうな表情で歌う彼の姿ぴったりな、けだるそうなボーカルもイメージ通り。おそらくこのボーカルは木村先生ご自身と思いますが、とにかくマンガの世界の彼らが現実存在しているすごさ。重ねて言いますが、次元を超えた存在、作品。それがあじさいタウンなのです。ああ、重要なこと。CDジャケットを意識した装丁、そしてこれまたプリンスっぽい、いや明らかに意識したと思われる全てのページを紫に印刷した装丁。それがまた自分にとって本作をより素敵なものにみせています。今回はこれだけ語りたかった。面白いです！とは言いません。でもなんだろう、肌の合う人には、ずっと仲良くしたくなるいいヤツ的な存在の作品です。長文失礼しました。あじさいタウン：<http://band.ajisaitown.com/> CD：<http://band.ajisaitown.com/disco.html> 最新作はアマゾンとZINで発売中 youtube：<http://www.youtube.com/user/ajisaitown> なんといってもオススメは「ロンリーナイトフィーバー」デモ3曲は第7話と一緒に読むとそのシンクロに感動します。

COMIC ZIN コミックバイヤー / 塚本 浩司

- 友人に勧められて最初読んでみましたが、これはグッと来ました。バンドってこんな形なんだよねって思う。自然な感じ、とにかく自然な感じなのです。たとえば、ベーシストが宇宙人だったとしても、そんな事は関係なくて音楽なんだなって。ヌッさんのオリジナルなエフェクターも気になる所ですが、このマンガから実際にアルバムが発売されていて、これがまた脳髄にググッときます。サイトもバンド感が半端ないです。陰湿パーティーナイト、いい曲です。音楽からマンガに入ってもいいんじゃないかな。

デザイナー / 平沼 寛史

「当て屋の椿」川下寛次

- 絵柄やキャラクターもしっかりしていて、人間の欲深い生々しさなどが出ていていいです。同じような和物の作品で「艶漢（アデカン）」というのがあるんですが、そちらも人間の欲深さを表現した作品なんですが、個人的には、そちらより、この「当て屋の椿」の方がミステリーとして楽しめました。

フリーランス / 大倉 壽子

「アドアストラ - スキピオとハンニバル -」カガノミハチ

- 名将ハンニバル率いるカルタゴとローマ共和国の「第二次ポエニ戦争」を舞台に描く歴史漫画。これだけでも塩野七生ファンにはたまらないが、戦闘シーン以外にも心理描写に長けているので、映画を観ているかのように引き込まれる。また著者カガノミハチの絵が巻毎に上手くなるので、ストーリーが進むにつれ各キャラの魅力もアップする。

アーティスト / 新井 文月

- 紀元前のローマの話で、正直今までそんなに触れたことが無い類いだったが、読み始めてすぐに当時の戦の在り方や、人の在り方に引き込まれている自分がいた。近代兵器の無い時代の戦人のすごさを感じられる。

アーティスト / KG

「あなたのことはそれほど」いくえみ稜

- こわいー！いくえみさんの人を見る目の鋭さよ。「女」というものへの容赦のなさよ。若い友人が「主人公がだいきらい」と怒っていたが、私には、主人公のことが、わかる。というか、登場人物全員、やなやつで、その全員のことが、わかる。

マンガライター / 門倉 紫麻

「姉の結婚」西けい子

- かなり異色の大人の恋愛もの。この年齢だからこその戸惑いや迷いが描かれていて、なんともほろ苦くて切ない。今後どう転がっていくのか、続きがとても楽しみ。

主婦 / 安田 奈緒美

- 社会的に問題のある（とされがちな）タイプの恋愛の、抗いがたい愉楽にどっぷり依存的に浸る（そんなに若くない）主人公女性（40歳目前、独身）の心理を、じっくり濃密に描写する。それまでのちょっとよろめき風な（古いな）展開が4巻に入ってにわかには緊迫。男と女の絶対に埋まらないギャップをずばずば突く名言の嵐は、凡百の小説映画ドラマ舞台その他の及ぶところではない、と個人的には思います。スタイリッシュな画面はページをめくるだけで楽しい。

日本経済新聞記者 / 天野 賢一

- 作者の快進撃が止まらない。「恋と軍艦」もおもしろい。

お菓子研究者 / 福田 里香

「あるいとう」ななじ眺

- 神戸・北野を舞台にしているというだけでも神戸在住の身としては推したいところ。ストーリーにはビターなところもままあるけれど、神戸の街のよさをきちんとマンガにしているので、ぜひ読んでいただければと思います。

日本経済新聞記者 / 天野 賢一

「一匹と九十九匹と」うめざわしゅん

- 現実の残酷さから目をそらさず、えぐるように描く作家が好きです。うめざわしゅん先生はその極致をゆく作家。打ちのめされて読み返す勇気もなくなるようなすさまじさです。

ブログ「漫画食堂」管理人 / 梅本 ゆうこ

「IPPO」えすとえむ

- ひんやりとした革の感触と、細くて骨張った指を感じるマンガ。そんなシーン全然出てこないのに、どうにもこうにも官能的で、うどんエロスの次は革靴エロスかとひれ伏すばかり。まだ単行本1冊目だというのに、魅力的なキャラクターがバンバン登場し、このまま行ったらどうなってしまうのか、想像するだけで体温が上がります。ブラボー。

ライター・編集 / 島影 真奈美

- 「靴」は身に着けるものの中でも一番こだわりをもっておきたいもの。どんなに高くても自分に合うものを…という方も多いはず。その「靴」を作る職人のこだわりはやはり、並大抵のものではない。色々な事情を抱えた依頼主が自分にぴったりの「靴」を作ってもらって、最後は笑顔になって帰っていくのを見るのが好きです。はい。実は「職人」フェチです、ごめんなさい。

主婦（元書店員） / 赤坂 真実

- フィレンツェの名門店で10代から靴作りをしてきた22歳の靴職人、一条歩。彼が東京で営む小さな店『IPPO』に訪れる人達が注文靴を通して自身と向き合う想い。一人一人の足と歩き方に合わせて丁寧に作られる、次の1歩を共に踏み出すことの出来る靴。寄り添い、前に進む力をもらえるような一冊。

主婦 / 戸田 仁美

「いとしのムーコ」みずしな孝之

- 今まで30年間猫派でしたけど、ここにきて犬派にかわってしまうかもしれん！！そんな作品です。犬の来る感じが苦手だったんだけど、こんなにけなげに、なついてくるとね。大好きアピールされるとね。うっとおしい気持ちの中に愛も情もでてくるよね。んで、気がついたら好きになっちゃうよね。大好きになっちゃうよね。そんな君は私のこと相変わらず好きでいてくれるよね。んもう…幸せだな。ふにふにしてやるぜ～。そんな気持ちになるマンガ

鳥取県 米子高校 美術教師 漫画研究部顧問 / 佐川 由加理

- ムーコはドヤ顔で上から目線な犬だけど、私猫派だけど、こまつさん LOVE に免じて許す。こまつさんがはやく犬になれるといいねえ。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店コミック担当 / 山本さとみ

- 犬と飼い主の関係のひとつの理想形。言葉や考えは完全には伝わってないけど、一緒にいることでお互い幸せ。読んでるこっちも幸せになれます。

医師 / 岸本 倫太郎

- 犬派？猫派？なんてよく聞かれますが、だんぜん猫派だった自分がここまで犬の可愛さにメロメロになる日が来るとは思っていませんでした。犬のムーコと飼い主のこまつさんの言葉は通じていない、でもお互いの「大好き」はちゃんと伝わっているという幸福の日々。ムーコの表情、動き、考えていること、そのすべてがいとおいしくて、何度も読み返してはニヤニヤしてしまいます。単行本表紙のおはなつやつや装丁も最強にラブリーです！

伊吉書院 類家店 / 中村 深雪

- とにかくムーコちゃんがものスゴく可愛いです。思わず笑っちゃったり、ほっこりします。多分、近くの人にさわりたい衝動にかられると思います。秋田の風景が描かれているのだと思うのですが、四季の描写がとても素敵です。

有隣堂 恵比寿店 コミック担当 / 桶谷 佳代

- 徐々に動物マンガの大当たり。ひたすら犬のムーコがかわいかった1巻、新キャラが登場して方向性が定まった2巻、ともに動物好きには刺さること請け合い。ムーコのメンタル面は擬人化しまくっているのに、まったく飼い主に意思が通じていない。そんなコミュニケーションの二重構造の徹底ぶりがたまりません。そういえば十数年前、『かめ!』というマンガが好きだったなあ。現2巻続刊。

よろず編集者 / 松浦 達也

「犬神もっこす」西餅

- すでに立ち位置が斜め上の犬神くん。隙あらば斜め上にいこうとする劇研会長。あまりにも傾き過ぎて、まっすぐ立っている自分のほうがオカシイのではと思うくらいの破壊力。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店コミック担当 / 山本さとみ

「ウィッチクラフトワークス」水薙竜

- その独特で美しいイラストと、美少女と委員長と魔法と巨乳を、しっかり取り揃えた学園ファンタジー！ヒロインをはじめ、そのキャラクター達の魅力も忘れては行けません。こんな女性に護られたい！掲載誌の月刊化への原動力にもなり、アニメ化も決定して前途洋々な作品を今からチェックですよ！

バイイングマネージャー / 日吉 雄

「うちの妻ってどうでしょう」福満しげゆき

- 作者の独特のタッチと性格がゆがんでいる（ようなキャラに見せている）ところがツボで。自分もすごい共感できるよ~などと思ってしまう。あと、奥さんがとてもかわいらしい。

メガマン / 涼平

「ウツボラ」中村明日美子

- 冴え冴えとした美しい画面に延々と展開される料理の数々を目で堪能するだけでも買った価値はある。もちろんストーリーは最高。

お菓子研究家 / 福田 里香

- 「彼女は完璧に美しかった そして 一分の迷いもなく一分の狂いもなく確実に私に狙いを定め 実行した」つまりそういうことだ。2年後して2巻完結。見事／美事としか言えない。あまりにも美しく終わったので、読み終わったあとため息をついてしばし呆然とした。

ソフトウェアエンジニア / 第弐齋藤

「エバタのロック」室井大資

- 音楽業界にいたことあるのでわかるのですが。ほんといける。こういうロックスター。たとえば (ry

京都精華大学特任准教授・NORISHIROKS / ひでつう

「エンジェルパラベラム3」原作・みなみケント 作画・環望

- グラマラスな姿態を深いスリットが入ったタイトなドレスで包んだその美女が、実は大天使のガブリエルで、大腿部にくくりつけたストックからモーゼル・ミリタリーを抜き出しては、どこか儂げな表情をした少年を奪還しようと、群がる悪魔たちを相手に構え撃ち、飛びながら撃っては確実に葬り去っていく。そんな漫画があったとしたら、惚れない訳にはいかない。「エンジェルパラベラム」(フレックスコミックス)という、環望が漫画を描き、みなみケントが原作を手がけたシリーズは、まさにそんな漫画。ミツルという名の少年をめぐる天使たちと悪魔たちが争うストーリーで、凜然としたガブリエルが手にモーゼル・ミリタリーを持って走り、飛びながら撃つ美しい姿を拝めるし、アズラエルという名の美女も、ヒップの半分くらい出ているようなローライズのパンツとピキニのトップを身につけ、上からコートを羽織っただけの姿で銃を撃つ、こちらもダークなクールさに溢れた姿を楽しめる。第3巻で、ミツルたちは意外な人物との再会を果たし、そして悪魔たちの予想を超えた社会への浸透に直面しては、キリエとアズラエルは待ち伏せのような爆発に巻きこまれ、ミツルは神の火を使う大天使のウリエルさえも軽くあしらう謎めいた女性の到来によって、何処かへと連れ去られる。彼女は何者で、ミツルの何を狙っていて、そしてキリエやアズラエルはどうなったのか。大きな転換点が描かれ、まさにこれから本当の戦いが始まるといったところで、漫画は掲載誌の統合を受け、連載が終わり単行本すら出ないという状況に追い込まれた。もう読めない? あり得ない。だから訴える。この漫画の面白さを。そして望む。いち早い再開を。

書評家 / タニグチリウイチ

「王子様と灰色の日々」山中ヒコ

- どんなに辛い展開でも、山中さんのあったかくてやさしい絵柄のおかげで落ち込みすぎずに済みます。登場人物みんな、つよくてよわくていっしょうけんめいできなげでやさしくていいこです。私は自分を省みて全方向に土下座したくなります。薄汚れた大人になってしまいました。い、生きる…!

金海堂イオン準人国分店 コミック担当 / 園田 美智子

「王様ゲーム」金沢伸明、連打一人

- えぐい。ひぐらしとか未来日記が好きな人は好きかも。

シンガー / 山野井 千佳

「狼と香辛料」小梅けいと

- ラノベ原作ながら元の素材を活かしつつ、一つの完成形としてコミカライズしている一冊。今回のマンガ大賞審査までにギリギリ八巻発売で留まりましたので今回も応援です! 一度読んでみれば、完成度の高さが分かります。

バイイングマネージャー / 日吉 雄

「大相撲 SF 超伝奇 五大湖フルバースト」西野マルタ

- マンガの荒唐無稽さを、極限まで味わえる作品。マンガは、そして読者はどこまで行けるのか、試してみしてほしい。

ダ・ヴィンチ編集長 / 関口 靖彦

「甥の一生」西炯子

- 主人公・つぐみと海江田がとにかく魅力的です。地方都市でのゆっくりとした暮らしぶりから見える、二人の性格や、歳を重ねてきたからこそその考え方、相手を本当に信用しているもの同士のふるまいなど…。不器用ながらも心を重ねてきた二人の姿は、読み返す度に発見があります。2012年に出了、結婚後の二人の雰囲気がとても好き。これからも何度も読むであろう作品です。

フジテレビアナウンサー / 松尾 翠

「おとりよせ王子飯田好美」高瀬志帆

- 読後、何をお取り寄せしようか・・・とってしまうほど腹が減る漫画。涎も出ます。

株成田本店 とわだ店 / 安田 幸

「おはようおかえり」鳥飼茜

- 京を舞台にした、日常の物語。会社や学校の近くにいそうな・・・親近感の湧くキャラクターの“普通”感がとても魅力的。鴨川や京都の街並みの絵もリアリティがあって。京都に本当にこの人たちがいるんじゃないかという気分になるから・・・不思議。

フジテレビアナウンサー / 松尾 翠

- 美人でマイペースな姉二人に、優柔不断で料理上手の弟とくれば、振り回され男子コメディのド定番。そんな想像をひょいっと裏切り、ドタバタ劇かと思えばシリアス、シリアスかと思えば笑いをさしはさみながら展開していく。とりわけ、ふわふわなルックスとは裏腹に、こうと決めたらテコでも動かない、しなやかしたたか奈保子さんの今後が気になって仕方ないのでありました。

ライター・編集 / 島影 真奈美

「お慕い申し上げます」朔ユキ蔵

- 僧侶だって人間だ!!! 欲望（特に性欲）・煩惱に振り回されっぷりがいい。また可憐な女性主人公の邪な感情を、体内から小さな人形があふれ出るかのごとく描くあたりは非常に面白い。

本と文具ツモリ / 津守 晋祐

「俺はまだ本気出してないだけ」青野春秋

- 最近ハマりの映画化も決まり、ようやく日の目がみえてきたかという感じです。1巻を読んで打ち切りが無ければ、近いうちに売れるだろうと思っていました。40歳バイトであだ名は「店長」...ど底辺にいるはずの男なのに、夢を見させてくれそうな男なんです。会社を辞めて漫画家へなんて、普通は勇気がないとできないはず。今後もシズオから目が離せません!

リプロ横浜相鉄ジョイナス店店長 / 伊藤 晃

「orange」高野苺

- 久しぶりに、先が気になる少女マンガが出た!! 未来が分かっていたらどのように行動するかわかっていても上手いかない恋心と・・・少しづつ、少しづつわかっていく謎に、これからも目が離せない

ヴァイオリニスト / 佐藤 帆乃佳

- 掲載誌で1話目を読んだ時「これはすごい名作が生まれるかも...!」と期待が膨らみ、2巻まで発売になった今、その期待は確信へと変わっています。可愛い絵柄の少女漫画ながら、なかなか本格的にSFを織り交ぜたストーリー展開。もちろんそれだけでなく恋愛パートもしっかり描かれていて、その甘酸っぱさ、せつなさにハートをがちりつかれます! 現在と未来が交錯するので結末をチラチラと見せられているようで、でもまったく違う展開になるかも? とヤキモキしてしまい、今一番続きが気になるピュアな少女漫画です!

伊吉書院 類家店 / 中村 深雪

- 10年後の自分から手紙が届く。これが一体なんなのか。主人公を困惑させつつも、その手紙に書かれた事に行動をしていく主人公。未来から届く手紙に対して、少し勇気を出して動いていく菜穂が今後どうなるのか気になりました。この話は翔という青年を中心に變動していきます。この話は、10年後の話も途中幾度と無く出てきますので、この辺りがどのようにリンクして進むのか、同時に動いていく世界なのか。続きがきになります。高校生とお弁当

デザイナー / 平沼 寛史

「海獣の子供」五十嵐大介

- 五十嵐大介の最長編がついに完結。ストーリーは相変わらず難解だが、最終5巻のイメージ喚起力は圧倒的。世界レベルの代表作。

中央公論新社 文芸局次長 / 石田 汗太

「かかってこいパリ」じゃんぼ〜る西

- 元パリ在住の作者が描く、ちょっと意地悪で、ちょっとキツクナパリっ子達が面白いです。パリには行った事ありませんが、かなりリアルに描かれているのではないのでしょうか。パリ（ヨーロッパ）に住みて〜な〜と知っている人にお勧め。

ホビー系企業勤務 / 畑中 瀬路奈

「鏡の国の針栖川」叶恭弘

- 周到な構成とスキルに支えられたラブコメの職人芸。巻数が少ないことで（結果的に）密度の高い内容になった。

書評家 / 福井 健太

「かくかくしかじか」東村アキコ

- こんな師弟関係いいですね。

漫画全巻ドットコム / 安藤 拓郎

- ダウジングに大爆笑。やはり東村さんのノンフィクションは良い。

会社員 / 齋藤 隼

- おそらく東村さんの自伝になるかと思います。テンパリストとはまた違う、シリアスなお話です。物語に出てくる先生がとにかく超怖い！先生なのかと思ったら、とても優しい先生でした。そんな先生に出会えて、羨ましくなります。今のところ静かに話が進んでいるのですが、次の巻はすごい展開が待っているのではと感じさせられ、今からとても楽しみです。

有隣堂 恵比寿店 コミック担当 / 桶谷 佳代

- 天才マンガ家・東村アキコはいかにして作られたのか。創作でしょ?!と疑いたくなるキャラ満載。マンガ好きにこそ読んで欲しい1冊！

株式会社ネビュラプロジェクト / 小森 和博

「KAPPEI」若杉公德

- 最高に馬鹿馬鹿しい。

PENICILLIN vocal / HAKUEI

「ガズリング」才谷ウメタロウ

- 週刊漫画TIMESという掲載誌とは思えない、熱血王道バドミントンマンガ！普通にジャンプとかに掲載されていてもおかしくないかと。近年の凝りに凝った設定や展開に終始してどんどんニッチになっていく作風の傾向に、物語に奇抜さなんてそんなに必要ないんだ、とビシッとスマッシュを打ち込む王道的展開が毎回楽しみでなりません！『ハイキュー！』同様、ひたすらアツく、ひたすら諦めない、そんな主人公たちの姿に毎話キュンキュンして読んでます！

芳進堂ラムラ店・コミック担当 / 川崎 一利

- 文化部で大人しく高校生活を過ごすつもりが、いつのまにやら名門で熱血なバドミントン部へ入部させられちゃった！スポーツ王道系のお約束をきっちり踏襲しながらも、力負けていないボディを保った作品。導入部分も、あまりバドミントンを知らなくても読めるように、丁寧に作られており、それだけでは足りずに良いタイミングで試合も行ったりとテンポも良く、プレイしている女の子達の汗が、本当に飛んできそうな躍動感も魅力的です。

バイイングマネージャー / 日吉 雄

「彼女とカメラと彼女の季節」 月子

- 恋愛感情とも言い切れず、かといって、トモダチの枠に押し込めるには特別な関係。では、なんと説明すればいいのか……という切ないモヤモヤが詰まった作品。恋愛感情が今よりずっとずっとモヤッとしていて、境界線を飛び越えたのか、飛び越えたいのかもわからない、そんな時期があったことを思い出させてくれる。

ライター・編集 / 島影 真奈美

「神さまの言うとおりに」 金城宗幸原作・藤村緋二作画

- 猛烈なスピード感！普通は起承転結の流れに沿い、話が盛り上がりつれて引き込まれてゆくものだと思います。ところが数ページをめぐっていきなり深いところまで引きずり込まれました。何もかもが余りに突然すぎて、主人公と同じ視点で、読んでいる方も話に付いてゆくことに必死になってしまいます。今、一番“わけがわからない” 事を楽しめるマンガだと思います。例えるなら、デスノートをバトルロワイヤルを足してバクマンで割ったイメージ……って言うても、全然わけ分からないですよ。そう、だから、面白いんです。

デザイナー / 佐藤ユウ

「神様がくれた背番号」 渡辺保裕・松浦儀実

- ニチブンの会社に行った際に貼ってあったポスターを見てから気になっていた作品。原作を知らなかったのですが、大当たりでした。一人のホームレスが誕生日に神様に会い、一流の野球選手になって阪神を優勝させたいと願いを叶える話、ずばりおとぎ話なわけですが、おとぎ話だけに悪人が出ないのも読んでいて気持ちがいいです。また出てくる選手も実在の選手が登場するわけですが、またそのキャラがイメージ通りなのが野球ファンとしても嬉しい。岡田監督が「そらそうよ」としか言わないのはもちろん、島野コーチの愛情あふれる指導など、読んでいて楽しかったです。何度も何度も読み返しました。野球ファンには阪神ファンではなくても絶対にオススメです。球場ラヴァーズと一緒にぜひ読んでほしい作品です。

COMIC ZIN コミックバイヤー / 塚本 浩司

「カレチ」 池田邦彦

- 旧国鉄、長距離列車の新人車掌が会い、繰り広げる人情物語。昭和 40 年代国鉄時代の話ですから、古臭いように見えてしまうかもしれません。だからこそ時がたっても変わらないサービスの本質が、逆に鮮明に見えてくるように感じました。決して派手な作品ではありませんが、温かい、懐かしい、ほっこりとした読後感に安心して読める作品です。

フルハウス八戸ノ里店 店長 / 佐藤 誠

「機械仕掛けの愛 1」業田良家

- ロボットに心はあるのか。人間が主観的に感じているのと同様に、ロボットには自ら思考して答えを出す、心のよなものがあるのか。機械だけあって単純に、積み重ねられた膨大なデータから取捨選択して、反応しているだけに過ぎないのか。たとえ反応に過ぎないのだとしても、それが人間の心の動きといったいどう違うのか。そもそも人間の心とは何なのか。小説や漫画や映画やアニメーションといったジャンルで多く描かれ、様々なバリエーションが生み出されている、ロボットの心という命題を含んだ物語。これに、「自虐の詩」などの作品を持つ漫画家の業田良家が挑んだのが、「機械仕掛けの愛 1」(小学館、524円)という連作集。現れたのは、人間に似て非なる存在としてのロボット、人間に従い人間を助けるロボットを一種の鏡に見立てて、人間という存在の特質を浮かび上がらせようとした物語たちだ。冒頭の「ペットロボ」というエピソード。子供代わりに育てたロボットを、他のが良いからと売り払う人間の姿が、生んだ子でも邪魔なら捨てられる昨今の風潮、希薄化する人と人との繋がりを想起させる。その上で、大切にしてくれた人を思い続けるロボットの健気さと、かつて共に暮らした存在を家族と認める人間の優しさを示して、繋がりとはいかに何を思い出させて読む人たちの涙を誘う。ロボットに心はあるかもしれないし、ないかもしれない。ただし、人間には確実に心がある。優しかった母親を慕う少女のロボットの姿に涙し、少女と母親を思い続けるロボットに同情し、ぎくしゃくしていた息子と母親との関係を、どうにか修復しようとするロボットに愛おしさを感じることができたとしたら、それは人間の心が見せたものだ。そうやって得られた感情を、今度は世界の大勢の人たちに、心を感じることもできない苦境に喘ぐ人たちに、向けて出していくことが、「機械仕掛けの愛」を読み終えた、心を持つ人間の使命だ。

書評家 / タニグチリウイチ

「きのう何食べた？」よしながふみ

- 弁護士モノ・料理レシピモノ・BLモノ・アラフォーモノ、いずれの分野においても最高水準の傑作。抑制を効かせた描写と絶妙な間の取り方で、地味な日常が輝く。同性愛の世界を一般社会のなかでリアルに描ききっている。そこに、あるのは中年男性2人の現実の生活であり、決して、ロマンスの物語ではない。それだけに、見る者に感動を与える作品である。料理レシピも、奇抜さを嫌った、日常の定番メニューであり、シロさんの麺つゆ使用頻度からは目が離せない。

弁護士 長島・大野・常松法律事務所 / 三村 量一

「きのう何食べた？」よしながふみ

- このマンガが凄いところは食べ物を通して平和というグルメ漫画の基本をちゃんとおさえてるところだ。それは全世界ではなく。大切な人の半径5メートルを。

京都精華大学特任准教授・NORISHIROKS / ひでつう

「きのこいぬ」蒼星きまま

- きのこいぬが超絶かわいい。きのこに萌えるってどうなんだろう。でもかわいい。胞子を飛ばしても許すので一家に一匹(匹?)欲しいです。

リプロ池袋本店 コミック係 / 小池 由記

- かわいい。ただただ癒された。このマンガが仕事で疲れ切った状態の僕を癒しました大賞をあげたい。しかしなかなか考え付かないと思う。キノコと犬。なぜくっつけたのか…。

通販部 部長兼コミック総括 / 宮川 元良

「キミと話がしたいのだ。」オザキミカ

- 猫と会話ができる主人公と飼い猫「くま」のお話。何か大きな事件が起こるわけでも、劇的な展開があるわけでもなく、主人公「しんのすけ」とくまのなんと言うことのない日常のほっこりしたお話。普段読むと「…で？」で片付けてしまいそうな本当になんともない話ですが、心が荒んだり疲れしたりした時に読むと「フッ」と息を吐かせてくれるあったかい作品です。

株式会社 ブックスタマ / 栗田 さやか

「きみの家族」サメマチオ

- 私はこの一冊の漫画を読むに辺り 5 箇所です。とてもいい話です。女性にとっても読んでもらいたいと思います。

bar 図書室の店主 / 岡部愛 (のん)

「球場ラヴァーズー私が野球に行く理由ー」石田 敦子

- 連載誌読んでましたし、前作にはハマってましたし、気にはなってたんです。ただ、元大洋ファンの性が微妙に入り込めないところがありました、正直。でも今は反省してます。年末売りの最新号で泣かされてしまいました。記憶に残る選手、いいじゃないですか！ね！ね！

眼鏡時空発生装置 / 田中 海渡

「巨悪学園」長沢克泰うどん

- 最強に馬鹿馬鹿しい。

PENICILLIN vocal / HAKUEI

「きょうは会社休みます。」藤村真理

- こういうベタなものもたまには読みたい。

株式会社アルナシステム代表取締役 / 平田淳

- 33歳OL（彼氏いない歴イコール年齢）が初めての、しかも年下21歳大学生の「カレ」と付き合ったら、という本作。行くところまで行った情報化やら、世間の「後ろ指」の消滅やらで現実の恋愛が「何でもあり」になったのを背景に、少女マンガが挑むことができる設定や領域もずいぶん広がったものだと思いますが実際はどうなんでしょう。マンガの枠を超えた社会的反響と展開を呼ぶ可能性としては、ひうらさとの「ホタルノヒカリ」以来という気がします。

日本経済新聞記者 / 天野 賢一

「巨娘」木村紺

- 昔の人は言いました「タフすぎて そんはない」5年ぶりに2巻！ここで推さんでなんとする！「巨娘」ジョーさんが豪腕と豪智であらゆる問題を粉碎する問題解決マネジメント漫画。問題解決教のかたに是非。読んでいてひたすら楽しい。力をもらっている気がする。力こそパワーなのだ！

ソフトウェアエンジニア / 第式齋藤

「霧の中のラプンツェル」 あらい・まりこ

- もう何度も、何度でも繰り返し描かれては、悲しみと恐ろしさと、悔しさと憤りを世界中の人々に覚えさせ続けているホロコースト。「アンネの日記」に「夜と霧」。「ショア」に「戦場のピアニスト」。そして「アドルフに告ぐ」。手記として世に問われ、映画として世に投げかけられ、漫画として世に訴えかけられたホロコーストの記録や記憶から、人は多くのことを学び、決意してきた。差別はしない。憎まない。互いが互いを認め合い、思い合い、助け合う。そうすることで人類は、あのような過ちをもう絶対に繰り返さないで生きていくのだと、強く心に誓った。人に備わった知性なら、あのような悲劇が2度と繰り返されることはない、人々は信じた。けれども、見渡せば差別がはびこり、憎しみにあふれた状況が、今も絶えることなく続いている。すべては無価値だったのか。「アンネの日記」も「夜と霧」も人を変えられなかったのか。たぶん違う。きっとまだまだ足りないのだ。あるいは苦すぎるがゆえに、人は過去を忘れてしまおうとしているだけなのだ。だから何度も、何度でも繰り返し描かれなくてはならない。悲しみと恐ろしさと、悔しさと憤りを人を覚えさせ、忘れさせないようにし続けなければならない。とりわけ今の、差別と排除の心理に、ひたひたと覆われてきているこの日本では。あらい・まりこの「霧の中のラプンツェル」(双葉社)が、そうした不足を埋め合わせるかのように、新しく世に問われたことには、だからとても大きな意義がある。現在、主人公のラケルという少女が、絶滅収容所で王子が伝わってくるはずの髪を奪われ、絶望に瀕している姿を見せて1冊目の幕を閉じ、その続きは描かれていない。王子の手はラケルに届くのか。絶滅収容所のベッドにやせ細った姿で横たわっていたラケルに救いの手は伸びるのか。霧の中を迷いながらも出口へとたどり着く少女を通して、読む人に希望を与えるために、あるいは霧の中へと沈み消えるかもしれない少女の絶望を通して、同じ道を歩もうとしている今への怒りをかき立てるために、是非に描かれ続けて欲しいし、描かれ続けるべき漫画だ。

書評家 / タニグチリウイチ

「銀のスプーン」小沢真理

- 昨今たくさん出てきた料理マンガの中でもレシピはあんまり出てこない、ご飯のシーンより生活シーンが多いこの作品。けれども物語の中心には必ずご飯が出てくる。そして生活は進んでいく。「ご飯は生活の一部なのだ」ということを強く、強く気づかされる。以前の作品のように生活の中に、静かで優しい音楽が流れるように。

角川書店ニュータイプ編集部 / 鳩岡 桃子

- 食卓を囲むって良いな、手作りの食事っていいな、と思わせてくれる作品です。すこしずつ成長する主人公にもハラハラドキドキします；

リアライズ・モバイル・コミュニケーションズ / 金子 幸恵

「喰う寝るふたり住むふたり」日暮キノコ

- 初めて雑誌で読んだときにこれはいいのが始まったぞ、と思ったものです。男女両方の視点から描く、という点とお互いのキャラクターの人の良さも好印象。結婚ではなく同居ってのもミソです。ほっこりできるマンガ。最終回は結婚で締めて欲しいなー。

通販部 部長兼コミック総括 / 宮川 元良

- 読んで惚れたコミックです。何でもないような普通のカップル。でもこの漫画は普通のと違う。男女のそれぞれの目線で交互に描かれているのです。あの出来事には、男はこう考えていた、女はこう考えていたと両方の考えが分かるので、新鮮な気持ちで読み通しました。引き込まれること間違いなし。おすすめ。

三省堂書店海老名店 / 近西 良昌

- 付き合って10年・同棲8年のカップル野々山修一と町田りつ子。なかなか踏ん切りのつかない二人をめぐるゆるい日常…と言うと、なんだか古典的な平凡ドラマですが、このマンガはちょっと視点が違います。月刊誌に毎月「男編」「女編」があります。要するに、一つの事象を二つ(以上)の視点から描いているのです。これが意外と新鮮。マンガならではの読み方として、「あれ、男編だとこの描き方どうだっけ?」「女視点だとここはどんな着眼点になるのさ?」と疑問に感じるとパラパラとめくってすぐ確認。電子書籍ではこの雰囲気は出ないなー。りつ子が合コンに行くお話やお互いの実家にそれぞれが帰省してのプチドラマ。男には男の読み方、女には女の読み方があるみたいです。

国分寺市議会議員 / 三葛 敦志

- 良いですな。男女どちらの気持ちも描かれていてすれ違いやなんやらが良くわかる。ドカッと売れる作品ではないだろうけど、細く長く売っていきたい。そんな気持ちさせてくれる作品。

あゆみ BOOKS 仙台店 副店長 / 土屋 修一

「空想郵便局」朝陽昇

- 新人作家さんの初単行本が発売当初から話題になるというニュースが多かった2012年でしたが、この作品もこれが初単行本だとは思えない、驚きの高クオリティ! 交通事故に遭い命が尽きかけた主人公が、自らの人生を取り戻すため、かみさまの命により人間に奇蹟を運ぶ配達人になるというストーリー。毎話毎話のメリハリがあって一気に読ませられ、しかも続きが気になります。ファンタジーも織り交ぜられていますが、人間ドラマ好きは必見の一作だと思います。

伊吉書院 類家店 / 中村 深雪

「口寄せ蓮治捕物帖」黄島点心

- 結構ダークな雰囲気なのにも関わらずキャラクターやセリフが面白くってついつい笑っちゃう。ストーリー自体も最後の最後まで予想出来ず、二転三転する展開はまるで作者の手のひらで踊らされているかのよう。けどそれが心地良かったりする、そんな作品。これ続き連載して欲しいなあ、すごく読みたいんですけど。

醤油製造業 / 小野塚 博之

「グラゼニ」森高夕次 アダチケイジ

- 夢だけじゃ食えないんです野球好きの僕らの夢を良い意味で打ち砕いてくれました(笑)でもこの視線でも野球が楽しめちゃうのです

コロムビア・マーケティング株式会社 福岡営業所 / 阿部 大介

- 球界の裏表を意外性のある視点から描いてとにかく読ませる。

映像系ライター / 縣 丈弘

- 手段としての野球のプレイじゃなくて目的としてのカネにフォーカスしたそれいっちゃらめええええ満載な野球ビジネス漫画。これ読んでプロ野球選手になる人増えたら面白くなると思います。日本球界。

京都精華大学特任准教授・NORISHIROKS / ひでつう

「軍靴のバルツァー」中島三千恒

- 今年の一押し! 続きが気になって仕方がない作品。19世紀の帝国主義全盛時代を濃密に描いていながら、ミリタリーマニアでも何でもない僕でもすいすい読める上手さもあります。絵もきれいで読みやすいですし。単行本最後に掲載している「暮らしのワンポイント(設定&豆知識ページ)」を見る限り相当取材されているんでしょうね。その知識に裏打ちされながら、敷居の高さを感じさせない魅力がこの作品にはあります。

フルハウス八戸ノ里店 店長 / 佐藤 誠

- 軍事先進国ヴァイセンから後進友好国バーゼルラントの士官学校へ軍事顧問として招かれた有能だけど、一筋縄ではいかない青年、バルツァー少佐を主人公とした19世紀西欧仮想軍隊物の作品。士官学校の生徒との交流や、その国の王子とのやりとりが小気味よく、このテイストのマンガはあまり読んでことがなかったのですが、ストーリーの緻密さもあわせて非常にお勧めしたい1冊です。

フリーランス / 大倉 壽子

- 普墮戦争から第一次世界大戦あたりの技術進歩に伴った、戦術・戦略の進歩を題材にした架空の欧州舞台の戦記モノ。技術の発展がどういった結果をもたらしたかというダイナミズムを上手にストーリーに落としこんでおり、読み応えのある作品。

高野山真言宗・リア住 / 蟬丸P

- 近世ヨーロッパっぽい架空の世界を舞台にした戦記物語。大国の思惑にさらされている小国が舞台で、基本的に主人公中心のマクロな視点で物語は進んでいます。作者の文化風俗・軍事の知識が膨大で、大砲の設置から鉄道の敷設、娼館の衛生事情まで資料を基に細かく描かれています。それでいて絵もきれいで、士官候補生の少年少女たちの成長物語の側面もあり、様々な読み方・楽しみ方のできる作品です。

丸善・ジュンク堂書店営業本部 コミック総括担当 / 小磯 洋

「羣青」中村 珍

- ついに完結巻出ました。読んでいた間、ずっと主人公の二人と、逃避行しているようだった。登場人物たちは皆、思いや感情の原因を理論的に掘り下げていって、その根底にあるものを探っている。読んでいた自分も、つられて自身の思いや記憶を掘り下げていってしまう。だから、なんか地獄のような読書体験だった。こんな思いをさせてくれるマンガは初めて。

書楽阿佐ヶ谷店 / 石田 充

「けずり武士」湯浅 ヒトシ

- とにかくごはんがおいしそうだった。女性陣の色気も良かった。もうちょっと読みたかった。

ライター / 芝田 隆広

「月刊少女野崎くん」椿 いづみ

- 前々からギャグセンスの高い作者だとは思っていたが、1巻を3ページほど読んだ所で購入を決意。キャラの濃さがすごいです。

株成田本店 とわだ店 / 安田 幸

- ひとりひとりのキャラクターが濃い。そしておかしい。男子高校生が少女漫画家という設定より、周りのキャラクターの愉快さの方が際立っている。

リプロ池袋本店 コミック係 / 小池 由記

- 恋愛コメディモノなのだが、そのテンポのよさからついつい読み続けてしまう。

株式会社アルナシステム代表取締役 / 平田 淳

- 男子高校生が売れっ子少女漫画家であり、そのことを知らずに告白した女子生徒がなし崩しにアシスタントにされて…というギャップ系のギャグ漫画、漫画家題材の作品がリアル路線になってきた中でギャグとリアルのバランスが絶妙な作品。

高野山真言宗・リア住 / 蟬丸P

「ケンガイ」大瑛ユキオ

- 「あーわかるわかる」と10人に1人ぐらいは主人公に同調できるだろう作品。今後の展開に期待。

社員 / 齋藤 隼

「凍りの掌」おざわゆき

- シベリア抑留、語り継がねばならない物語……などといわれるといかにも説教臭く思われるかもしれないが、読むと実際にそう思うてしまう筆力が素晴らしい。淡々とした語り口が、かえって過酷な状況を際立たせている。

ライター / 芝田 隆広

- そこには人が体験した「地獄」がある。そこでは人は限りなく無力で、運命は過酷で、自然は凶暴で、そして人は他の人に対して残酷だ。だからこそ、そこから辛くも生還した人たちの物語は語り継がねばならない、と思うのだ。

コミティア実行委員会代表 / 中村 公彦

「ゴークル」豊田徹也

- 寡作家による珠玉の短篇集。「いかにもアフタヌーン」な空気感がたまらない。

書評家 / 福井 健太

- 豊田さんの間のある描写が大好きです。「ゴークル」でもそれは健在。その間に引き込まれてしまいます。

ブックエース上荒川店 / 倉本 かおり

- やっぱりA5がいいよ！「アンダーカレント」の豊田氏の短編集。クスって笑ったり、切なかったり、ミステリ要素(?) あったりで1冊めいっぱい楽しめた。どの作品もテイストは違えど豊田氏独特の映画的な雰囲気は健在。

主婦 (元書店員) / 赤坂 真実

- 豊田さんの作品は、読んだ後に短編映画を観たような感覚になります。独特の間や空気がそう思わせるのかもしれませんが。薄い肉のトンカツが食べたくなりました。

主婦 / 戸田 仁美

「五大湖フルバースト」西野マルタ

- 近未来サイバー大相撲漫画。濃厚な作画で熱血の物語を描く。珍品と思わずぜひ手にとって欲しい一品。

映像系ライター / 縣 丈弘

- 斬新すぎる相撲SF！あまりに濃厚！人を選びすぎるマンガ！

文筆業 / 海猫沢 めろん

「ごっこ」小路啓之

- まるまる一巻分読み飛ばしてしまったのでは、と思えるほどの時間軸の断絶からはじまる第三巻(完結巻)。細かな矛盾や説明不足はあるものの引用、蘊蓄、言葉遊びが特盛の会話劇に気づけばぐいぐいとひきこまれてしまう。育児漫画ブームにのっかった悪意に満ちた変化球と思いきや、「子供」というこの世で一番身近で一番不可思議な存在の計算高さと弱さが活写されているこの作品は、やはり育児漫画なのだと思う。

ヴィレッジヴァンガード ファボーレ店 店長 / 西尾 雄太

「この音とまれ!」アミュー

- 箏曲部の面々の、初々しい手さぐり感が好きです。これからどうなっていくのか気になります。

教師 / 持丸 宏司

「こんちわハム子」あかり

- 小さい身体でなかなかの破壊力を持ったギャグを放つハム子。これを女の子たちだけに読ませておくのはもったいない。

書楽阿佐ヶ谷店 / 石田 充

「さきくさの咲く頃」ふみふみこ

- 間違いなくふみふみこの現時点での最高傑作。強く突き放されたような読後感は、決して気持ちのいいものではないけれど、しこりになりずっと心の中に残り続ける。連載終了後、本人に会う機会がありなかなか難産だったと聞いた。それはそうだろう。そう何度も描けるようなものではないことは、一読すればすぐにわかる。こういう作品に出会えたことを幸せに思う。

ヴィレッジヴァンガード ファボーレ店 店長 / 西尾 雄太

「サッカーの憂鬱 ～裏方イレブン～」能田達規

- 昇格争いを描いた「ORANGE」、マンガ版サカつく「オーレ!」などサッカーをこれまでにない視点で描いてきた能田先生の新作。愛媛FCのマスコットイラストを描くなど、実際のクラブ運営に携わった先生ならではの独特の視点でサッカーに関わる11の職業を描いた作品ですが、サッカーという舞台を抜きにしても、仕事人、プロフェッショナルのプライドを描いたまるで良質のドキュメンタリーを見ているような傑作です。掲載誌「漫画サンデー」が休刊ですが、良い形で続いてほしい作品です。

COMIC ZIN コミックバイヤー / 塚本 浩司

「Sunny」松本大洋

- 去年も書いたけど今年も書きます。2巻になって登場人物の寂しく悲しく暗い部分もすこしづつでてきました。おかあさんの事を思い出してニベアを嗅ぐ少年が実際に母親に会うんだけど、母親の淡白な感じとでも愛はあるんだけど…という距離感や別れ際にたくさんニベアを買って渡すところとか悲しい。人間一度は感じたことがある「自分は愛されているんだろうか?」と考える悲しい気持ちを思い出す。最終巻ではみんながもっと多くの人に愛されてたらいいな。大人の一人として、そう願わずにはいられませんよ。

鳥取県 米子高校 美術教師 漫画研究部顧問 / 佐川 由加理

- 大傑作。是非。

オフィスオーガスタ マネージャー / 樋口 健

「Sunny Sunny Ann！」山本 美希

- 決して万人に受けるとは言い難い強烈な個性を持った絵柄。書店で何か面白い漫画ないかな？と探していても前情報は何もなければなかなか初見で手に取りにくい作品かもしれません。でも好きな人はトコトン好きになる作風だろうなと思います。わたし然り。一台の車とそれに積めるだけの荷物を持ち、自由を愛し、なににも縛られないアンの旅路。旅の途中では、アンと関わることで人生に影をおとす人も笑顔を取り戻す人もいます。クールなように書いて人間味あふれるアンと、出会う人々との間に生まれる心の繋がりにぐっとくる1冊です。

伊吉書院 類家店 / 中村 深雪

「31歳BLマンガ家が婚活するとうなる」御手洗直子

- 「年収一千万男子」の濃すぎる面々に爆笑。世の中にはいろいろな人がいるんだなあ。実体験をつづったものだけど、オチのなんと鮮やかで感動的なこと。

朝日新聞記者 / 小原 篤

「34歳無職さん」いけだたかし

- このマンガは危険。無職の頃を思い出すリアルさ。理由もなく無職の時って、まさにこんな感じ。引きこまれる……

会社員 / 林

「四月は君の嘘」新川直司

- 昨年もエントリーした「四月は君の嘘」ですが、あれから遜色なくストーリーが進みもっともっとと読みたくなるマンガになったと思います。

ネクスト KG マネージャー / 藤井 紀公

- 昨年も投票した作品ですが、1年経ってもその気持ちに変わりはありません。画と感情と表現と絶妙な間と今にも聞こえてきそうな演奏シーンとがすべてマッチし、モノクロの世界をあたかも色鮮やかに魅せる素敵な作品。心しみる展開に涙が自然と出ます。今年も自信を持っておすすめする漫画です。

三省堂書店海老名店 / 近西 良昌

- 自分が音楽を生業にしているからなのか、この作品には入り込んでしまう。『正確に音を奏でること』は素晴らしいことなのだが、それよりも、感情を感じさせるものこそが表現者としての正しい姿だと、改めて強く思われる。主人公有馬公生がスランプを抜け、優等生という殻をぶち破り、感情でピアノを弾けるようになることを仲間の成長を見ているかのように楽しみにしている。

アーティスト / KG

- 音楽を丁寧に描いている作品。是非アニメ化して欲しい。そしてこの作者にもっと注目が集まって欲しい。

会社員 / 齋藤 隼

- 1巻からずっと大好きな作品。音がみえる描写に引き込まれます。息をつくのを忘れさせてしまう描写は巻を追っても健在。1巻1巻があっという間です。

ブックエース上荒川店 / 倉本 かおり

- 前回のときはまだ1巻しかでていなくこの作品自体未知数だった。巻数をかさねてきた今でも1巻の時の衝撃と瑞々しさを保っているのは驚きだ！やはり面白い！派手な演出などはないのだけどじんわり染み入る感じがとても心地よい作品だ。

あゆみ BOOKS 仙台店 副店長 / 土屋 修一

「式の前日」穂積

- 『騙された！』表題作を読み終えた瞬間に思わずこう感じてしまった作品。他の収録作も心地良く視点や発想を少しズラしていくこの物語の構成力はハンパなかったですね。質の良いミステリ小説を読んだ時の心地良さに似た感覚…現在連載中の新作、早く読んでみたいなあ…

芳進堂ラムラ店・コミック担当 / 川崎 一利

- 新人とは思えぬ成熟度。表題作の緊密な構成力に賛辞を送ります。

中央公論新社 文芸局次長 / 石田 汗太

- 新人さんとは思えないやわらかでおだやかな雰囲気がある短編集。女性にはもちろん男性にもお勧めできる一冊。

ブックエース上荒川店 / 倉本 かおり

- いろんな「ふたり」が描き出す小さなドラマが静かに心に染み込み、何度となく読み返してしまいました。短編なのに世界観がある。

有隣堂書店販売事業部 仕入販促グループ 書籍担当 係長 / 徳永 あけみ

- 冠婚葬祭というか、生と死というか、そういう不可逆な出来事を描きつつ、揃いも揃ってこんなにも前向きな気分させてくれるとは脱帽です。これを読めば端正な6つの物語に出会えます。

米子東高校 司書 / 野間 勤

- かけがえのない、『ふたりきり』の時間。その時間はいつか形を変えていく。どこか切なく、優しい物語。

主婦 / 戸田 仁美

「7人のシェイクスピア」ハロルド作石

- これからどんな展開になるのか、巻を追うごとに楽しみになる。

会社経営者 / 小野 ゆうこ

「失恋ショコラティエ」水城せとな

- マンガ大賞 2011 の一次ノミネート作品なのですが、今回改めて推します。今が読み時です！もやもやと迷走を続けた主人公の想いにけりをつける出来事が今まさに！2012年12月に出た6巻は鳥肌ものでした。積もり積もった想いととも物語が一気に進みだす。そういう場面を一番いいタイミングで読めるってマンガの醍醐味だと思います。そして、その続きがまだ出ていないというのも。

Sler 主任 / 廣瀬 公将

- ゆっくりと新刊がでてくるこの作品。ついに6巻に！もう数年越しですが、爽太の片思いに夢中です！！

フジテレビアナウンサー / 松尾 翠

- 人妻に横恋慕するショコラティエ・爽太と、その周りの人々の恋愛模様を描く作品。一般的には許容され難い状況ばかりなのに、作者が「ふつうの恋愛」を描いている、と主張するのが理解されてしまう稀有な作品。人が人をおもうかたちの「ふつう」がそこにはある、と思う。

ブロガー / サイトウ マサトク

- 絡みつくような雰囲気一票。

教師 / 持丸 宏司

- こんな底意地の悪い少女マンガは初めて見た。しいて例えるならばT・ギリアムの「未来世紀ブラジル」を観た時の印象に近い。

コミティア実行委員会代表 / 中村 公彦

「シティライツ」大橋裕之

- いわゆるガロ系を思わせる絵柄やイメージで勝手にスルーしてた自分をタコ殴りにしたい。「変なものを描こう」という気負った自意識と無縁の「軽やかな奇想」。シュールな話も切ない話もどこまでもポップ。やたら暴力的でバイタリティあふれるメガネ女子良子さんがたまらなく好き。

ヴィレッジヴァンガード沖縄エリア エリアマネージャー / 大山 敏樹

「じべたぐらし」マツダユカ

- アヒルののんきそうな顔にだまされがちですが、結構内容はシュールです。アヒル君食べられかけること多数です。後ろ姿がキュート。アヒルのおしりは最強だと思う。

リプロ池袋本店 コミック係 / 小池 由記

「アルキヘンロズカン」しまたけひと

- 主人公は作者の分身である。それは「この物語はフィクションです」と否定しようがしまいが、厳然として読者はそう思って読むし、そう思わせるように描いてある。そして、そのリアルがフィクションに取り込まれた時に、想像を超えた感動を生む。それはこの作品が描かれた動機から、自主出版での発行、商業出版へ至る経緯とも二重写しとなる。想像もしなかった結末とはこういうことを言うのだろう。

コミティア実行委員会代表 / 中村 公彦

「JUNK LAND」紙魚丸

- 作品のカテゴリ的にノミネートされないのは重々承知しているんですが、あえて一票。や、何年かぶりで実用的だったんです。実用にならなくてもあなたが異常なわけではない（と思う）のでどうぞご安心を。

眼鏡時空発生装置 / 田中 海渡

「1/11 じゅういちぶんのいち」中村尚儔

- 読んだ後は、サッカーが、人間が大好きになれる作品です。スポットを当てる場所の選択がすばらしい。サッカーは好きなのですが、コレを読んでもっと好きになりました。

毎日新聞デジタル「まんたんウェブ編集部」副編集長 / 河村 成浩

- 毎話じーんとします。

漫画全巻ドットコム / 安藤 拓郎

- サッカーが題材になっているのですが、このマンガはサッカーマンガというより、成長物語です。さまざまな悩みを持ちつつもなんとか切り抜けてゆく姿がとてすがすがしく、さぁいけ！というようなトーンではなく、ちょっと勇気をだして一歩踏み出してごらん。というふうにそっと自分の肩を押してくれるようなマンガです。若い人には指針を、年を重ねた大人には初心を教えてくれる。そんなマンガです。

Sler 主任 / 廣瀬 公将

- ひさびさにマンガを読んで号泣き！このマンガがなぜあまり取り上げられないのだろう？不思議だ！といいつつまた読みなおして号泣き！！

あゆみ BOOKS 仙台店 副店長 / 土屋 修一

「嫁姑の拳Z」 函岬誉

- マーシャルアーツの達人の嫁と、合気道師範の姑が、拳と拳で語り合う嫁姑バトル漫画。世の中こういう嫁姑なら平和でいい…のか？

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店コミック担当 / 山本さとみ

「14歳の恋」 水谷フーカ

- 初々しいのう。押見修造「悪の華」に比べるとなんだらうこの落差は…。いいよなあ、こういう14歳を過ごしてみたかったよ。でも、男子校でしたもの…。柔道部でしたもの…。程遠いわけです。そりゃ、男だけで心置きなく非紳士の猥談をできるってのも得難い経験ですがね。まあ、ないものねだりなのかもしれませんね。

米子東高校 司書 / 野間 勤

「シュトヘル」 伊藤悠

- 登場人物たちがどれだけ己の信念に従ってまっすぐに生きているか、自分の生き方に誇りを持っているか、の描写が素晴らしい。彼らの思想や思いが痛いほどに伝わってくる作品です。真っすくな思い同士がぶつかり合うのが切なく、そしてアツい。また、いわゆる歴史漫画ですが、“文字を護る・受け継ぐ”という視点で描かれているのが面白いです。

ホビー系企業勤務 / 畑中 瀬路奈

- 『生』と『死』について深く考えさせる。現代の日本人には『生と死が紙一重』という感覚は味わうことはない。だからこそこの漫画に魅せられるのかも。

リプロ池袋本店 コミック係 / 小池 由記

「春夏秋冬 Days」 藤末さくら

- 家庭と恋と。あのメールを送った地点は、ターニングポイントのひとつになってしまうのだろうか…。と、わかりつつも、送ってしまう感じ。。いけないとわかっていても惹かれてしまう。わかりすぎて怖くて背中がぞわっとしながら読みました。女性としての幸せは「どっち」なのか、考えさせられる。

ヴァイオリニスト / 佐藤 帆乃佳

「昭和元禄落語心中」 雲田はるこ

- 落語の世界の中で、保守と革新の双方を見てきた孤高の名人が新弟子に回想のような形で人物を中心に語っていく一代記。伝統系の業界に身を置いている人間には身につまされる題材を扱っており目が離せない作品。

高野山真言宗・リア住 / 蟬丸 P

- 圧倒的な画力。そして話の面白さ。3巻にきててもテンションが落ちないのも好印象。

お菓子研究家 / 福田 里香

- 色気！男である自分が、初めて「男の色気」にゾクリとさせられた。やばい。

ダ・ヴィンチ編集長 / 関口 靖彦

- 落語に人生を捧げた男たちが歩んできた道と彼らを取り巻く人々の想いにグッと引き込まれる作品です。物語は戦後、新しい物が次々と流れていく時代の中で古きを残すか新しい道を選ぶか芸の道の苦悩や葛藤、そして各々の想いがどんな形になっていくのか漫画ならではの表現を味わいながら見届けたい作品です。

有隣堂書店販売事業部 仕入販促グループ 書籍担当 係長 / 徳永 あけみ

「食の軍師」 泉昌之

- 気が付けば何時の間にやら「食」漫画ブームが！？でもこのユニットは外せません「食の軍師」を味わい満腹になった時何故か少しだけ大人の仲間入りをしたように感じた。

コロムビア・マーケティング株式会社 福岡営業所 / 阿部 大介

「女王の花」 和泉 かねよし

- 中国っぽい架空の国を舞台にした歴史もので、ファンタジー要素は一切なし。主人公は国の思惑に翻弄されながら生き抜いていくのだが、国と個人のマクロとミクロがバランス良く描かれていて、また主人公には隠された特別な能力などはなく、ちゃんと努力して身に付けた知識と知恵だけで立ち向かってゆく。アンチヒロイックファンタジーとでもいうか、それだけに地味に見られがちだが、読みごたえはある。ファンタジー要素バリバリという違いはあるけれど、小野不由美「十二国記」が好きな人には面白いと思う。

丸善・ジュンク堂書店営業本部 コミック総括担当 / 小磯 洋

「女子攻兵」 松本次郎

- 女子高生型ロボットに乗って戦うという狂った設定と、乗っていると自分を女子高生だと思い込み狂っていくパイロットたち、というさらに狂った設定がいい。物語もまだ序盤で、ここからどう展開するのが注目される。

ブロガー / サイトウ マサトク

「ジョジョリオン」 荒木飛呂彦

- 安定した面白さなので、まんたい向きかはわかりませんが、自分が誰だかわからない主人公というのも新しく、ミステリー要素があっていい。それでいて、杜王町というジョジョファンには嬉しい舞台で、今一番続きの気になる漫画です。

オタクタレント / 喜屋武 ちあき

- これでジョジョが終わってしまうんじゃないかと、心配。そんな衝撃。

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松 由夏

「スピリットサークル」 水上悟志

- さすがの水上節。同作者の隠れた(?)名作「惑星のさみだれ」並みの作品になってくれることを期待。

会社員 / 齋藤 隼

- 1巻だけなのに、2012年でいちばん心に残ったマンガ。特に後半のぐいぐい引っ張られる展開ところをうつつ言葉に涙。

クリエイティブディレクター / モリサワ タケシ

「すべてがちょっとずつ優しい世界」 西島大介

- 読後、考えさせられる。

漫画全巻ドットコム / 安藤 拓郎

「すみれファンファーレ」松島直子

- “純粋なこども”をここまで上手く描いた作品はそうないと思います。ただただすみれちゃんのまっすぐな気持ちに心打たれます。所謂“泣かせる”話も、説教臭く無く嫌みなく描いているのが凄い。

ホビー系企業勤務 / 畑中 瀬路奈

- 最初に読んだときから、すみれちゃんにがしっと心をわしづかまれました。素朴な優しさが心地いい。ずっと読んでいたくなる、すてきな世界観。

ブログ「漫画食堂」管理人 / 梅本 ゆうこ

- かわばたすみれ 10 歳、とても愛しい女の子です。読んでいくうちに心がほっこり暖かくなります。そしてジワリと感動し、涙がでそうになります。私もこんな風にあたたかく、やさしい心を持ちたいです。イチ押し！です。ほっこりしたい貴方にオススメ。

有隣堂 恵比寿店 コミック担当 / 桶谷 佳代

- 小学生の堇ちゃんの健気さにキュンとききましたー！両親が離婚した家庭のお話なんだけどその中で子供ながらに気を使ったり気持ちを出したりする堇ちゃんに可愛いなっていうキュンと、切ないなというキュンがきます。

カメラマン / 平沼 久奈

- ほんとうに、素直に「良い漫画」と思える作品。もちろん、100%の善意に満ちているわけではない。いろんな思いがあり、主人公の目に映る大人たちは失敗し、また、ままならあい思いを抱えている。どちらにせよちょっと「優等生に」大人をしてしまっているひとたちだ。そんな彼らが主人公とふれあい、お互いにちょっとずつ成長したりときほぐされたりしていく物語。所作のひとつひとつに著者の観察眼が光り、作中のすべてのキャラクターに愛を感じる。

ヴィレッジヴァンガード ファボーレ店 店長 / 西尾 雄太

- 真面目すぎる少女の視点を愛でるマンガ。子供にしては出来過ぎだろ！！とツッコミたくなるけど、マンガだからいいのです、だってその視点は、ハッとと思うような切り口を備えているから。世界を拗ねずにまっすぐ自分の感覚で見ている視点を共有できるのは、幸せな時間です。

フリー WEB デザイナー / 河本 智芳

「センセイあのね？」小石川ふに

- ある意味新鮮な真っ直ぐな、ドストレートな少女漫画。陸上部のエースで王子キャラなヒロインが好きな先生の前ではオトメになる。そのギャップも可愛いですが、それを応援する女友達との友情も素敵。女友達の一人が、先生が女性と歩いているところを見てショックを受けているヒロインに対して、いきなりキスをすることでもっとビックリさせるシーンはあまりのさりげなさにすごく衝撃的でした。そんな百合要素も百合好きとしては楽しい作品です。

COMIC ZIN コミックバイヤー / 塚本 浩司

「せんせいになれません」小坂俊史

- 四コマ王子のデビュー作にして代表作。八巻が刊行されたので“区切り”として推したい。

書評家 / 福井 健太

「千年万年りんごの子」田中相

- 3冊出た本のカバーにはいまのところ全て果物が描いてある。作者のフルーツが好きすぎる件についていつかインタビューがしたいくらいだ。そしてついに果物まんがを連載！ 名作の予感。

お菓子研究家 / 福田 里香

「そこをなんとか」麻生みこと

- 新人弁護士の業務と生活をリアルに表現した漫画である。いわゆる大規模事務所の内情も正確に描写しており、漫画ファンのみならず、弁護士志望者にとっても必見の作品といえる。依頼者とのやりとりや法廷での弁護活動に加えて、弁護士事務所内での人間関係が各ストーリーに関連して巧妙に盛り込まれており、どれもが弁護士であれば共感できるものである。

弁護士 長島・大野・常松法律事務所 / 三村 量一

「空が灰色だから」阿部共実

- 当人しか気にしないわだかまり、些細な誤解、心に刺さった極小の刺、それを延々と気にし続ける、情けなくもかそけき自意識の在り方を、やっぱり延々と、しかしエンタテイメントとして描いているのが凄い。ギャグかと思っただら超短編のホラーだったりサイコスリラーだったりSFだったりして飽きさせないし、数話に一度、ジャンル分け不可能な言いがたい「何か」があって、それがとにかく衝撃的だ。

ソフトウェアエンジニア / 第弐齋藤

- 登場人物たちのバタバタしている様、不器用さが、この漫画を描こうともがいている作者のようでいい。

書楽阿佐ヶ谷店 / 石田 充

- 1巻を読んだ時の衝撃が凄かったです。友人に貸したコミックスが帰ってこない。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

「空と原」中村明日美子

- 迷いに迷いましたが、やっぱり入れます。というのも、迷ったのは500%個人的な思い入れで好きなので、薦めるかと言うと相手を選ぶため。それでも、今年はこの作品が世に出てくれたことに心から感謝しているので、やっぱり入れることにしました。…とは言え、正直、原先生がどうなったかなどは興味の範囲外なので、一般的なBLの読み方とはずれていたかもしれません。それでも、人の感情のこまやかさをこんな風に描かれたら、それはしみじみ、見入るしかありません。本当に、良かった。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中 香織

「大砲とスタンプ」速水螺旋人

- 一言で言えば、「兵站（へいたん）マンガ」。戦争マンガでありがちな、最前線で血で血を洗う戦いをシリアスに描くという手法とはまるで対極にあるマンガです（ときどき犠牲者出ますが）。兵站とはいわば戦場の後方支援。食料・弾薬・諸物資を最前線へと送る「紙の兵隊」。そこのマルチナ・M・マヤコフスカヤ少尉（♀）が主人公。19～20世紀ロシア風な架空のまちアゲゾコ市が舞台です。やる気のない上司、横流し大好きな高級将校、一癖もふた癖もある部下たち。ときには士気を上げるための嘘の手紙をでっち上げたり、反乱部隊を鎮めたり、ダブルスパイに翻弄されたり、忙しいです。絵柄もどこか懐かしさを感じさせるタッチ。ちなみに、「スタンプ」とは主人公の飼う足8本のイタチモドキのことだそうです。

国分寺市議会議員 / 三葛 敦志

- 戦記・軍記ジャンルの中で、今まで取り上げられることの無かった兵站や補給に焦点を当てた作品。残酷描写は無いものの戦争のシビアな面を上手く表現しており、宮崎駿的なメカの書き込みも相まって読み手を引き込む秀作。

高野山真言宗・リア住 / 蟬丸 P

- 「紙の軍隊」こと兵站軍をメインに据えた仮想軍事モノ。細かな設定と作画もよし、兵站が（だらだら続くような戦争の中で）どういう立ち位置、力関係にあるのかが分かるのもよし。

ブロガー / サイトウ マサトク

「高杉さん家のおべんとう」柳原望

- ようやく大学に職を得た主人公・高杉温巳（はるみ）と、従妹の久留里（6巻で高校生に）との二人暮らしも早4年目。お弁当を通じてのコミュニケーションを少しずつ積み重ねながら、久留里の亡き母で温巳の伯母である美哉との思いも深まっています。無口な久留里の高校生活編がはじまり、久留里の恋敵（？）も遙かドイツへ。現実世界では、同タイトルのレシピ本も発売され、お弁当界に新しい旋風を巻き起こしているとのこと。海外でも「bento」として認知度の高まりつつあるお弁当文化をマンガという表現手法を用いて更に広めて欲しいです。

国分寺市議会議員 / 三葛 敦志

「タオの城」板倉梓

- 全1巻が残念な作品。可愛い絵柄ですが、内容はしっかりと読ませる作品です。スラムと化した住居を舞台にした様々な人間模様。オススメです。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

「タケヲちゃん物怪録」とよ田みのる

- 「幸せにしてやる」。この台詞の陳腐さをまったくひっくり返す気持ちよさ。タケヲちゃんの笑顔の破壊力といったら！！最初は妖怪への愛が暴走してるのか、さすがに読みづらい画作りだな…と思いましたが、読み進めるうちに慣れてしまいました（褒めています）。ここまでまっすぐ「お前を幸せにしてやる！」という言葉を言い放つ作品もめずらしい気がします。タケヲちゃんの笑顔に読んでるこっちが幸せにされてしまいます。

フリー WEB デザイナー / 河本 智芳

「食べるダケ」高田 サンコ

- 食べる描写の力強さとエロさが好きです。食欲と性欲は近いところにあるを地で行くマンガ。ひとつひとつの短編がしっかり「マンガ」しているのが凄いです。

ジャック鷺津駅前ブック館 コミック担当 / 内藤 沙織

「チェリーブロッサム！」茶果山しん太

- 四コマを一つ入れておきたくて、こちらの作品を選びました。主人公の日吉君が通う高校の園芸部な物語！残念美人な先輩達とのゆるゆるライフは、憧れちゃいますね。二巻は妹やらなにやら加わって何故かハーレム系に大変身！偶には萌え分も補充してみても如何ですか！？

バイイングマネージャー / 日吉 雄

「血潜り林檎と金魚鉢男」阿部洋一

- 個人的には一億部売れてほしい！そうしたら日本は変わる！

文筆業 / 海猫沢 めろん

- 人の血を吸い金魚になってしまう金魚鉢男と戦う“血潜り”の少女とその助手になった少年を描く。作画・作劇ともにどうにも奇妙な雰囲気です。女の子もかわいい。

映像系ライター / 縣 丈弘

「長歌行」夏達

- 復讐を決意した主人公がとにかく美しいの一言。全体的に美しすぎる絵が続くので細部まで何度も読み返しています。

株成田本店 とわだ店 / 安田 幸

「つなぐと星座になるように」雁須磨子

- ちょっとおバカなギャル、ダメ男の元彼、超ドライなコスプレ娘、等々「いるいる〜！」なキャラ描写の上手さは流石。ばらばらだった人間関係がだんだん繋がり、タイトルさながら星座のようになって行く様が面白い。

ホビー系企業勤務 / 畑中 瀬路奈

「つらつらわらじ」オノナツメ

- 熊田の殿様が男前過ぎる！

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店コミック担当 / 山本さとみ

「ディメンション W」岩原裕二

- 個性の強いキャラを存在感のある線が引き立てていて、設定も面白く、気が付けば展開に引き込まれている。

音楽・ゲームクリエイター / 杉本 善徳

「亭主元気で犬がいい」徳弘正也

- 小学校に移籍ということで、すごい期待しておりました。僕的にも小学館に新しい風をいれてくれてありがとうございます！という感じです。

少年カミカゼ / 和教 @ 少年カミカゼ

「でこぼこガーリッシュ」原 鮎美

- いろんな方向にキュンとします。気負わず楽しめる作品なので、おうちでごろごろしながらのんびり読んでください。

金海堂イオン隼人国分店 コミック担当 / 園田 美智子

「デストロ246」高橋慶太郎

- カワイイ顔して、ドッカーン、バリバリ！狂気を孕んだこの落差が堪らない！！基本、女性vs女性。やっぱり、女性は強いですね！

本と文具ツモリ / 津守 晋祐

- 容赦ない。とことん容赦がない。高橋慶太郎が「ヨルムンガンド」シリーズの完結に続いて描き始めた「デストロ 246 第1巻」(小学館、533円)の容赦のなさは、武器商人が跋扈する世界で、襲ってくる敵を凄腕の傭兵たちがあっさり退け、それでもしつこく追ってくる相手には、爆撃機で爆弾の雨を降り浴びせ、粉々に吹き飛ばす容赦のなさを見せた「ヨルムンガンド」すら上回る。遙かな高みで凌駕する。あれで「ヨルムンガンド」には秩序があった。凄腕の傭兵たちであってもココ・ヘクマティアルの命令なしには動くことはしないし、戦う時も勝手には振る舞わず、彼女の命を守るという最大の目的のために動いていた。空を支配し、世界に秩序をもたらすという願望の叶える過程で、大量の犠牲が出ることを厭わないココの心理は、確かに容赦のない類のものだった。それでもそこには目的があり、プロセスがあって、結果に対する責任を背負う覚悟があった。「デストロ246」にはそんな秩序も、躊躇も、思索も、願望も一切ない。敵がいる。殺す。敵らしい。殺す。鬱陶しい奴だ。殺す。容赦などという思考のプロセスなど欠片もなく、微塵も経ずして体が動いて銃を取り、ナイフを握って相手を撃ち、刺し、殺し尽くす。それも少女たちが。そのバトルの迫力は「ヨルムンガンド」以上。向かう先の見えなさは「ヨルムンガンド」とは違う意味で興味を誘う。東京という身近な舞台で、女子高生という目に見えやすい存在が、あり得ない性格とあり得ない体技であり得ない殺し合いを演じるそのギャップは、「ヨルムンガンド」にはなかった種類の興奮をもたらす。誰が生き残るのか。誰も生き残れないのか。楽しみたい。血で血を洗う戦いぶりに狂喜乱舞したい。少女たちの容赦ない本性への恐怖ををじわじわと身に染みいらせながら。いつかその美しい手にかかって、容赦なく葬り去られる時を夢想しながら。

書評家 / タニグチリウイチ

「鉄楽レトラ」佐原ミズ

- 「人の人生を変えてしまうほどの人間ってどんな奴だ？」この台詞に惹かれて買いました。人から逃れて静かにしたい主人公がゆっくりと変わっていく。人は一人でも生きていけるけどもったいないよねと思える作品です。

ブックエース上荒川店 / 倉本 かおり

「デラシネマ」星野泰視

- 日本映画の過渡期のエネルギーが感じられる作品。

会社経営者 / 小野 ゆうこ

- 日本の古き良き時代。活気がある時代に、活気をもたらすエンターテインメントに従事する若者たち。2人の若者は同じ事件を通して同じ未来の為にそれぞれのアプローチで歩いていく。その過程が、戦後の急激に変わっていく環境とともに描かれていく様は毎週首を長くして待っていた。早足で完結してしまったが、熱量・温度とも高いまま、我々に届けてくれた。できれば「デラシネマ」の次回作読みたいなあ、読みたいなあ(大事なことなので2回言います)

角川書店ニュータイプ編集部 / 鳩岡 桃子

「天にひびき」やまむらはじめ

- 主人公の久住秋央は音大のヴァイオリン科1年生。9歳のときに同い年の曾成ひびきの指揮者っぷりを見て以来、そのイメージがぬぐえないまま「心ここにあらず」で大学進学すると、なんと同級生に。「曾成ひびきにとって必要な演奏家に…それ位の自分にならなきゃ」と一念発起し、コンサートマスターを目指します。幼なじみで欧州でプロデビューしているピアニストの迫田美月、同じヴァイオリン科の面々、彼らを引っ張り上げようと力を込める教師陣。このマンガに登場する人物は、みんなそれぞれに悩みながらもがきながら、どうにかして前へ進もうとして壁にぶつかって、そしてそれを乗り越えようと四苦八苦しています。そして、曾成ひびきと出会い、それぞれの物語が始まります。苦悩する青春をもう一度かみしめてみたい方は是非手にとってください。

国分寺市議会議員 / 三葛 敦志

「東京喰種」石田スイ

- ヤングジャンプの得意ジャンル、ダーク SF と言ってはなんですが、現代 SF とでも言いましょうか、グールが人間しか食べられないという最近では当たり前感の出ている設定ですが、その設定にとられることなく、そしてまだまだグールの強みとしている赫子という補食用器官のことはまだ説明が不十分でグレーゾーンであることから、今後の内容に期待したいと思います。

ネクスト KG マネージャー / 藤井 紀公

- 独特のタッチと、独特のネーム感が、読んでいて楽しい。

音楽・ゲームクリエイター / 杉本 善徳

「トーチソング・エコロジー」いくえみ稜

- まだ 1 巻しか出ていないので続きが出てからと思ったんですが…。ベテラン作家だけど、安定して読める作品です。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

「どーにゃつ」コザキユースケ

- 細部まで描き込んだ人間の消えた朽ちる街に、お菓子のよう動物たち。ゆるいんだかゆるくないんだか分からない世界のドタバタ SF コメディ。好きです!!

店長 / 野口 忠義

「ドカベン ドリームトーナメント編」水島新司

- 今一番クレイジーなマンガだと思う。若い衆は誰も知らないような過去作品の選手や、どう見ても 1 試合限定だろうなあ……と思える選手たちを多数登場させまくる濃厚な水島ワールドに感涙。

ライター / 芝田 隆広

「トモちゃんはずごいブス」森下裕美

- なんだろう、とっってもかっこいいマンガだと思う。みんなゆがんでいて、でもそのことによって誰かが誰かを遠ざけたり孤立させたりはしない、という強い意志みたいなものがある。ゆがんだ状態のまま、文句をあげせあげせられながら、それでも一緒にいる感じがいい。とても重苦しくて痛々しい内容なのに、明るさがあるところがすごい。

マンガライター / 門倉 紫麻

- はっきり見てわかる危ない人、見た目爽やかな極みだけど危ない人、辛い生い立ちだから危ない人、オタクっぽいから危ない人。現代の報道を賑わしている、そんな危ない人達は、みんな生まれながらにコミュニケーションが取れない異常者なのか？ ちがうよね、という実感が私にはあるのですが、でも、その実感は、マンガも映画も何も、カタチにしてくれていませんでした。時代が悪いよね、という程度のことにとどまる作品の、なんと多いことか。しかし！この作品では、危ない人達がただしく美しく、共鳴しあって生きていて、名言に名言が呼び起こされて連なって、時代に辛いを思いをさせられている危ない人達が、どんどん明るい方向に引っ張られていきます。「イジメられるのには理由がある」なんて簡単に言ってしまう、コミュニケーションをサボってる人間にぶちこみたい、そんな作品。ちなみに、ずごいブスたるトモちゃんの事情がまだわからなくて、これがここから語られるのかと思うと、ドキドキしますね。

ニッポン放送アナウンサー / 吉田 尚記

「℃りけい。」わだぺん。、青木 潤太朗

- 理系を描いたマンガって、マンガとはいえども当の理系人間からするとちょっと首をかしげることが多いんですよ。この「℃りけい。」もそりゃあ突っ込むところはもちろんありますが（マンガだけに）、でも、うまーくデフォルメしてる珍しい作品なんじゃないかなーと思ってます。なんというかレットル貼ってる感がないんですよ。それでいて、優しく初心に立ち戻らせてくれるようなところもあって、ポカポカしますね。理系の人も、理系を知りたい人も是非どうぞ。

眼鏡時空発生装置 / 田中 海渡

「ドリフターズ」平野耕太

- 今年も一押しです。展開が遅いですが、使うキャラのマイナー感とメジャー感の合間を縫った雰囲気がかみずマンガ好きをよびよせる作品。

メガマソ / 涼平

「とんがらし」桐村海丸

- モーニング誌上で初めて見た時から、これはいいぞー、と思ってました。絵もうまし！全1巻なのが悲しい。もっと読みたい！桐村海丸氏の将来も楽しみでしょうがない。

通販部 部長兼コミック総括 / 宮川 元良

「なかじまなかじま」西炯子

- 「2012年は〇〇イヤー！」とかキャッチコピーにありがちな文章だが、「2012年は西炯子イヤー！」というのは掲げるべきひとつだろう。出版社を横断して3か月連続9冊（5社7作品）を出版するってそれ計何ページ描いているの？というバイタリティ。その中でも連載が始まった「なかじまなかじま」のバイタリティにぐいぐい引き込まれて、吸われて、読み終わった頃には腑抜けになってしまう。これからにも期待したい一作。

角川書店ニュータイプ編集部 / 嶋岡 桃子

「長嶋有漫画化計画」原作 長嶋有

- 長嶋有の入門書でもあり、日本のマンガの今を見事に切り取った1冊でもあり。よしもとよしもの新作が読めるだけでも感涙ものです。

ヴィレッジヴァンガード沖縄エリア エリアマネージャー / 大山 敏樹

「謎のあの店」松本英子

- 昭和の雰囲気プンプンです。大好物です。そして、ものスゴく冒険心スイッチを押されちゃいます。「やりますなあ、と思わず言葉がもれます。そして何だかトキメキます。私も行ってみたいお店がたくさんありました。

有隣堂 恵比寿店 コミック担当 / 桶谷 佳代

「ナナマルサンバツ」杉基イクラ

- クイズの世界観が非常によく描かれています。「なぜ山」たったそれだけの単語にこんなに情報が隠されているなんて思っていませんでした。クイズに詳しくない人でも、楽しめるように解説をわかりやすく解説されているような気がします。ボタンを押すタイミングや問題作り。今まで詳しくクイズの世界を知らなかった自分でも惹きつけられます。これはクイズ入門書。自分もクイズ大会に出てみたい！

デザイナー / 平沼 寛史

- コマとコマの間の動作が見えてくるような、自然なテンポで読める感じが非常に素敵だと思います。マンガでクイズという着眼点も好きです。

音楽・ゲームクリエイター / 杉本 善徳

- 「サマーウォーズのコミカライズなどを手がけた、杉基イクラの手による競技クイズをテーマにしたマンガといえは？」「ナナマルサンバツ！」「正解！」 私、高校生クイズで全国大会まで行ったことがあり、大学でもクイズ研究会に所属していたマジクイズプレイヤーなのですが、競技の面白さの本質をとらえた超一流のマイナー競技マンガ。さらに、それ以上の、超・革新的な特徴が！ どんなにバスケのうまい人がスラムダンクを読んでも、桜木花道とバスケできるわけじゃない。しかし、競技クイズの場合、作品中には実際に大会で使われるのと全く同じ、リアルなクイズが登場します。そしてどこで早押しが行われたか、正解だったか不正解だったか、マンガ内の文字と卓越した絵で、その瞬間が明示されています。読者たる自分がそのクイズの参加者で、作品中の彼らと同じ立場に身をおいたと仮定すると、彼らが答える瞬間までに正解を想起できれば、あなたの勝ち。…そうなんです！なんと「マンガ内のキャラクター」と、リアルに競技クイズをプレイすることができる、そう、マンガ内のキャラクターと真剣勝負ができる、歴史上初めてのマンガ作品なのです！「ナナマルサンバツ」を「プレイ」しないのは、もったいないです、よ。

ニッポン放送アナウンサー / 吉田 尚記

「なにかもちがってますか」 鬼頭莫宏

- 能力モノですが作者の癖が強くて、なんというか先が気になり続けます。

メガマン / 涼平

「なのはな」 萩尾望都

- 福島原発の恐怖を、漫画に昇華した作品。萩尾さんの考えがよく現れており、ぜひ読んでほしい。

主婦 / 安田 奈緒美

- 失ってしまったものは取り戻せない。壊れてしまったものは元通りには治らない。それは真理。絶対の掟。神様にだって変えられない。失ってしまった人を思って泣くのはいい。泣いて心が安まるのだったら、いくらだって泣けばいい。壊れてしまった世界のために怒るのもいい。怒って気持ちを鎮めなければ、心が破裂してしまうんだったら、限界が来るまで怒り続けるしかない。けれども、心ゆくまで泣いたり、怒ったりしたあとは、どうやったら笑い顔でいっばいの世の中にできるのかを考えよう。もう誰も失わず、何も壊さない世界を作れるのかを考えよう。萩尾望都の「なのはな」(小学館、1143円)という漫画の短編集なら、そんな活動にきっと役にたつ。世界はまだ終わってはいない。こうして今も存在して、そしてこれからも続いていく。漫画家としてそのことを伝え、届けようとして、あの日からの1年をかけて、何本もの漫画を描いてきた萩尾望都の思いが込められた短編漫画たち。それらを読み、描かれた家族の物語を、示されたさまざまな寓意をどう受け止め、どんな行動をとっていけばいいのかを考えよう。読んで広め、伝えることで、もう絶対に過ちを繰り返さないで、これから生きていく決意を、自分の胸と、そして大勢の人の胸に刻み込もう。

書評家 / タニグチリウイチ

「ナリキン！」 鈴木大四郎

- 将棋+蹴球=王道+少しの奇抜。ひと言でいえばこんな作品！1巻発売当初、絵柄に若干抵抗があり一度置いたものの、改めて手に取り読んでみたらハマリ！しかも巻を追うごとにその『少しの奇抜』が心地良くてたまらなくなってます。将棋を知らない読者でも普通に主人公・ナリキンの戦略がスムーズに入り込んでいく見せ方は秀逸！『ジャイキリ』とはまた違ったタクティカルサッカーの面白さを知らしめる1作です！

芳進堂ラムラ店・コミック担当 / 川崎 一利

「成程」平方イコルスン

- 話の切り口といいセリフ回しといい、類希なセンスとオリジナリティ。トーンを一切使わない画風にも一目惚れしました。「汚れるな、歯」「とっておきの脇差」などサブタイトルからしてキレッキレ。シュールと紙一重なトコはあるけどそれだけでは決して済まされていない事はなんとなくわかる。この“なんとなく”がまた良いんだよねー。

醤油製造業 / 小野塚 博之

「南国トムソーヤ」うめ

- 読み出したとたんに日常を忘れさせ、綺麗な絵と興味深い話で、沖縄の世界に連れて行ってくれる。んーよくできてる。。わくわくする冒険の続きが気になる。

ヴァイオリニスト / 佐藤 帆乃佳

「にこたま」渡辺ペコ

- 恋愛・結婚・出産を匂とする、アラウンド 30 女子の参考図書。追体験をしようものなら、リアルにくっさり深手を負わせる破壊力…なのに、読み進まずにはいられない。作者のユーモアセンスも大好き。

シンガーソングライターの妻 / 谷澤由香里

「ニセコイ」古味直志

- 女の子がかわいい。あとエロに頼らず、かつ妹も出さずに、しっかりハーレムラブコメしてる点には好感が持てる。

ライター / 芝田 隆広

- 1周まわったラブコメ感があるが、この王道をひたすらやりまくるのがツボ。

金沢ビーンズ 明文堂書店 / 木村 俊介

「ニッケルオデオン」道満清明

- 奇想！

文筆業 / 海猫沢 めろん

- 軽妙かつ力の抜けた奇譚集。最近の道満清明の研ぎ澄まされっぷりは凄いというしかない。

映像系ライター / 縣 丈弘

「NOT LIVES - ノットライヴス -」烏丸渡

- 今どきの電腦世界ストーリー系ながら、強力な敵と戦うアバターは、なんと生身の女の子!? 可愛い顔して生死をも掛けるハードなバトルを繰り返し、主人公たちははたして生き残れるのか? 烏丸先生の描く可愛い女の子と世界感がマッチして、読み易い仕上がりとなっております。

バイイングマネージャー / 日吉 雄

「ねこだらけ」横山キムチ

- 小さいことで悩んだり凹んだりしていることがバカバカしくなる! 脱力の境地! ジャイニャンコキリングも最高! もっともっと知ってほしい!

店長 / 野口 忠義

「脳内ポイズンベリー」水城せとな

- 脳内会議が長いので、話がなかなか進まないけれど、展開が面白いので飽きない。

公務員 / 東くるみ

「信長のシェフ」梶川 卓郎

- じわじわ来る面白さ。ドラマは別。

金沢ビーンズ 明文堂書店 / 木村 俊介

「信長の忍び」重野なおき

- 歴史マンガが人気で作品も多いのですが、合理主義とされる信長の人間味に一番迫っている作品かと思います。4コマとしても秀逸。読んだ後には、誰かに歴史を語りたくなりますよ。

毎日新聞デジタル「まんたんウェブ編集部」副編集長 / 河村 成浩

「信長協奏曲」石井あゆみ

- 昨年同様のエントリーとなってしまいますが、月刊紙ということ考えると二年連続のノミネートもやむなしと言ったところでしょうか。

ネクスト KG マネージャー / 藤井 紀公

「ノブナガン」久正人

- 超進化する怪獣軍団に対抗するため集められた、偉人の遺伝子を受け継ぐものたちの壮絶バトル。通好みの細部や設定にくわえ、クセのある作画と大胆な構図には一見の価値あり。

映像系ライター / 縣 丈弘

「ノラガミ」あだちとか

- 少年漫画として、とても正統派なマンガだと思います。多種多様なマンガがある中で、(個人的にですが) たまにフツと戻ってきて原点回帰できる漫画で安心します。これまで数多く積み重ねられてきた少年漫画モノのセオリーにきちんとのっとりつつも、セリフ、絵、コマワリ等々、様々な手法を作者の個性によってきちんと新しく作られています。登場人物がほぼ全て“神”なのに驚くほど人間臭かったり、そのくせやっぱり“神”だから人間には無い悩みがあったりで、感情移入させながらも一歩先行く話しの展開が面白いです。

デザイナー / 佐藤ユウ

「ハイキュー！」古舘春一

- 2012年、間違いなく一番面白かった作品！一番人にオススメした作品でもありました。現状のジャンプの中で、数少ない、『努力・友情・勝利』の王道を継承している作品だと。連載開始時からそうとうアツかったですが、3巻の西谷と東峰のエピソードはハンパなかった！鳥肌と涙が止まらなかったなあ…ストーリーやキャラも素晴らしいけれど、一番目を瞠るのはその立体感とスピード感溢れる『絵』！『魅せる』を極めると、静止画が動画を超えるのだな、と思知らされました。さらなる展開が楽しみでならない、そんな作品です。

芳進堂ラムラ店・コミック担当 / 川崎 一利

- ものすごく新味があるわけじゃないが、青春スポーツ漫画の「美味しい」エキスを凝縮した感じ。絵よし演出よしキャラよしで死角なし。長くなると既存パターンにはまりそうなので、ジャンプは大事に育ててほしいです。

中央公論新社 文芸局次長 / 石田 汗太

「8はち」竹本 友二

- すべての物語が「8」ページで完結するショートストーリー集。が、しかし、もう1コマ目で心を鷲掴みにされる。そしてじわじわこみ上げてくる笑い。日常なのかファンタジーなのか。身近なのに、目線を変えるだけでこんなに面白いネタになる発想に驚く。笑いだけじゃない、どこか哀愁ただよ、この作品を愛しています。

ヴァイオリニスト / 佐藤 帆乃佳

「87CLOCKERS」二ノ宮知子

- 『のだめ』を世に送り出した著者が、なぜ、今、敢えて「オーバークロック」なのか。パソコンを自作したことのある人には堪らない作品。そうでない大多数の人も、秋葉原でパソコン部品を漁りたい衝動に駆られること間違いなし。マニアックでディープな世界にいつの間にか引き込まれてしまうストーリー展開が見事。今日も、「空冷」VS「水冷」の闘いが熱い。

弁護士 長島・大野・常松法律事務所 / 三村 量一

「Hatch」村上かつら

- 未だに恋愛経験がない28歳女子が、あることをきっかけに結婚願望にスイッチが入る。一見、極端なシチュエーションに思えるが、作品の中で描かれるのはすぐ隣にいる“彼女”たち。いるいる・あるあるという出来事、セリフ、感情の動きが随所にちりばめられ、その機微のとらえぶりに脱帽。恋愛・結婚をめぐる女性心理を垣間見る面白さもある一冊です。

ライター・編集 / 島影 真奈美

「BUTTER!!!」ヤマシタトモコ

- 部活やりたい！何かに一生懸命になったり人間関係を良くするために悩んだり、みんなで感動したりしたい！個人じゃなくてみんなで。

カメラマン / 平沼 久奈

- ヤマシタトモコのかく女の子ってけっしてかわいらしくはないんだけど、どちらかという男っぽいんだけど…。二ノ宮副部長の表情にキュンとした。可愛いなと恋に落ちた。他の登場人物もそう。初見はそんなに惹かれないんだけど、ある瞬間の言葉や表情にグッと引かれる。そして一度好きになっちゃうと何度も読んじゃうんです。このマンガ。

鳥取県 米子高校 美術教師 漫画研究部顧問 / 佐川 由加理

- もやもやしたものが、すっきりする瞬間がたまりません。

教師 / 持丸 宏司

「花のズボラ飯」久住昌之 水沢悦子

- 読むのが辛い。お腹すく。読むのが辛い。花ちゃんがかわいすぎる。花ちゃんかわいよ花ちゃんかわいいよ。

京都精華大学特任准教授・NORISHIROKS / ひでつう

「花もて語れ」片山ユキヲ

- 朗読漫画なのに。格闘技漫画を読んだ後のような。この気持ち。

京都精華大学特任准教授・NORISHIROKS / ひでつう

「BABEL」重松 成美

■ 飛浩隆の世界にも通じる。「書物」をテーマにした重厚な SF。この作り込みはハンパねえ。

文筆業 / 海猫沢 めろん

「パラダイスバード」佐藤明機

■ 悩んだ末に著者に対する思い入れから選出。レモンピール系ロリコン-SF 漫画の遺伝子を今に伝える稀有な作家による「ビブリオテーク・リヴ」以来 15 年ぶりの新作。PC 作画への移行と設定から著者独特の世界観は若干薄まっている感はあるものの未完作、「家出王国」がそれらを補っている。作りこまれた箱庭に没入できるか否かで評価が分かれそうだけど、僕は大好きです。

ヴィレッジヴァンガード ファボーレ店 店長 / 西尾 雄太

「バリスタ」花形怜 むろなが供未

■ 「コーヒーを淹れる若き「バリスタ」の成長譚」「本格派珈琲漫画」(ともにオビより)。当初のコーヒーネタ重視のストーリーに加えて、この数巻で物語がどどんうねりはじめ、重厚な味わいや心あたたまる後味の回なども。いまがまとめ読み時です！ 現 8 巻続刊

よろず編集者 / 松浦 達也

「春はあけぼの 月もなう 空もなお」サメマチオ

■ 「枕草子」の場面を現代の日常的場面に重ねて描かれた作品です。昔も今もさほど変わらぬ日本人の姿。「日常的」という言葉で簡単に表現してしまうには勿体無い「をかし」さ。スーッと気持ちよく沁みこんできました。

店長 / 野口 忠義

「BE BLUES ! ~青になれ~」田中モトユキ

■ 一巻から感動で涙が止まらない作品。絵も綺麗だし、主人公を始めとして登場するキャラクターの性格が良くて好感が持てます。大賞として選ばれてもいいと思える、骨太さとよき少年漫画らしさがあります。

オタクタレント / 喜屋武 ちあき

「ヒーローカンパニー」島本和彦

■ ヒーロー物のすべてを知り尽くした上で描かれる、安易なパロディーでは済まされない深みを感じます。大人社会のやり切れなさもほんのり感じさせて、それでいてきちんとギャグで笑わせる。今後がとにかく楽しみです。

医師 / 岸本 倫太郎

「ヒストリエ」岩明均

■ たぶん今年で最後のチャンス (であって欲しい) と思い選びました。本当に誰に勧めても外さないと言い切れる作品です。主人公の知力、行動力、精神力、が周りの人間関係に大きな影響を与えてそれが絡み合って歴史になってゆく。人間臭さと人間の強さが、こんなにも清しく読めるのはこのマンガしかないと思います。

デザイナー / 佐藤ユウ

「ヒストリエ」岩明均

■ じゅうぶんに面白い。でもこれからもっと面白くなるだろう予感が続いている。

声優 / 後藤 邑子

- 最新刊が待ち遠しい歴史漫画。

会社経営者 / 小野 ゆうこ

- 現在7巻まで刊行ってことで、対象になる今のうちに投票しておこうと思いました。岩本明先生の冷徹な視点と、古代オリエントの薄暗く血なまぐさい歴史……最高の組み合わせです。お願いだから、私の目が黒いうちに完結してください！

ブログ「漫画食堂」管理人 / 梅本 ゆうこ

「ヒトヒトリフタリ」高橋ツトム

- 修行のために守護霊となるが選んだ相手が余命1年強の総理大臣。守護霊はもちろんのこと『総理大臣』という仕事は何気にぼんやりしていると思っていたが、守護霊リヨンとしっかりと繋がり国を良くしようとする総理大臣の熱意にやられた！本当の総理大臣もこれくらい熱かったら……。

アーティスト / KG

- 【今】っていう感じです。ただかなり理想だなあ。今のモヤとした時代にスカッとしたい気持ちのマンガです。

カメラマン / 平沼久奈

「ひとりぼっちの地球侵略」小川麻衣子

- これは、かわいい。かわいすぎる。征服されてしまいそうだ……特に強烈な個性がある作品とは思わないのですが、先がものすごく気になる、そして人に勧めたくなる作品だと思います。

会社員 / 林

「ひばりの朝」ヤマシタトモコ

- 危ない。この作品を読んで、危ない共感を得る。一人の少女が周りを狂わせていく。。というより、みんな自分の中に潜む狂った部分が浮き彫りにされるというか……とても危なく、美しく魅力的な作品

ヴァイオリニスト / 佐藤 帆乃佳

「日々ロック」榎屋 克優

- これが埋もれている意味がわかりません。ロックと漫画ってなんでこんなに相性いいんでしょうか。お客さんにオススメしたい作品NO1です。本当泣けてしょうがない!!!

ジャック鷺津駅前ブック館 コミック担当 / 内藤 沙織

- このマンガの主演は、上手いかわなくても、ヤメナイ！上手いっても、ヤメナイ！という、それはそれは暑苦しい！ムサイ！臭い！汚い！うっとおしい！マンガです（ほめてます）。その不純物一切無しの、勢い一転集中のスタイルが、物語終盤の盛り上がり他に追随を許さない圧倒的なインパクトを感じさせているのだと思います。そして読み終わった後には強烈な後味が残って清々しい。

デザイナー / 佐藤ユウ

「百姓貴族」荒川弘

- 昨年『銀の匙』でマンガ大賞2012を受賞されましたが、個人的な本命はこちら！ 実家の農家を舞台に描いたコミックエッセイで、爆笑あり、「命をいただく」ことの意味を問いかける胸に詰まるシーンあり。しかも重くなりがちシーンを適度に軽くしてくれる、エンターテインメントとしての立ち位置が最高です。「銀の匙」よりもリアルに胸に迫るコミックエッセイ、3年ぶりの続刊発売ということで、ぜひこの機会に！ 現2巻続刊。

よろず編集者 / 松浦 達也

「ビューティフルピープル・パーフェクトワールド」坂井恵理

- 美容整形が安価に手軽になった 21 世紀半ばを扱った短編集の第 2 弾。特撮ヒーローになったり、アニメキャラにしたり、もう外見に関してはやりたい放題。勿論、性転換もお手の物。1 巻に出てきた「初恋婚」ってグロテスクな考えだよなあ、などと感心してたんですが、2 巻では「ナチュラル」ってのが特に良かった。岡崎京子「ヘルター スケルター」や貫井徳郎「新月譚」なんかとあわせて読むとより面白いと思う。

米子東高校 司書 / 野間 勤

「ファンタジー」御徒町鳩

- 触れるだけで心がよめてしまうとか。なんて恋愛に向いていない能力なんだろう。実際その能力は、犯罪捜査の一環として位置づけられ、まだ大人ではない彼女にとって、とても堪えられるものではないことは想像に難くない。ただ、もし、それをわかってた上で、全てをひっくり返して受け入れてくれる相手があったとしたら。…まあなんやかんや言ってますが、要はこんなような色恋沙汰にまきこまれてみただけなのかもしれないです。心の裏表全部みせられてもそれでもなお想いつづけられるだけの恋愛に。タイトルの秀逸さが抜群。思春期漫画愛好家にとってマストすぎる作品。

オリオン書房ノルテ店 / 池本 美和

「flat」青桐ナツ

- 去年も推しましたが私にとってとても大切な作品です。心の中がしんとして、自分が今どこに立っているか確かめられるような、まっさらな気持ちに戻っていきけるような作品です。

金海堂イオン隼人国分店 コミック担当 / 園田 美智子

「ブラックジャック創作秘話」吉本浩二、宮崎克

- これを読んで胸を打たれないマンガ好きなんていないはず。「マンガの神様」の泥臭さいエピソードに爆笑しつつも、ただただその情熱と狂気に圧倒されます。マンガ家ほど肉体と精神を酷使する表現者はいないんじゃないでしょうか…。

ブログ「漫画食堂」管理人 / 梅本 ゆうこ

「ブラッディ・クロス」米山シヲ

- 混血（天使と別の種族の子）の主人公が死をもたらす混血の呪いを解くため、純血の悪魔の血を求めるところから、スタートし、「神の遺産」を手に入れるための「聖戦」に進んでいくお話。最初敵の悪魔のモブがビジュアル的にこれでいいのか？と思っていたのですが、読んでいくと、騙し騙されの頭脳戦が小気味好くつつい読み進めてしまう作品。細い線のタッチの作風に、絵柄は好みが分かれるかもしれませんが。

フリーランス / 大倉 壽子

「prism」東山翔

- 描かれている女の子が、本当に可愛かったんです。うつくしい、というにはちょっと幼い、その感じも含めて。続きも読んでみたかったし、他の作品も読んでみたい。描き続けてくれたらいいなと願います。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中 香織

「変身のニュース」宮崎 夏次系

- 理解しえないルールに突き動かされる人々と何が起きてもおかしくない世界で奇跡的に起こるボーイ・ミーツ・ガール。真上からふりそそぐ日差しに何もかも溶けて消えてしまいそうな、大きく余白をとった画面をあいまいに切り取る輪郭線が美しく、ああ、名は体を表すなあ、とひとり納得してしまった。

ヴィレッジヴァンガード ファボーレ店 店長 / 西尾 雄太

- 短編集ですが読後感が物凄くあるものばかりです。切なさや優しさに溢れたお話の数々で最低でも3つは心に残る話が見つかると思います。ありきたりなコメントですが本当に沢山の人に読んでほしいです。

バンドマン / TA-SHI

「鬼灯の冷徹」江口夏実

- THE地獄漫画。日本人の地獄観があって始めて楽しめるので、海外に翻訳されてもこの面白さは分かりづらだろう。日本人だから楽しい漫画。そう思うと贅沢かも。

リプロ池袋本店 コミック係 / 小池 由記

- 苦しいはずの地獄をコミカルに描く、楽しい地獄絵図マンガ。主人公・鬼灯のドSキャラにハマれ！

株式会社ネビュラプロジェクト / 小森 和博

「ぼおるぺん古事記」こうの史代

- ウサギかわいい。ネズミかわいい。イノシシかわいい。キジかわいい。おもちつくすズメとてもかわいい。ぬくもりある描線と趣ある古語が調和し、いとおしくもたくましい物語が立ち上がる。このたくいまれなブレンド。豊穡な沃野のような世界。

朝日新聞記者 / 小原 篤

「僕のおとうさん」アキヤマ香

- 主人公・光太郎の父親は、他人事ながら腹立たしくなるぐらい、善良でチャーミング。主人公が恋した年上のお姉さんに教え子と、あちらこちらで惚れられて、でも本人は全然気づいてない鈍感さがまた、たまりません。どうにも分が悪いと主人公を応援したり、中年男のダサ可愛さを嘔みしめたり、誰の立場に感情移入するかによって場面の印象がガラリと変わる。一粒で二つも三つも美味しい作品です。

ライター・編集 / 島影 真奈美

「ぼくらのへんたい」ふみふみこ

- 男の娘、BL？、百合？…濃ゆい要素たっぷりだねっとりなお話のに、さらりと読めてしまう。けれど、読後は得体の知れないしこりを残してゆく。ふみふみこは今年いちおしの一人。

シンガーソングライターの妻 / 谷澤由香里

「僕らはみんな死んでいる」きら

- 死後の世界の話なんだけど本気で両想いになった人達だけ生きかえれるというお話。結構切羽詰まった感じだけどみんな仲良くなったり裏切ったり。でも裏切り感も優しい感じで読みやすいです。

カメラマン / 平沼 久奈

「ほしのうえでめぐる」倉橋ユウス

- 全10話の短編集でありながら各エピソードや登場人物が様々な関連性を持って描かれており、読み進めていくうちに「なるほど！」と膝を打たされるのがほんと楽しい。ちょいちょい挟んでくる小ネタも絶妙でニヤリ。一度読んだら絶対もう一回読みたくなる作品。

醤油製造業 / 小野塚 博之

「星屑クライベイビー」渡辺カナ

- たしかに少女マンガ的ではあるんですけども。ちょっとした短編の青春小説を読んだあのような。とにかく表題作にやられました。あの頃の自分にとって、今の自分を想像したことはあっただろうか。あの頃にあきらめたりあきらめなかったりしたことが、今の自分にどうつながってるんだろうか。とか。ちょっとだけ感傷に浸ってみたりしてしまった自分がいたので若干気恥ずかしくはあるのですが。うっかり人前で読んで泣いてしまった作品なので、ランキングに選んでみました。

オリオン書房ノルテ店 / 池本 美和

「星屑ニーナ」福島聡

- 人の想いと時間をテーマにした SF です。人はがんばっても 100 年ちょっとしか生きられません。その時間よりほかに長い時間を生きるロボットは時をこえる存在といってもいいかもしれません。このマンガは人の生よりもほかに長く生きるロボットを軸にそこにかかわる人間を描いた作品です。作品ではかなり長い時間がながれるのですが、その間にロボットにかかわった人々の想いが積み重なって行きます。その想いは別の時間でそのロボットを通じて別の人に伝わり、人生を少しずつ変えてゆきます。遥か昔の人の想いが、後世の人の人生を変えてゆく。人の想いもまた時間をこえられるものなのかも。そんなことを考えてしまうマンガです。三巻の帯にこのマンガをよく表してる言葉が書いてありました”涙をこらえて、時間をこえて”

Sler 主任 / 廣瀬 公将

「焰の眼」押切蓮介

- 「ハイスコアガール」が目立っているがこちらの作品の方が面白いよ！設定もさることながらキャラの濃さといったらもう笑ってしまう！パンチ一発で体がバラバラになるってどんな強さだよ!! もうこれはマンガだね！マンガなんだけど・・・

あゆみ BOOKS 仙台店 副店長 / 土屋 修一

「ホテルポパン」有間しのぶ

- 連載終了から 4 年。待望の単行本化です。20 年位前？に連載してた「酔っちゃった」の続編って事を知っている人と語りあいたい。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

「魔界王子」雪広 うたこ (著) 高殿 円 (原著)

- ファンタジーもので、主人公が、魔界の王が眠る間の王 (代理王) を決める権利を持つということで、王になりたい悪魔が押し寄せてくる、というようなお話。でも、主人公が非常にリアリストな部分がまたコミカルさを出しています。絵柄もきれいで、ストーリーもしっかりしているので、すらすら読めます。

フリーランス / 大倉 壽子

「ましろのおと」羅川真里茂

- この作品を通じて津軽三味線が身近に感じられるようになった。

会社経営者 / 小野 ゆうこ

- 気づけば、「ましろ」ももう 7 巻。これと次に出るであろう 8 巻が第一部のクライマックスでしょう。世に音楽マンガは数あれど、絵の迫力やオノマトペ (擬音/擬声語) からこれほど音色のダイナミズムを感じたのは初めてでした。この 7 巻まで一気に読みして頂いて、8 巻をドキドキしながら待つのも楽しいかもしれません。

よろず編集者 / 松浦 達也

- 6巻・7巻で描かれるコンクールでの演奏描写が、音が空気を伝わってくる感覚がするほどの迫力をもって描かれていて、魅了される。1巻が、独立した読み切りみたいな話になってしまっているのと、その後も6巻までの展開がスローペースなのが残念。

丸善・ジュンク堂書店営業本部 コミック総括担当 / 小磯 洋

「魔法少女・オブ・ジ・エンド」佐藤健太郎

- 振り切ってて良い！

漫画全巻ドットコム / 安藤 拓郎

- 既視感強めの作品ですが、これからの進化に期待して。あと、絵が好きです。

メガマソ / 涼平

「ママゴト」松田洋子

- 妙齢独身の女（いや男もか？）でぐくっとは入りこまない人がいるのだろうか。いや、いまい。守るべき「誰か」（子どもとは限らない）と共に生きて行く、ということに痛いほどの憧れを抱いている自分に、あらためて気付かされた。「ママ」ではなく「おばちゃん」のまま、一緒にいることを選んだ二人の幸せが続きますように…。いや、続かなくても、今幸せなことが嬉しい。

マンガライター / 門倉 紫麻

- 失ったものは大きく、そして戻ってくるはずもないもの。しかし、ぼっかり空いた穴を埋めてくれる存在がいつか現れるかもしれない。そんな希望を持た。普通の漫画だとこどもはキラキラかわいく描かれているけど、この作品の中に出てくるタイジは、ぼっちゃり体型でわんわん泣いてニコニコ笑ってとっても人間らしい。だからこそ彼の存在が重要で、ひとことひとこが胸に響くのかもかもしれない。

主婦（元書店員） / 赤坂 真実

- 完結しました。全3巻。これ以上でもこれ以下でもないストーリーの収束。何度読みかえしても溢れますわ、涙が。ごっこ遊びはもう終わり。大人なので、ちゃんと自分で終わらせなければいけないのです。いろいろと身につまされてしまう、いわゆる「泣かせ系」ではない、号泣マンガ。大傑作。

オリオン書房ノルテ店 / 池本 美和

「まりかセヴン」伊藤伸平

- 怪獣特撮好きにはたまらないネタ、設定。

医師 / 岸本 倫太郎

「帝の至宝」仲野えみこ

- 刊行ペースは一年に一冊くらいということでゆっくりですが、その分一話一話じっくり描かれているなあと思います。かわいいです。ピュラブです！

金海堂イオン隼人国分店 コミック担当 / 園田 美智子

「MIX」あだち充

- 自分の主観が大分入ってしまっていますが、やはり王道のあだち充作品！！まだ一巻しかでていないのに、最終話の最後のくだりが気になってしまうあだち充作品。しかも内容がああの伝説のマンガ「タッチ」の主人公が通っていた明青学園中等部！！この最新策は外せません！！

ネクスト KG マネージャー / 藤井 紀公

- ああの伝説のマンガ見た事がない人いますか！？舞台は「明青学園」あれから26年 あだち充が僕らの青春を蘇らせてくれました

コロムビア・マーケティング株式会社 福岡営業所 / 阿部 大介

「みどりの山田君」森ゆきえ

- 草食系でも、好きな人の前では肉食系。人助けがライフワークで、くさいセリフもサラリと言ってしまふ緑色したカッコイイ山田君。みんな惚れてくれ！

店長 / 野口 忠義

「未必の恋」シギサワ カヤ

- 以下のような方にお勧め。(1) 彼氏彼女いない歴=年齢の方 (2) 心にやましいことがある方 (3) 脛に傷のある方 (4) 人間不信な方え、なんでそんな人に勧めるかって？そんなこと聞かないでくださいよ～—— (1) 恋愛って汚いですね！ (2) ほどほどにしておこうと思うかも。(3) 傷をえぐってもらえます。(4) 人が信じられなくなるこってありますよね！

眼鏡時空発生装置 / 田中 海渡

「無邪気の楽園」雨蘭

- 無邪気って怖い……。無邪気ってエロい……。無邪気って……。単なるロリコン漫画でなく、読者を「あの頃 (小学5年)」の気持ちに戻らせて追体験させることでよりリアリティ溢れる作品に仕上がっていると思います。

本と文具ツモリ / 津守 晋祐

「めしばな刑事タチバナ」旅井とり

- 心の底からどうでも良い外食産業エッセイでありながらも、身近な題材なのでつつい顔してしまう共感性の高い作品。外食産業史としても秀逸で、アホくさ…と思いつつ読み込んでしまう怪物。

高野山真言宗・リア住 / 蟬丸 P

「メンヘラちゃん」琴葉とこ

- 発売前に営業さんから一部分グラを頂戴して読みました。その始めが苦手な4コママンガだったのでどうなのかな？と正直思いましたが、続くストーリーパートでいきなりポロ泣きしました…改めて上下巻製品版でじっくり読んでやはりポロ泣き。しかも電車の中で (笑) 精神的にひ弱で前向きにあらうとするがなかなか進めないメンヘラちゃん。病弱だが腐女子の暴走しつつもメンヘラちゃんを労り続ける病弱ちゃん。いたって『普通』の男の子のけんこうくん。彼女たち3人の、微妙な距離感が思いやりに溢れた関係がたまらなく…そこから生じるひと言ひと言の温かさを感じるたびに涙がポロポロ零れてきたのでした。しかもこんな素敵な物語を女子高生が描いたとなれば驚きもひとしおです。ヘタな自己啓発本を読むよりも悩んだらこれを読めば良い。そう思わせる1作でした。

芳進堂ラムラ店・コミック担当 / 川崎 一利

「木曜日のフルーツ」石黒正数

- どのページを開いても可愛いが溢れていて癒される。スゴイ

bar 図書店の店主 / 岡部愛 (のん)

「百舌谷さん逆上する」篠房六郎

- 濃密な篠房ワールドが一つの極致に達した " 愛の物語 "。レギュレーション的に今年度が最後の機会になるはず。

書評家 / 福井 健太

「モブサイコ 100」 ONE

- WEBマンガという新しいメディアで最も人気を博した ONE 氏のワンパンマンに続く新作。絵が下手すぎ。ただ、そこはどうでも良い。内容がずば抜けて面白い。「我々は、この漫画が今 日本で一番面白い漫画だと断言します！ by 裏サンデー編集部」と帯に記載するだけの事はあり（日本一かどうかは置いといて）、妙な迫力と緩急の付け方にヤラれます。霊幻新隆のしょうもなさ最高でした。

DJ / DJ RANUMA

- ネット発で、絵もラフで……と敷居が高そうだけど、実はすごくわかりやすく、読者を引き込む力のある作品だと思う。笑えるのにどこか不穏な空気がクセになる。何度も読み返しました。

ダ・ヴィンチ編集長 / 関口 靖彦

「山田くんと7人の魔女」吉河美希

- ラブコメ……？

金沢ビーンズ 明文堂書店 / 木村 俊介

「幽麗塔」乃木坂 太郎

- 同作家の医療マンガのファンだったので、読んでみましたが、サスペンスホラーというかミステリーという、まったく想像していなかった作品でした。ただ、次から次へと展開していくストーリーに、ホラー要素のある描写の苦手な自分でも、引き込まれてしまい、次刊が待ち遠しいです。

フリーランス / 大倉 壽子

「夢の雫、黄金の鳥籠」篠原千絵

- 主人公のキャラクターがすばらしい！ したたかで、かわいくて、強くて、無垢で、残忍で。「女」が持つべきものを持っている人。好きな人のために操を守ります…なんてぬるいこと言ってたら「お務め」できないわけで「それとこれとは別」な感じがたまらない！ベテランのすごさがよくわかる。

マンガライター / 門倉 紫麻

「妖狐×僕 SS」藤原ココア

- アニメが素晴らしかったので読んでみた漫画。笑いあり、感動あり、癒しあり、からのまさかの展開あり。衝撃的過ぎて丸一日引きずりました(笑)。キャラクターがとても魅力的。御狐神君らぶ。

シンガー / 山野井 千佳

「予告犯」筒井 哲也

- 時代とガッツリ寝る気まんまん！ ネット犯罪、派遣問題、ワープア、格差……とにかく物語の先が気になる！

文筆業 / 海猫沢 めろん

「よるくも」漆原ミチ

- とにかくダークな世界観なのに、なんでこんなに面白いのか！？今一番続きが気になっている漫画です。

株成田本店 とわだ店 / 安田 幸

「夜の須田課長」クマザワミキコ

- 2012 年は数多くの良作短編が出た年だなあとと思いますが、最後の最後にハートを鷲掴みにされた作品。女性（だと思いますが）なのに男性（それも中年）の悲哀を丹念に描き、かと思えば、女子学生からの物語を紡ぎだす。表題の作品だけでなく、すべての短編が「押し」の一冊。

角川書店ニュータイプ編集部 / 鳩岡 桃子

「ライジングサン」藤原さとし

- 日本独特の『自衛隊』、日本人のくせに全然知識が無い。そんな自分をグッと引き込む登場人物達が素晴らしい。10代の頃にこの作品を読んでいたら、ミュージシャンじゃなくて自衛隊員だったかも知れない。

アーティスト / KG

「乱と灰色の世界」入江亜季

- 初期のキラーンズバーンカワイイ！な印象よりダークな面がクローズアップされてきているのだが、表現はどんどん軽やかになっていっている。著者のイメージーションがぐんぐん羽ばたいて、筆が走って止められない感じがイイ。エロいのもイイ。もっと多くの人に読んでほしい！

マンガライター / 門倉 紫麻

- 魔法使いの乱とその家族（みんな魔法がつかえる）とまわりの人のはなし。破天荒で魅力的な乱のお話しもおもしろいが3巻で、起承転結でいう「承」がおこる。そして4巻で「転」。めまぐるしくてついていくのがやっとなのですが、ドキドキが止まらない。深刻な局面なのに、なぜかとつとつと読み進めていけるのは、出てくる登場人物ひとりひとりにが魅力的なのにとどこか人間味があって安心感があるからなのかどうなのか。どうなるか、全く想像がつかない。

株式会社アニメイト / 鈴木 寛子

「リーチマン」米田達郎

- 彼を見て、「わかる～いつかきっと俺も！」という人も、「(友人またはごく身近な人に) ああ～いるいるこういう人」という人もいるだろう、30過ぎてからの夢追い人・米田達郎。カメラがいろいろな所に置かれているような画面構成で、見ている人をぐいぐい引き込んでいく。私小説のような、フィクションのような、不思議な気持ちになれる作品。

角川書店ニュータイプ編集部 / 鳩岡 桃子

- 夢を目指す主人公とそれをただ見守るだけでは無く、口も手も出す奥さんとの生活を描いた作品。とにかくアツいです。読むとこっちまでエネルギーが貰える。そんな作品。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

- 造形師をめざす主夫と働いて主夫を応援する嫁のはなし。夫婦って、こんなにいいんだ～。と、毎話毎話二人の絆がふんわり伝わってくる。ふたりの何気ない「ただいま」「おかえり」などの挨拶で毎日同じ日々の繰り返しの中、お互いのことをきちんと考え、気を遣うそしてお互いを尊重している理想の夫婦象があります。読んでてほっこり幸せになる漫画。うわ～感動する！泣ける！とかではなく、本当にじんわり温かい気持ちになるそんなマンガです。

株式会社アニメイト / 鈴木 寛子

- デザイン会社を辞め、プロのモデラーを目指す主夫マンガ。会社をやめた葛藤や主夫としての葛藤。そしてこのままでいいのかと。そんな夫婦愛が素敵なのです。見た目はごつい主人公米田の優しい人柄がまた共感を呼べます。1巻では、会社を辞めてからの正解の描画でしたが、2巻では震災をテーマに描かれています。あの時、なぜ行動できなかったのか。そんな思いをした人は沢山いたのでしょうか。妻と結婚する時の話もいい感じですよ。お互いを包み込んでいる空気感がすごく好きです。

デザイナー / 平沼 寛史

「リバーサイド・ネイキッドブレッド」有間しのぶ

- さらっとした絵柄の4コマだと思って読んだらひどい目に会いました（褒めています）。別にシチュエーションが近いとか一切ないんだけど、すっごいリアルで、ちょっとショッキングだったので投票します。

フリー WEB デザイナー / 河本 智芳

「りびんぐでっど！」さと

- キャラクター造形、台詞回しを含めたギャグのセンス、ビジュアルの三拍子揃ったゾンビラブコメの大傑作。

書評家 / 福井 健太

「るみちゃんの事象」原克玄

- とにかく何も考えず読みたい。

漫画全巻ドットコム / 安藤 拓郎

「路地裏第一区」ムライ

- この短編集はシュールリアリズムの作家ダリの世界を渡り歩くような感じ。特に大きな出来事があるわけではないのだけど、登場人物のデザインの秀逸さ。作者の愛情を感じます。美術館で作品鑑賞を終えたときに感じる達成感を読み終わったときに感じました。

鳥取県 米子高校 美術教師 漫画研究部顧問 / 佐川 由加理

「路地恋花」麻生みこと

- 京都の路地と、長屋と、職人と、そこにある人情話とはんなりラブストーリー。ゆるゆるとした空気感がすごく和む。

ブロガー / サイトウ マサトク

「私がモテないのはどう考えてもお前らが悪い！」谷川ニコ

- 学校であまり目立たない、一見おとなしそうに見える女の子。その子が、こ、こんなことを考えているの——？！ええええ——！？ 驚きと恐怖の連続です。でもどうしてか怖いものみたさ？で続きが読みたくなってしまいます。そんな中毒性アリです。お気をつけください。

フジテレビアナウンサー / 松尾 翠

- コメディというかギャグというか。清々しい勘違いが楽しい。

株式会社アルナシステム代表取締役 / 平田 淳

- クラスに一人はいる、ぼっちの女の子で主役の智子＝もこっちが痛かわいのですが、だんだん痛さの部分が増えてゆきます。特に小学生相手のカードバトルとか。。でも彼女の今後の描写によっては日本中のひよっとしたら世界中のコミュ障の人たちに勇気をあたえると思うんですが。。

バンドマン / TA-SHI

「ワンパンマン」ONE 村田雄介

- WEB で連載したコミックが単行本化されるのも珍しくない時代になってきました。ただ、WEB 連載はあくまで紙の代わりであり、ブラウザ上で見る事を最大限に活かしたマンガは今までなかったように思います。この「ワンパンマン」、15 話と 17 話を是非 WEB でご覧下さい。紙媒体の代わりでなく、WEB マンガは新しいメディアと気づいていただけたらと思います。

フルハウス八戸ノ里店 店長 / 佐藤 誠

- 圧倒的画力の無駄遣い。強過ぎて笑える！

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店コミック担当 / 山本さとみ

- 全てはワンパンのカタルシスのために。あらゆる伏線、設定、何かしら既視感とパロディ精神を感じつつ敵役たち、全てがそのためだけに存在する。射精の快感に近い、かも…（すみません）大ゴマをハイスピードで連発するウェブマンガならではのリズムもクセになる。

ヴィレッジヴァンガード沖縄エリア エリアマネージャー / 大山 敏樹

- 誰が一番強いのかははっきりしているけど、ひたすら少年漫画の王道をグイグイいく感じがイイです。

教師 / 持丸 宏司

- カタルシス感がハンパない。

公務員 / 東 くるみ

